

海外遊記

再西遊記

途中所見

明治三十八年、僕が第一回の洋行をした時は恰も日露戦争の終つた際でシベリヤは通れなかつたから印度洋航路を取つた。其時には横濱からネーブルスまで三十日かゝつた。今度は朝鮮を経てシベリヤ鐵道でやつて來た。途中で四日泊つたけれども下關からロンドンまで僅か十八日の短旅行であつた。其途中のグリムプスが次の通り。

パゴダ公園の長烟管

朝鮮京城の市中にバゴダ公園がある。加藤清正が日本へ分捕つて歸らうと思つたが重かつたから止めたとかいふ米澤町の公園位の小さなものだが、此處に例の長烟管を持ってブカリブカリやりながらぶらついている立派な男を澤山見た。何をして居るのかと聞いて見たら唯終日ああやつて遊んで居るのだ。是が所謂兩班で以前は官吏になる特權を有つた階級の人達で多少の財産もあるから無職業で遊んで居るのだといふ。併し遊ぶのなら今少し面白く遊んだらよささうなものだが如何にもつまらなさうに遊んで居る。こんな無精な不活潑な人間は始めて見た。京城で見るべき建築は景福宮、昌德宮の外に何も無いらしい。景福宮は前王妃の暗殺された所で今は誰も住んで居ないのみならず、何故か政府が少しも手を入れてないから草茫茫々として建物も所々破損したまゝに成つて居る。薄氣味の悪い様な所だが、兎も角其立派なこととは驚くばかり。何々門といひ、何々殿といひ、何々樓といふ。日本でいへば奈良の法隆寺あたりで見さうなものが前後相接して居る。之を例の朝鮮百姓家の小さなきたないのと比べて考へると、一種異様の感が起る。何時出來たかと云ふと大院君が全國の租備を擧げて作り上げたものだといふ。大院君なら日清戦争の時分に新聞に出た人で僕らはよく知つて居るが、さうして見ると日本が盛に鐵道に金を費つて居た時代に朝鮮では宮殿に金を入れたものと見える。

露國の役人

ロシアは官僚國と聞いては居たが左程とは思はなかつた。而して其役人が皆制服を着てるからたまらない。一度汽車で通つた丈けでは大きな事はいへないが、ロシア政府は此シベリアに大金を費つて役人と軍人を養つて居るのではないかと思はれる位土地の開けた所が割合に少い。赤いチョッキを着た百姓はウラル山の近邊へ行くまで澤山には見られないが金筋は至る處に居る。ロシアへ行く外國人は本國の旅券を持参しなければならぬ。其旅券にはロシア領事の裏書を要する。ロシア内地に宿泊する時は之を警察へ差出して裏書を請はなければならぬ。他の土地へ移る時にも同様である。而して其度毎に手数料を幾らか取られる。是は官吏の養育料を取られる様なものだ。日本でも似た事があるなら止めてもらひたいものだ。

シベリアの秋色

シベリアの風景が單調なことは兼ねて聞及んで居たが如何にも其通り。ハルビンから西へ向て行くと最初の半日は豊饒な豆畠だが其後はバイカル湖まで樹のない乾燥した草原で處々に野馬や駱駝が居る。一寸唐詩選を出して見たくなる。バイカルの近邊には河もあり林もあり林を伐開いた畠も少しはある。夫からウラル山までの大部分は白樺の自然林で其他には何も無い。唯イルクーツクとオムスクで人家の集りを見るばかり。併し僕の通つたのは九月の中旬で此白樺が千里一色の秋を染め出した時だから中々好かつた。特に茫々たる大陸の濕氣のない澄渡つた空氣を通して夕日の光線が水平的に反射される時には他國に見るべからざる高遠靜寂を感じる事が出来る。此様な所で稀に小さな村を見出す事があるが、其村には必ず低い民家の上に超然として天を突く寺の塔が聳えて居る。其塔の淡綠色の屋根の上に金の十字架が日の全く没するまでピカ／＼と輝いて居る。ツルゲーネフの小説にありさうな景色だ。

モスコウとペテルスブルグ

モスコウで見物すべき所はクレムリンの宮殿と多くの大寺院だがクレムリン其自身も半分宮殿で半分寺院といつた方が適當である。流石政教一致の國だ。ペテルスブルグの方も見物すべき所といへばやはり冬宮と寺院だが冬宮はクレムリンに比して遙かセキユライズされて居るし、寺院もモスコウの寺院の如くに露國の特色を顯はして居ない。モスコウの寺は大部分ビザンツ式で寶珠の玉の形をした金張の屋根を戴いて居るがペテルスブルグの寺は他の歐洲諸國のとあまり異つて居ない。モスコウは舊都で商工業が榮えて居る。京都と大阪を一所にした様な土地だが之に反してペテルスブルグはペテル大帝以後の都で江戸よりも新しい。工業で持つよりも軍人や官吏の消費に依つて維持されて居る。贅澤な商店が澤山あるが其持主は、獨、佛、英の外國人が多いといふ話だ。併しペテルスブルグの宮殿はクレムリンと同様に善美を盡し、玻璃の燭臺、金の扉などは數限なくある。歐洲各國を通じて此程の處はヴェルサイユより外にあるまいかと思はれる位、専制君主の威嚴を遺憾なく現はして居るけれ

ども其裡にアレキサンドル二世の暗殺された室があつて、血痕淋漓たる當時の遺物が其まゝ保存されて居るのを見せられた時はゾッとせざるを得なかつた。此世界一の宮殿の主人公が神經衰弱に苦しまれるのは無理のない事ではあるまいか。

大都會の人通り

市中の人通りの多いのを繁華の標準として見れば東京はペテルブルグに及ばない。銀座の町を横切るよりもネウスキー・フロスベクトを横切る方が難かしい。自動車、馬車、電車が餘計に通るからである。然るにベルリンで汽車の乗替に二時間の猶豫あるのを幸に一寸フリードリヒ・ストラセを通つて見たら中々ネウスキーの比でない。更にロンドンに着いて見るとタキシやモートルバスの多いので最初二三日は少からずまごつかされた。五年前に居た時はこんなでなかつたなどと疑つても見たがさう短年月に往來の増す譯もない。やはり自分が其間に田舎者に成つて居たんだ。

倫敦所見

前回の洋行中最後に倫敦を見たのは一九〇九年の夏で今から四年前になる。倫敦の如き舊き所には大した變化もなさ相なものだが實際は僅か四年の間に大いに變つて居た。倫敦紳士の服装はフロックコートにシルクハットが長年定つた習慣であつたのに今はフロックコートが全滅してモーニングコートばかりになつた。シルクハットも大いに減じて來た。婦人の服装がこんなに変るとは意外である。次に前年倫敦の名物に數へられたハムソム・キャブ即ち二輪の辻馬車が殆んど見えなく成つて、タキシ・キャブのみと成つた。倫敦の往來には馬糞が少なくなつた代りに自動車のガスの臭氣が浸み付いて居る。夫から乗合馬車が皆モートル・バスに成つてしまつた。地下鐵道が擴張された。郊外の牧場が市街地に成つた。併し此等の物質上の變動よりも一層面白いことは思想上の變化である。其思想上の變化は日々新聞に出て來る時事問題に現はれて居る。僕は毎朝タイムス待兼ねる様にして讀んで居る。而して三ヶ月滞在の後に頭へ残つたことは何かと云ふと三人の名物男の名に依て代表される所

の三のイズムである曰く

Carlism, — Lloyd-Georgism, — Jarkism

一、カーソンイズム

日本を立つ前に英國の新聞を見ると Ulster 問題がよく出て居た、併し、別に面白いとも思はなかつた、此處へ来て見たら面白く成つた。愛蘭の Home Rule 卽ち自治案は古い問題でグラドストーン以來自由黨の政綱の一に成つて居る。夫が今の少壯内閣の力で實行されんとして居るのだが愛蘭の北部にアルスターと稱する一地方があつて中々承知しない。其理由は元來愛蘭人は舊教を奉じて僧侶の勢力に左右される人間であるのにアルスターの人は十七世紀の初から移住した蘇格蘭人で嚴格な新教徒だから萬事意見が合はない。而してアルスターは工業地、其外の愛蘭は農業地だから利益も一致しない。然るに自治案が通過すれば少數のアルスターが多數の愛蘭人に壓せられるのは當然だ。そこで愛蘭人は合衆國の一部に自治案を行つて自己の天地を打立てようと主張するがアルスターは之に反して英國の中央議會の

下に居らうと固執する。併し中央議會には自由黨が愛蘭國民黨と提携して多數を占めて居るから到底尋常一樣の手段で自治案の通過を遮ることは出来ない。然らばどうするか、曰くアルスターは義勇兵を組織し兵器を調べて自ら守る。若し愛蘭の多數黨がアルスターを仲間に引入れんとするならば武力に訴へて抵抗する。英國國王陛下の軍隊はユニオン・ジャックを懸す所の忠良なるアルスターの義勇軍に對して砲火を發する事は出来まいと云ふて居る。多數の壓制に對して少數の獨立自由を守るには頗る有力な方法だけれども平和主義の二十世紀には不似合な蠻勇とも見える。此義勇軍の實際の音頭取は誰かと云ふと保守黨の名士でアルスター出身のサー・エドワード・カーソンである。彼は先頃所に演說會を開いて内亂の危険を唱へ政府の反省を促した。政府當局者も又演說して之に答へ今はアヂテーションの時代を去つてコンシリエーションの時代に入つたらしい。結局アルスターはホーム・ルールの内に更に小なるホーム・ルールを許さるることに成るのではないかと思はれる。獨立自由の尊きは蠻勇の厭ふべきよりも尊いのである。

二、ラーキンズム

James Larkin は年の頃三十餘と見える無髯の一青年である。彼は兼ねてダブリンの運搬夫同業組合の幹事と成つて同業者のために働き、其リーダーと仰がれて居たが今年の夏以來大運動を起して職工界の巨人と成つた。其次第は八月頃同地に小罷工が起つた時に彼は熱辯を振つて他の組合の會員に訴へ同情的罷工の *sympathetic strike* を要求した。夫が忽ち成功してダブリンの船渠倉庫工場が全部營業停止の状態に陥り飛火がリバプールの港に及んだ。英國の有力なる職工組合は金と食物とを送つてダブリンの罷工者を助けた。ラーキンは一時不敬の演説をしたと云ふので警察へ擧げられたけれども間もなく許されて出獄した。そこで彼は直ちに英蘭に渡りマンチェスター、ロンドン其他の土地で大演説を開き數千の聽衆を集めて全國の總罷工を主張した。問題は全國職工組合聯合會の議に上つたけれども流石に老熟なる大組合の幹事連は此突飛なる提案を退けたから大したことはないならなかつた。今全國聯合會の代表者がダブリンへ出張して同地の雇主と交渉中である。兎も角貧弱なる愛蘭の人足組合

を率ゐて四ヶ月間頑強なる罷工を繼續せしめた所のラーキンは一代の快男兒である。併し是も英國の職工組合全體が進歩して居るから出來たと見なければならぬ。而して此に雇主及社會全體の側から見ると恐るべき新傾向があると云ふのは所謂シンパセチックストライキの勢力である。此方法はサボターヂ即同盟怠慢と並んでシンデカリズムの武器とする所である。シンデカリズムは理論上全部排斥すべきものであるまいけれども今の處では危険ある革命的精神を帯びて居る。今後其危険なる手段を避けながら其正當なる要求を充たさんとするのは容易の事でない西洋文明の前途亦多難なる哉だ。

三、ロイドジョーヂイズム

十九世紀の末から二十世紀の初へかけて凡そ十年間ばかりは帝國主義の全盛時代であつた。南阿戰爭は此時代に戦はれた。時の政府は保守黨であつた。然るに一九〇三年關稅改革の可否論の爲に保守黨の分裂を生じ一九〇五年に自由黨内閣が出來てから形勢が一變して内政改革特に社會政策の時代と成つた。特に一九〇八年首相サー・ヘンリー・カメルバンナーマが

死んでアスキスが總理となりロイド・デューヂが大藏大臣と成つてから改革運動が急進的と成つた。老年者年金法、最低賃銀法、國民保險法、土地増價税が續いて通過した。一九〇九年の豫算案は社會主義的なりとの理由で上院の否決する所と成つたが政府は一面に愛蘭自治案を進行せしむると同時に他の一面に於て土地改革案を提出せんとして居る。土地改革案は大地主の専横を制せんが爲に官吏をして土地評價を爲さしめ土地收用の範圍を擴め農夫の最低賃銀法を設けんとするものである。英國には既に工場法の如き雇主、責任法の如き、同業組合法の如き自由放任主義に反する所の政策が行はれては居たが此の如くシステムチックに財産所有者の所得に課税して一般平民の利益を増進しようとする所の大政策が組立てられた事はないのである。而して此所謂社會主義的なる新自由主義の鬪將は誰かといふとウェールズの一寒村から出て來た四十歳の少壯紳士ロイド・デューヂである。此新自由主義は英國の民衆政治及個人獨立の精神に對して幾多の難問題を提出するものであるが、兎も角現に自由黨の政治をして此の如く活氣あらしめ、英人をして社會改革の大問題に猛進せしむるものは是より外にないのである。ロイド・デューヂは將來グラッドストーンに次いでの大宰相として歴史に其名を止めるに違ひない。

(一橋會雜誌・大正三年一月)

英國學者の日本觀

西洋人が日本を了解することは非常に困難に相違ない。歐洲へ來て見ると隨分噴飯に堪へない様な質問を受けるのは珍しくない。誰かの洋行土産に「西洋馬鹿問答」といふのがあると聞いたが至極尤もなことと思ふ。曰く日本に電燈電車があるか、曰く日本の婦人は外出せぬか、曰く日本に阿片が流行か、曰く日本も支那も共和國になるか、曰く日本にマホメット教があるか、こんなのは數ふるに暇あらずだ。併し近年では日々のタイムスに海軍收賄事件の電報通信が出る様に成つただけであつて日本通も亦中々少くない。併し余が此處に紹介して見たいと思ふのは特に日本通を看板にして居る人でない。G. L. Dickinson と云うてケンブリヂ大學の政治學の講師、近頃新進の思想家だがこの人が一昨年から昨年へかけて東洋漫遊に行つた時の觀察談である。是は余に對しての談話ばかりでなく同氏講演のプリントにも出て居るのだから極く正直な意見に相違ない。同氏曰く「日本は古代のギリシャを偲ばせる國である。風俗丈け見ても男が寛かな衣服を着て手足を顯はして居る。さうして其體格がプ

ロボーションを得て居る。日本の若者が明月の夜海岸で柔術(角力のことならん)を稽古して居る所は如何にもヘレニックだ。又日本には古代ギリシヤと同じく美術が到る處にある。茶碗とか土瓶とかの如き極めて普通の日用品が美的に出来て居る。日本の家は美的見地から見て完全なものだ。之に加ふるに日本人の性質單純で感情的で笑ふに早く争ふに早く人を殺し又は自ら死ぬにも早いといふことを以てせよ、日本とギリシヤの類似は外觀ばかりでない。唯日本がギリシヤに比して異り且劣つて居ると思はれるのは比較的智的方面に發達して居ないことだ。日本人は何も自ら創造した事がない。日本は今まで支那から萬事を學んだ。今は萬事を西洋から學んで居る。日本はギリシヤからソクラテス、プラトーン、アリストートル、ソフォクレス、ツイデイスを除いたものだ。」併し日本の似て居るものはギリシヤのみでない。日本に維新當時まで行はれて居た封建制度は歐洲中世の封建制度の生きうつしである。勿論日本ではローマ教會の倫理的的政治的影響を受けなかつただけ事が簡單に成つて居るけれども、社會に武士の一階級が發達して忠義、勇氣、名譽を貴ぶの風を興したことは彼此同一である。此風は現今でも日本の人心の内に生きて居る。是が日本と支那との相違である。日本人の特色はシバルリーである。」日本は支那や印度と異り西洋の文化を輸入するのに他

人の手を借りずして自らやつた。而して其結果は驚くべき大變化である。此程の變化は世界の歴史に其例を見ない。もしありとすれば昔日本自身が支那の文化を採用した時代の夫であらう。」そこで西洋の文化が日本に與へた結果は如何。先づ外觀を見るに舊日本に於ては何でも美ならざるはないが新日本に於ては醜ならざるはなしといひたい。東京の市街は其西洋化されてる限り最も見にくいものの一例である。其西洋風の建物の無意味なこと、其銅像の怪異なこと中流以上の男子の洋装の俗悪なこと、而して日本の陶器、漆器、織物縫針等は工場制の擴張に伴れて衰へんとして居る。日本人は善惡共に西洋を學ばんと力め、其何れの點に於ても西洋に負けぬといひたいのだ。」次に制度方面を見ると此處にも近世の工場工業の缺點が恰も歐米に於けると同じく日本を襲つて來た。日本には今や貧民問題、失業問題を生じつゝある。工場生活は不健全であるが日本では工場法がまだ紙上に存するのみだ。富の發達は其分配の不均等を伴つて居る。而して財政上の收入を必要品に對する課税から取るために此弊害は甚だしきを致しつゝある。」過去と現在東洋の傳説と西洋文化と相戦ぐこと日本に於けるが如く甚だしきはなし。而して此混亂狀態の解決は日本人自身の手にあるなり。」

開戦前後

本意ならずも數ヶ月を怠つた其間には多少材料も溜つて居るが此に意外の大事件が起つたか
ら他の事は後廻しにして先づ其大事件に筆を染めて見る。

意外の大事件とは何か。いふまでもなく歐洲大戰である。僕が此戦争を如何に見たかを書
いて見たのである。

昨年秋渡歐するときには今回の洋行中に戦争が見られるとは夢にも思はなかつた。寧ろ大
ストライキが見られるだらうと豫想して居た。

ロンドンへ着いて見ると、國際平和運動の頗る盛なのに氣が付いた。十一月に社會主義者
の平和大會が開かれてフランスのジョーレー（今度の開戦の際暗殺された人）杯が演説した
ことがある。其頃僕はこんな説を立てた。今の世の中に軍備は必要だが戦争は起らない。貿
易上金融上の國際關係が緊密に成つて來たから如何に無謀の政治家でも好んで戦争を行ふこ

とはあるまい。仲裁裁判で國際葛藤を片付けることも出來ないから、今の處は軍備競争が益
益盛になり各國の租税の負擔が愈々重くなつて社會の叛亂を起すか、さもなければ漸次民衆的
勢力に押されて軍備縮少を餘儀なくされる様になるのであらう。

英國にも軍備黨はある。彼等は一九〇〇年に初つた獨逸の海軍擴張計畫が明かに英國を敵
とせるものだと信じて英國の軍備擴張を主張して居る。ロバート元帥の如きは十數年來頻り
に獨逸の野心を説明して英國の海軍擴張の已むべからざるを論じ且陸軍も徴兵制度に改めな
ければならぬと叫んで居た。併し英國人の多數は此説を好まなかつた。昨年末海軍豫算が世
間に知られた時にも自由黨員中に其金額の多過ぎるのを攻撃したものは澤山あつた。兎に角
英國の輿論は近來頗る平和主義に傾いて居たことは明かである。

今年の春になつて一月許りパリへ行つて居た。フランスの新聞を見ると思つたよりも遙か
に物騒である。フランスでは昨年ドイツの陸軍擴張の向ふを張つて三年兵役を復舊した際
であるから、此問題が喧ましく論じられて居たが、其全體の調子に依て如何にフランス人のド
イツに對する悪感が甚しいかを知り得たのである。一部の平和論者は戦争の動機は政治家、
軍人等の野心にありと解して居るがフランスの模様を見ると中々さうとはいへない。一般人
遊外海記

民がイザといへばワアツと應ずべき勢を示して居る。プラーヌ・ド・ラ・コンコルドにあるストラスブルグの女神像には何時見ても黒布を懸けた花輪の新しいのが捧げている。

冷靜に考へて見ればアルサス、ロレーンを佛領にしても獨領にしても兩國人民の不幸に差を生ずるものでない。一八七一年にドイツが此地を取つたためドイツ人は唯帝國の地圖を大きくした外に何の得る所もなく、却つて其地の守備のために莫大な費用を投じて居る。今度佛國が是を取返した處がやはり同じ結果になる。而も取返すためには人を殺し、金を使はなかりやならぬ。そんな餘力があるならば外になすべきことは澤山ある。

此邊の道理は追々西洋人に分つて來る様だけれども中々分り切らない。フランス人は機會さへあればアルサス、ロレーンを取返さうと意氣込んで居る。ドイツ人は取返されてはならぬと頑張つて居る。是では戦争も起り兼ねぬと思つた。けれども其戦争が二月後に起らうとは知らなかつた。

六月の末から再びバリへ出掛けた。或朝新聞を見ると奥匈國皇太子及び妃がボスニアの首府セラジエボで暗殺されたといふので其肖像が出て居た。一九〇八年ボスニア、ヘルツェゴビナの二州が奥匈國に併合された時にも僕はバリに居て其新聞を讀んだが今又此地でボスニ

アの事件を聴くわいと思つた。而して奥匈國の様な人種の入亂れた國は厄介なものだ、其主權者は氣の毒なものだと思つた。唯夫丈の考であつた。

イギリスへ歸つて見ると昨年來のアイerland問題が益複雑して來て殆んど行詰りの姿になつた。アルスターが十萬の市民軍を組織したのに對して、ナシヨナリストも同數の市民軍を組織した。國會でも兩黨軋轢して議場喧噪の爲に議事を中止したことがある。英國議會では實に稀有の珍事である。そこで終にはキングが仲へ立つて兩黨の領袖をバックingham宮へ召集して相談させることに成つたが是も結局談判不調になつた。氣の早い連中は愈々内亂が起るといつて居た。僕はマサカと思ひながら手に汗を握る様な氣持で見て居た。其内に七月二十七日が來た。

七月二十七日僕がロンドンへ出て居た日曜日である。新聞を見ると一方には昨日ダブリンでナシヨナリストが銃器を密輸入した爲に常備軍と衝突して死傷者を出したとある。他の一方には皇太子暗殺以來奥匈國とセルビアとの間に進行して居た談判が不調に成つて昨日兩國軍隊の兵火が交へられたとある。奥塞の衝突はバルカンに於ける奥露の權力の衝突を意味するから容易なことではないが、火事を消止める餘地はまだ充分ある。夫で僕の目にはアイル

ランドの事件とセルビアの事件と同等のインプレッションを與へたに過ぎなかつた。

バルカン問題に就ては又前例に依つて列強の仲裁會議が催されることと見越して居た。果して外務大臣サー・エドワード・グレーはロンドンに於て、英佛獨伊の會議を開きたいと申出した。併し今度は様子が少し變でドイツが此交渉に應じない。其内にロシアが一部動員を行ふ。ドイツも動員する。フランスも動員する。而して八月二日の土曜日にカイザトはロシアに對して宣戰した。僕と同宿して居たドイツの青年は大急ぎで歸國した。是より先き英國の議會では三十日に兩黨の領袖が一切の内國に於ける紛争を捨てて對外の態度を鞏固にしようと言言した。バンクレートは三分であつたのが木曜日に四分となり、金曜日に八分となり土曜日に一割となつた、株式取引所は金曜日に閉鎖された。

新聞にはアイルランドのアイの字をなくして唯戰爭のことばかり出て居る。

月曜日即ち八月三日の議會に於て、外相は英國が佛國を助くるの外なきことを説明し、藏相はモラトリアムを提出し、且バンクホリデーを三日間延長しようと申出した、此日にドイツはフランス及びベルギーに宣戰した。イギリスはベルギーの中立保證をドイツに求めたが其時にはドイツ軍は既にベルギーの國境を越えて居た。英國はドイツに對して宣戰した。

青天の霹靂といふか急轉直下といふか、僅か一週間の間に天下の形勢は一變したのである。自治問題に就て組織されたアイルランド二大市民軍は犬猿の争を忘れて今後は手を携へて其島を護らうというて居る。毎日の様に教會や博物館の寶物を荒らし廻つたサフラゼットも其運動を中止すると宣言した。そこらに起つて居たストライキも雇主雇人兩方の讓歩でずんずん片が付く。正金銀行に勤めて居る日本の一青年はバンクホリデーが延びたといふのでケンブリヂへ遊びに來た。夏季講習に出席するため來て居た佛獨大學生は皆ケンブリヂを去つてしまつた。

僕は何の仕事もせずに毎日新聞ばかり読んで暮した。而して考へた。抑々、塊がセルビアに對して宣戰したのは頗る亂暴である。他國の内政に干渉しようとして其國が従はぬといふので砲火を放つといふ道理はない。露が動員したのも不都合である。セルビアが自分と同じスライヴ人種だからとて直ちに之を攻撃した所の塊國に喰つてかゝる理由はない。併し是は要するにセルビアの問題であつて兩國直接の問題でないから列強の壓力を以て抑へれば戦争をバルカンに局限することは出来るわけだ。夫をやらなかつた第一の責任者はドイツである。カイザトは八月二日の晩に伯林宮殿のバルコニーから演説して「劍は我手に推付けられた」

と叫んだけれども實は御自分の左手で右の手へ推付けられた様である。

併しながら、翻つて過去二十年の歴史を顧ればカイゼルの言にも意味があるといへないことではないかも知れぬ。ドイツは活氣満々たる青年國である。人口は増殖する。富は蓄積される。商工業はフランスを凌いで英國に追付く。獨逸の商船は世界中に往復する。獨逸の商人は世界中に活動する。此の如き國民は何とくして領土を擴張して世界的大帝國を打立てたくなるものだ。是はカイザーの厚望ばかりでない國民の虛榮心が要求するのだ。然るにドイツは良い植民地を有つて居らぬ。何故有たぬかといへば英佛が先廻りをして早く繩張りを定めたからである。而して彼等老物はアンタントを結んでドイツの領土侵略を邪魔する。一九〇五年にも一九一一年にも其手で抑へられた。其潛勢力が充満して遂に爆發したのである。

尤も此理由に依つて歐洲の大亂を捲起し幾萬の健兒を殺し、世界文明の進歩を止めても差支ないといふ譯には行かまい。ドイツが眞に實力ある國ならば戦はずして領土擴張の目的を達し得らるるだらう。又領土擴張を爲さずとも世界に横行するのは容易なことだらう。戦争をして勝つて威張らうといふのはどうしても人道に反した考である。けれども今の西洋人には人道といふものが分つて居らぬ。キリスト教が分つて居らぬ。今度の時局に際して最も平

和維持に熱心であつたのは英國だが、其英國は即ち既に領土擴張に飽きた國柄である。

主戦論と非戦論

七月廿九日奥國のセルビアに對する宣戦から八月三日英國外相の議會に於る言明まで六日間英國の輿論は主戦論と非戦論に分れて大いに争つた。七月卅日の議會の状態を見れば大多數の人は開戦も亦止むを得ずと覺悟して居た様ではあるが非戦論の火の手も中々強かつた。

主戦論の方ではタイムス其他の保守黨の新聞が僕の眼に觸れた。タイムスの論は若しイギリスがフランスを助けずに中立するならば、是は條約上の義務に背くとはいへないけれども道徳上の義務に背いて居る。フランスは友國である。此未曾有の危機に際してイギリスの助力を期待して居る。是を助けずんば英國の友情は頼むべからざるものといふことを證明するのだ。一九〇〇年南阿戰爭の時にはドイツが其機に乗じてイギリスを討たうとしたけれども佛露が應じなかつたから止めたではないか。今後もし同じ様な場合に佛露がドイツに加擔したならばどうするか其の事を思つて今は宜しく奮發すべしといふのだ。所が此に有名な平和

論者でノルマン・エンゼルといふ人がある。此人が早速タイムスに投書して曰くフランスを助けるのはつまりロシアを扶けてドイツを打つことになる。ドイツは文明國である。ロシアは未開國である。英國人の人道的精神は未開を助けて文明を征することを肯じるだらうか。又假りにドイツが勝つた場合を想像してベルギーがドイツの領分になつたと假定せよ。獨立心強きベルギー人がドイツの専制に服する筈はないからドイツは内政上の困難を増して弱いものになる。故に英國は中立すべし。

ロシアを助けてドイツを伐つての愚なることを信ずる人は中々多い様であつた。ケンブリジの教授連も數十名の連署を以て同様の公開狀を發表した。マンチェスター、グラスゴウの市長、リンコルン、ヘレフォードの僧正等の公けにした論も同じ趣意であつた。自由黨の新聞も同様に論じた。

僕が最も興味を以て觀察したのは労働黨、社會主義者の意見である。平時に於て彼等のいうた所に依ればもし戦争が起れば各國の労働者は聯合一致して大ストライキを起し戦争を不能ならしむるといふことであつた。然るに今日の狀態は如何。ドイツでもフランスでも社會主義者が率先して義勇軍に加入して居る。平素カイゼルを敵の様に見て居るドイツの社會民

主黨新聞フォルヴェルトはカイゼルの平和政策を賞讃して居る。ベルギーとフランスでは開戦以來人材内閣が出来て社會黨の領袖が入閣して居る。そこでイギリスの社會黨は如何に動いたか。

八月二日の日曜の午後、トラファルガー・スクウェアでデモンストレーションが開かれた。トラファルガー・スクウェアの戶外演説は殆んど毎日曜の出来事で珍しくもないが、此日は特別である、白髮の労働代議士ケーヤハーデーを初めとして其他の名士がインタナショナル・ソシアリスト・ビューローの名を以てロンドン市民に訴へんとするのである。ケーヤハーデーは熱辯を振つて曰くドイツの労働者はフランスの労働者に恨を有たない。イギリスの労働者はドイツの労働者と争つて居らない。而かも各國の労働者は互に兵火の間に見えんとして居る。是は何故であるか。祕密外交の結果たるアンタンやアライヤンスのためではないか。我々人民は此外交に對して毫も發言の權を持つて居らない。従て其結果に就て責任をもたない。抑々戦争は罪惡ではないか。而して今や自由黨も保守黨も、一致して戦争に行かうとして居る。教會も無力である。我々は英國の海岸が攻撃されもせず、英人の自由が侵害されもしないのに何の必要あつて戦ふか。労働者よ。非戦のストライキを起せ。

ネルソン塔下に集まつた數千の公衆は喝采したが併し中に反對者があつた。彼等は社會主義の赤旗を奪つて泥の上に倒した。他のものが之を取返さうとするので一捫著あつた。是も英國の集會には珍しいことだが今日は不思議でない。此處から程遠からぬホワイトホールには連日内閣會議が開かれ、日夜數千の公衆が門外に集まつて大臣や在野政治家の出て來る度に喝采して居るのだから非戰論杯流行るわけがない。

其翌日の議會は歴史的討論の場所であつた。

外務大臣サー・エドワード・グレイは此數日間に於ける外交の顛末を報告して戰爭の已むべからざるを説いた。彼はあらゆる手段を盡して平和を維持せんとしたが遂に失敗に終つた。吾々は假令條約上の義務はなくとも英國の名譽のために此際フランスの國難を傍觀するに忍びない。若しフランスの北西海岸に獨逸の海軍が侵入するならば英國は全力を盡して之を防がなければならぬ。といふてゐる間にドイツの陸軍は白耳義の中立を犯した。最早英國は坐視することは出来ない。名譽のために、又利益のために。

保守黨の首領ボナーローは直ちに双手を擧げて賛成した。アイルランド黨の首領レドモンドも亦確かに後援を誓つた。獨り労働黨の代表者マクドナルドは敢然として反對した。政府

の方針は誤つて居る。人心冷靜に歸した時に考へ直したならば當局者は必ず今日の事を悔ゆるであらう。

斯くの如くにして英國の社會黨は最後まで開戦に反對した。併し實をいへば領袖の反對して居る下に一般労働者は最早熱狂して居たのである。其ためであらう。マクドナルドは其後院内總務の任を辭した。

翌日の新聞を見ると昨日まで熱心に非戰論を説いたものが方向を一轉して最早濟んだ事は仕方がない。我々は今後此戰爭熱のために民主主義の氣焰の衰へんとするを防がんといひ出した。

非戰論のデモストレーションを爲すべく集まつた所の社會黨、労働組合、婦人團體の幾つかは急に目的を變じて戦時に生ずる貧民の苦痛を救濟すべき方策を討議して政府へ建言することに成つた。

労働者大臣ジョン・バーンスは兼ねての持論に鑑みて辭職した。併し彼は同時に政府の組織した戦時貧困救濟委員會議長となつた。

かくの如くして八月四日以後には非戰論は最早聞えなくなつたが、そこで僕の机の上に殘

つた本が二冊ある。一は英人ノーマンエンゼルのグレート・イリュージョン、一は獨人ベルンハルト將軍のデアーマニー・エンド・ネクスチ・ウォアである。是が恐らく過去一週間に最も多く賣れた書物であらう。兩書とも新刊ではない。一九一一年か一二年、英獨の造艦競争が益々激しくなり、佛獨國交の危機が屢々至つた頃の著書である。併し唯時局を論ずるに止らずして戦争の可否といふ根本問題に觸れて居る。一は根本的に戦争の愚なるを説き、一は根本的に戦争の正しきを論じて居る。一はゴブデンやブライトの遺鉢を繼いで世界主義の光を認め、一はトライチクの流を酌んで愛國熱誠を顯はして居る。ノルマンエンゼルは曰く戦争の終局は領土の擴張にあり。併し領土を擴げても國民の幸福には何等の増減なくして唯戦の爲に人命と資本を破壊するのみである。ロンドンがバーミンガムの土地を併せたとてロンドン市民の幸福にならぬ如く、ドイツ人に取つて無益なことだ。例へばドイツがカナダを領分に入れた所で個々のドイツ人は一文も利益もない。カナダの土地には夫々持主がある。其持主を逐拂ひ其の財産をドイツ人に分配する譯には行かぬ。昔は殖民地に重税を課して本國を富ませる事も出来たかも知れないが今は夫も出来ぬ。昔は殖民地の商業を獨占して法外の利益を得たかも知れぬが今はそんな譯には行かない。カナダは自治の國である。其門戸は

各國に向つて開放されて居る。イギリス人でもドイツ人でも行きたいものは行くがよい。何も其地を取らなければ過剩人口も移す途がないといふことはない。現今、パリにもロンドンにも數萬のドイツ人が居る。パリやロンドンは其程度に於てドイツ人の殖民地である。即ちドイツの殖民地として誇る所の東アフリカや太平洋諸島よりも遙かに大きな殖民地が英佛に出来て居るのだ。この如き自由の世の中に何を苦しんで戦争するか。英人はドイツ人が海軍を擴張して此國を取りに来るといふが、假りに英國がドイツの屬國に成つたらどうする。英人は相變らず英人である。獨にはならない。然らばドイツ軍の侵入は恐るるに足らず。ドイツが其のために軍費を浪費するのが愚である。英人が其向ふを張るのも愚である。

こんなことが書いてある。僕は是を讀んで一寸問うて見たく成つた。ドイツ人はカナダへ移住するからいゝが日本人は移住を制限されて居る。日本の場合には國を取りに行つても宜しいといふことになるだらうか。

次にベルンハルト將軍は何といふか。強者が弱者の地位を奪ふのは生物學上の法則だ。人類の歴史に於ても實力ある國民が實力なき國民に代つて世界を支配するのは當然のこと。是があるが故に人類が進歩する。若し此當然の法則を行はしめるために戦争すれば戦争は人道文

明の要素である。戦争は國民の智力徳性の優劣を試みる機會である。戦争に勝つたものが敗けたものを制すればこそ智力、徳性の優秀なるものが世界を指導することになるのである。ドイツは實力國內に充溢して居る。英國は最早老衰した懦弱の國民である。ドイツがイギリスを倒して世界の主人となるのは人道の爲ではないか。

こんな意味に僕は讀んだ。此にも質問したくなる。生物學上の原則として強國が弱國を伐つのは當然といふならば強い個人が弱い個人を伐つのも當然といふことになる。然らば國家を組織して弱者の權利を保護するのは人道に反して居ないか。

兩方ともに丸呑みに賛成は出来ないが面白い本だ。ノーマンエンゼルは日本譯が出て居る筈だ。

戦争 經濟

時局が切迫してから一時英國の經濟界には非常の恐慌が起つた。七月二十七日の月曜日に僕は所用あつて正金銀行の支配人室に居たら、株式仲買が來てマーケット、イズ、テリブル

というて居た。併し其後は益々險惡になつた。七十三四以上を稱へた居たコンソルが六十九に下り、仲買人が二三支拂停止をした金曜日には取引所が閉鎖された。夫から今日まで一月以上になるがまだあかない。

英蘭銀行はこの一週間に日歩を度々上げて三分から一割まで飛ばした。

幸にしてドイツの開戦は土曜日だつたから其翌日は日曜で休み、又其翌日は例年のバンクホリデーで矢張休みだ。此間に大蔵大臣ロイドジョージは大銀行家と相談して救済の方法を講じて置いて月曜午後の議會に承認を求めた。其一是八月四日からモラトリウムを布くといふこと。モラトリウムとは教科書になささうな名だが要するに借金の延期を許すことだ。次の提案は八月三日以前に引受けられた手形を政府が保證すること。是は一寸聞くと分らないが實は容易ならざる大膽な計畫である。何故かといふにロンドン是世界の外國爲替の中心であるから英國と諸外國との貿易に用ひる爲替は勿論のこと、歐洲各國、米國、東洋、南米、濠洲が五の間に取引すると其の代金をロンドン爲替で支拂ふから夫等の爲替が集まつて居る。特に近來貿易が好況であつたから爲替の集まる高も多かつた。而して此等の爲替はアクセプト・ハウス即ち引受人と稱する金持連中の引受保證に依てロンドンの銀行が買つて居る。

然るに今はロスチャイルドもペーリングも宛にならなくなつて來た。打捨てて置けば銀行が困るから政府が再保證をして英蘭銀行に割引させる事としたのである。或銀行家の説では此保證した手形の金額は三億ポンドもあるといふ。勿論政府が保證するといへば一億ポンドが全部割引される譯ではないが兎に角其大責任を負ふたのである。ロイドジョーヂといふ人は社會政策家として實に大膽な男だが戰時財政家としても同様の大膽を發揮した。

夫から尙一つ頗る頓智に富んだ方策を出した。夫はバンクホリデーを三日間延長しようといふのだ。是は英蘭銀行の當局と相談して極めるべき通貨政策がまだ遺つて居る。其相談を一方にしながら人心の激昂を治めようといふのであつた。

全體英國人は昔から金貨の使用に慣れて居るためか金でなければ貨幣でない様に心得て居る。今度も英蘭銀行の兌換券を疑つて金の取付をするものが出て來た。土曜日の朝は群を爲して英蘭銀行へ押かけたといふ。そこで此恐怖心を抑へるには第一海軍の力で大西洋の海權を握つて置いてアメリカから金を輸送させるのが最上の策だ。金が來れば取りに行くものはないのである。實際金の來ることは分つたから夫で休日明けの金曜日には靜かになつた。

併し金の取付を抑へる丈けでは行かぬ。一般の信用が止れば現金が澤山要るから通貨を供

給しなければならぬ。其方法は例に依てバンクアクトを中止してもいゝが今度は別の方法を取つた。是は政府紙幣額面一ポンドのと十シルリングのとを發行して英蘭銀行に渡すのだ。

此の如くすれば市中の通貨が殖えるばかりでなく銀行に金を集中することが出来る。何故ならば平生五ポンド以下の取引に金貨を使って居るから其金を引上げて代りに紙幣を流通させれば銀行の金が殖える。尤も一ポンド以下のノートは初め多少疑はれたけれども間もなく自由を受渡される様になつた。是は當然の話で日本などは平生から二シルリング（一圓）のノートを澤山使つて居るのだ。此案は六日の木曜に議會へ出したのだが其時の大藏大臣の演説が面白い。公衆にしてセルフィッシュな考から金を溜め込むものは國民の敵を助けるも同じことである。否劍を以て我國に双向ふ以上の罪惡である。

是で通貨信用の方は片が付くが其次には食物供給の問題が残つて居る。前週から一般人民は戰時に食物の足りなくなつて居ることを恐れて頻りに食料屋へ買出しに出掛けた。其ために上らぬでいゝ物價が暴騰しようとした。之に對しては先づ人心を靜めることが必要とあつて農務省から英國の食料は今の處で四ヶ月分あるといふ報告を出した。夫から新聞で食料供給の安全なることを書立てた。夫から後食料品の船が續々着いたので人心は間もなく治つた。併し

其前に政府はもつと實質的なことをやつた。是は八月四日に出した案で政府が海上保険の再保険を引受けるといふのだ。是も食料品や原料品の輸入を容易にして物價を引下げ上策である。併し結局は強大なる海軍の力で商船の往復を自由にするのが最も根本的の方策である。而して此策が幸にして成功したから一ヶ月後の今日は輸入品の不足を心配するものではなくなつた。政府は全國食料品組合と相談して重なる物品のマキシマム・プライスを定めて三日毎に發表したが是も近頃はどうか新聞に出て來ない。多分必要がなくなつたのだらう。

戰時經濟の問題はまだある。而かも大きな問題がある。直接間接戰爭のために生ずる所の貧窮を救はなけりやならぬ。日露戰爭の時には戰爭のために職を失つたものは西陣の織子位のもので其外にはあまりなかつたが是は敵の海軍が最初から旅順口へ押込まれたのと日本の外國貿易が比較的幼稚なためである。英國では外國貿易が少し止つても其影響が大きいのは當然のことである。そこで之に對する策如何。政府が委員會を組織して研究した結果はかうである。先づ第一はやはり海上權を我手に收めて輸出入を自由にする。次は特に此際土木を起して勞働者に働口を與へること、夫からかくしても尙働くべき口のない婦人とか子供には直接に金をやること。其金は皇太子殿下の名を以て集めること。是は數日間に一千萬圓

に達し今は二千五百萬圓と成り、なるべく只ではやらないやうにして職業を與へる方針を取つてゐる。救濟基金が一ヶ月間で二千萬圓に達したのは日本の濟生會と比べて如何に英國の金力の豊富なるかを示すに足るが、併し戰爭が始まつたといふので殊更政府及地方團體の土木工事を起すに至つては實に驚かざるを得ない。

さて此の如くにして非常の方略は數日間にバタ／＼と出來上つたが其後の経過は頗る順當であつたのみならず海軍の大西洋及北海に於ける制海權が確實になるに伴れて一般に自信の念を強めた。そこで八月十六七日頃になつて政府は更に積極的の方略を立てた。夫は海外各國の市場に於て從來ドイツ人の供給して居た品物を當國から輸出させようとするのである。其方法としては各國に派遣してある領事から報告と見本を送らしめて之を商務省に集めて實業家の参考にすることにした。戰爭は恰も禁止的輸入税を課したと同じ結果を生ずるので、從來ドイツ品に取られて居た内國の市場は内國生産者の供給を仰ぐべきことになるが、是は敵も味方も同じことである。唯中立國の市場を取りに行くことが海軍の強い國でなければ出來ない。

開戦後一ヶ月間の状態を見るに英國では金の供給も食物の供給も共に潤澤である。従つて

恐慌も起らず饑饉にもならぬ。ロンドンの市中を見ても志願兵募集の張紙が至る所に出て居る外に別段變つたことはない。芝居も寄席もやつてゐる。例のクリケットマッチの結果も最近の戦報と並べて夕刊に出してある。海岸へ行く回遊列車も運轉されて居る。午後にはボン・ドストリートやオクスフォードストリートに着飾つた貴婦人が買物に來る。ナシヨナルガラリーは婦人選舉權を要求する女壯士の亂暴を恐れて去る五月から閉鎖してあつたが開戦後彼女等がおとなしく成つたといふので閉鎖することに成つた。旅館にはベルギーやフランスの金持が避難して來たので食堂へ出ると頻りにフランス語の會話を聽く。但しドイツ人のウェーターが多數本國へ引上げた爲に一時は餘程困つたらしかつた。

併し此平穩無事は外面上のことであつて、内部の實際を研究して見れば流石に大分打撃を受けて居る。八月中の外國貿易表を見ると輸入は昨年八月に比して二割四分を減じ、輸出は四十五割を減じて居る。輸入の方では食物は餘り減じないが原料が著しく減じて居る。尤も外國貿易の減じたのは、戦の直接の結果よりも寧ろ爲替の立たないためだといふ。さすれば海上運送が確實になり、運賃保険料が安くなつた今日に於ては徐々に恢復するだらうと思はれる。

労働者の方は如何といふに軍用品の工業は忙しくなつたが一般の商品特に贅澤品の製造が閑になつた。其上に外國から原料を輸入して居る工業例へば木綿工業の如きは大いに生産を少くした。製造家が職工を解僱する代りに操業時間短縮を行つて居るからアンエムプロイメントは思つたよりも遙かに少く商務省の調査に依れば各種労働者全數の九十三パーセントは就業して居る。殘の七パーセントの一部は志願兵に出て居る。併し前にいふ所の外國貿易が恢復しないときは原料の輸入が差支へるから失業者を増さねばならぬ。之に反して外國貿易が恢復するときは敵國の市場を奪つて内國工業を賑はすであらう。昨今の處では英國海軍が殆んど北海を封鎖した有様だから外國貿易も亦頗る有望である。

要するに英國の工業は金融市場さへ恢復すれば決して困らない。今までの處でも意外に困つては居らぬ。之に反してドイツではさうでないらしい。ドイツの新聞に依ると同國は食物の供給には苦しんで居らぬが原料の供給には大いに困つて居る。失業者の數は既に幾百萬に達して居る。固より詳しいことは分らないがドイツの方が英國よりも餘程困りさうだ。若し戦争が長く續けば陸戦に於てドイツが假りに全勝を占めても此外國貿易の杜絶の爲に參りはしないかと思はれる。此點からして僕のシミ／＼感じた事は近世の商業國に取つて海軍の肝

日本の開戦

八月四日英國の宣戦後間もなく日本の態度に就て大隈首相及び加藤外相の言明が新聞に出た。其趣意としては日本は此戦争の影響が東亞に及ぶことなきを希望するけれども若し英國が東洋に於て戦ふ場合には同盟條約の命ずる所に従つて英國の加勢をするといふにあつた。

其から四五日過ぎて日本は開戦するといふ噂が出た。第一第二艦隊が出羽大將指揮の下に出動したといふ電報も出た。英人等は頻りに其噂が本當だらうかと余に問うた。僕は是を信じなかつた。日本は殊更此際戦争の仲間入をする必要はあるまい。日本の爲すべきことは支那に於ける商敵の市場を取るのが第一だ。若し出来ることなら日本の武力を後援としてシシガポール又はスエズ以東には、戦争をさせぬといふことに交戦國を一致させたいものだと思つた。

八月十五日に僕は北英の勝地ウインダーミア湖畔に行つたが其日の夕刊に日本は愈最後

通牒をドイツへ送つたといふことが明白に出て居た。僕の豫想は全く外れたことが分つた。

其後一週間僕は山紫に水白き所で舟を漕いだり、山へ登つたり、又時には自轉車や馬車を雇つて遠乗をしたりして戦争の方は暫く忘れて居たが終に捨て置くべからざる新聞が來た。日本の最後通牒は八月二十二日で満期になる。ドイツに居た日本人は急いでロンドンに引揚げつゝある。彼等は荷物を纏める暇もなしに着のみ着のまゝで逃げて來た。

かうなつては遊んでる譯に行かない。僕の友人は澤山ドイツへ行つて居た。彼等は安全に歸つたらうか。歸らなかつた場合には何とかしなければならぬ。そこで二十一日にロンドンへ引返した。日本人會へ行つて見ると如何にも雜鬧して居る。友人等にも會つた。會はない人はどうして居るか尋ね廻つたら幸にして何れも無事なことが分つた。中には容易に分らぬ人もあつたが結局僕の友人で取殘された人はないと知れて大いに喜んだ。取殘された日本人は多分牢屋へ投ぜられたらうといふことだが氣の毒なものだ。

或日僕の泊つた居たロンドンのホテルへ一騎當千の論客が來た。話は無論議論になつた。議論はいふまでもなく戦争論に入つた。

甲 僕は今度の戦争に日本の參加したのはよくないと思ふがどうだね。

乙 そりや僕も反對だ。日本は膠州灣を取る必要はない。ドイツが貿易の自由を妨げない限り其領土權を争ふのは愚な話だ。膠州灣小なりと雖も之を取るには五千萬乃至一億圓を要するだらう。兵も全く殺さぬわけには行かない。さすれば日本の政府が苦心慘澹して仕上げた財政整理の結果は此戦争でフイになるだらう。さうしてドイツ人からは非常に恨まれるから今後當分ドイツの學問を輸入するに非常の困難を感じることは明かだ。おまけに日本は好戰國といふ惡名を擧げること受合だ。

甲 全くさうだ。僕は全體日本人が日清戦争以來領土擴張熱に浮かされて居ると思ふ。日本には識者を以て目される人でも唯帝國の地圖を大きくしさを思へるのが澤山ある。けれども實際に於て我々は臺灣を取つたために何の利益を受けて居るかといへば散財政上の補助をさせられた揚句に高い砂糖を嘗めさせられた丈ではないか。朝鮮にして年々二千萬圓とか三千萬圓とかを支出して居るが其大部分は不生産的に消えて行くのだ。滿洲に至つては随分日本の事業が行はれさうだけれども是がためにロシアの陸軍に對抗する必要がある。ロシアを敵に廻さない限り二十五箇師團などの問題は起らない。今の十九師團でも多すぎるのだ。

丙 君等は頻りに計算づくで小日本主義を唱へる様だが我輩の説は大いに違ふ。日本は年々百分の一の割合で人口の増加を來たしつゝあるからどうしても極東の小さな島を守つて居る譯には行かない。海外へ發展するのは當然なことだ。英國でも佛國でも皆戦争に依つて殖民地を開拓して今の様な大帝國を築き上げたではないか。君等の論は既に領土擴張に飽きた國には適當するかも知れないが、日本の如き人多くして國小さき新進の國民には當欲まらない。

乙 人口が増加するから殖民地を要するといふのはよく分つて居るが、然らば其殖民地は人口稀薄にして天然の富源多き土地でなければならぬ。臺灣や朝鮮を取るも既に其國の人口があるから其上に日本の移民を容るべき餘地は極めて少い。況や青島杯を取つた所で之を殖民地にすることは出来る筈がない。獨逸領にして置いて商業のために行く丈の人は行くのである。

丙 兎角君の意見は近眼的現金的に成るからいかぬ。「商業は國旗に従ふ」と昔からいふ通り國威國權が盛でなければ商業も進むものでない。膠州灣は日本の移民を容るるに足らないかも知れぬけれども此軍事上商業上に重要な地點を日本が有するか否かは日本のプレスチ

ツヂに大關係がある。従て商業の發達、民族の膨脹にも大關係がある。何も一時の費用が入るのを吝んで此の好機會を逸することはない筈ではないか。

乙 僕は其國威國權といふものの價値を疑つてゐるのだ。白耳義とか瑞西とかいふ小國はどう見ても國威國權が振つてるとは思へないが其商工業の盛なことは英佛獨と雖も及ばない位だ。だから人民がしつかりして居れば領土を擴張せぬでも經濟上に發展することは出来るのである。之に反してロシアの如きは國としては歐洲一流の強國だけれども商工業は他國人に侵されて居る。如何に國旗が輝いても人民が幼稚ならやはりだめだよ。

丙 君の様に國威國權は振はぬでも商工業さへ進めばいゝといふなら日本がロシアの屬國になつてもかまはぬといふ結論に陥りはしないかね。

甲 併し國威國權を振廻さうと思へば大きな陸海軍を養つて時々大きな戦争をやらなければならぬ。さうすると租税が高くなる。しかも租税収入の大部分は不生産的に消えて行く。

そこで商工業が壓迫を受けるばかりでなく、人民の生活程度が下る、教育費も出ない、社會政策も行はれない。所謂貧國強兵になるがどうだ。

丙 兎角理窟は極端まで持て行くと奇妙なものになるよ。君は今度の時局に際して日本の態

度がわるいといつたがそんならどうすればよかつたのだ。

甲 僕の考は日本が英國と交渉して戦亂の區域をスエズ以西に限るものと定め獨逸に對しては總ての軍艦を青島に集めて出て來させない様に忠告するのだ。さうすれば英國も獨逸も日本の武力を懼れて其提議に應ずるだらう。是が正々堂々たる人道的態度だ。

英國の陸軍

誰でも日本から英國へ來た時に氣の付くことは兵隊の少い事とその僅かある兵隊の規律の乏しいことである。日本ならば大抵の大きな都會には師團があるか聯隊があるか、何れにしても兵隊の居ない所はない。然るに此國へ來て見ると都會には軍隊のないのが原則で有るのが例外である。而かも其兵卒は休日になると赤い上衣を着た若い女の友達と腕を組んで散歩して居る。こんな兵が一朝事有る時に物の役に立つだらうかと思ふ。併し實際戦争に成つて見ると英國の兵も中々弱くはない。或陸軍武官の説に依ると八月二十三日から二十六日までフランスの北境モンに非常な損害もなく退却したのは英國軍でなければ出來ないことだ

といふ。何故かといふに此時英軍は數に於て三倍の敵から押されたのであるから頗る苦しい立場に陥つた。此の如き場合には何れの軍隊にしても秩序を保つて將校の指揮の下に堂々と退くことは出来ない。兵卒各自の個人的訓練が行届いて居るにあらざれば所謂潰走の状態になつて周章狼狽の間に全軍滅亡せざるを得ないとの話である。

然らば英軍にはどうしてそんなことが出来るか。此に今少し某武官の話を受賣すれば是は全く英國常備軍の編成法に基くことである。英國の常備軍即ちレギュラー・アーミーは市民兵にあらざりて専門の職業に成つて居る。軍隊に於て必要の人數を募集した上で相當の給料を渡して雇入れるのである。而して現役の年限は七年、豫備が五年といふことに成つて居る。夫だからつまり兵に適當な若者を選抜して七年の教育をするのだ。英國兵は外面規律が欠けて居る様でも實際戦争の技倆に於ては他國の徴兵の比でない。成程英國人にいはせるとドイツ流のアヒル行列は觀兵式に適して實戰に適せぬ。ドイツ兵は射的が下手だとの話。併しながら英國陸軍は全體としてドイツやフランスの陸軍に双向ふことは出来ない。何故かといへば數が極めて少い、今度の戰にしても大英國の精銳を盡して佛軍を援けるといへば大層に聽えるが其實數は僅か十三萬である。精銳には相違ないが全部を擧げて六師團十三萬の兵しか

此國には置いてないのである。豫備を出しても二十五六萬に過ぎない。平時六十五萬の兵を養ふドイツ帝國を海の向岸に控へて居ながら此小陸軍に満足して居るとは實に大膽な國防方針といはざるを得ない。

元來此國では島國といふ地理上の特色を利用して國防の殆ど全部を海軍に任せてある。だから海軍は常に大きなものを抱へて居る。今でも歐洲の最大海軍國たる獨逸に對して六割の優勢を維持して居る。けれども陸軍には重きを置いて居らぬ。南阿戰爭以來ロバート元帥を初めとして一部の人が盛に徴兵制度の必要を絶叫したけれども其説は今に行はれさうもない。英人の考では徴兵は個人の自由を奪ふ壓制である。英人は強制されなくても必要があれば敢て國難に赴く。自由國には自由の兵を置けといふのだ。夫だから陸軍は右の雇兵十三萬を以て正兵となし之に配するに護國軍即ちテリトリアル・フォース三十二萬を以てしたるに過ぎず、テリトリアルといふのは是も志願者を募集して兵卒の服を着せ、時々銃を持たせて射的や野營の演習をさせるのだが本來職業的でない上に訓練の時期が短いから極めて不完全を免れない。其不完全なることは殆んど總ての軍事専門家が一致する所である。

併しながら此政府の強制を待たずして自ら護國の義務を感じて出て行く所の兵には又一種

の特長がある。僕の知人にテリトリアルの大佐を勤めて居る辯護士がある。南ウエールズに住んで居てプリストル海峡の防備を受持つて居る。此人は辯護士として相當に成功して居るけれども其書齋へ入て見ると法律の本などは一冊もない。各國の軍制又は戦争史に關する書物を山の様に貯へて居る。旅順の包圍攻撃などの話をするに頗る詳しいものである。此人の説に依るとドイツの兵は上官の命令の下に整然として一糸亂れざる動作をする。是も軍隊として長所があるに相違ないけれども抑々軍隊には精神が肝要である。兵員各自の智力が必要である。吾々は軍隊を機械の如くに取扱はないで生きた人間の團體として取扱はねばならぬ。是も一理ありさうだ。兎も角辯護士が隊長になつて鍛冶屋だの大工だのといふ連中を率ゐて時々戦争ごつこをやるとは面白いことだ。

こんなわけで英國の陸軍は小さい。今度の戦争の初には常備軍十三萬を擧げて大陸へ送り次で豫備を召集して出動させたが是丈では無論足りない。そこでどうするかといふと新兵を募るのである。町の到る處に張紙をして「汝の國と國王の召募に應ぜよ」とか「キチナーの訴を聴け」とか「今日参加せよ」とか大々的廣告をして青年の注意を惹くのである。併し此廣告だけでは結果が思はしくないから第二の有力な方法として朝野の政治家が各地に大演説

會を開くことにした。總理大臣アスキスはロンドン、エヂンバラ、ダブリン、カーヂフの四ヶ所で演説することに成つて既に三ヶ所だけ済ました。

海軍大臣チャーチルも大藏大臣ロイドジョージもやつた。特に面白いのは此演説は政黨と關係ない學國一致の運動だからといふので自由黨も保守黨も一所にやるのだ。例へば總理アスキスと共に反對黨の領袖ボナーローとバルフォアが出る。海相チャーチルと共に保守黨のスキス、勞働黨のクルックが出る。勞働黨の内には非戰論者があるけれども、又大いに募兵運動を助けるものもある。演説の趣意は何れも今回の戦争が正義の爲に起つたこと、ドイツが國際の道義を無視したこと、若しドイツが勝てば歐洲のデモクラシーはプロシアの軍國主義に壓倒せらるべきことを説明して士氣を鼓舞するにある。そこで此等の演説の効果がどんなものであるかと思つて居ると實に大したものだ。僕をして、流石英國は輿論の國だと思はしめた。抑々僕の觀察では戦争の初には一般の英人は餘り熱心でなかつた。のみならず軽く見て居た。ドイツ軍がベルギーを席捲してフランスに入りバリに逼つてもまだ目が覺えず、ドイツ人は弱いなどというてるものが澤山あつた。

従つて新兵の申込も比較的少かつた。それが演説をやつてから大いに増して昨今は既に五

十萬人を集めて訓練を始めた。ケンブリヂにも新兵の何千人かが居て日々平服のまゝ各個教練をやつて居る。此等の兵は強制されたでもなく又金が欲しいでもなく、戦地から續々後送される所の負傷を目の前に見ながら志願して出るのだから其元氣の旺盛なことはないふまでもない。勿論中には職業が閑になつた此際に兵隊に行けば身入りがよくなると思つて出るものもあるらしいけれども極貧者ばかりでない證據には平服で訓練して居る姿がさほどみすばらしくはない。

新兵の士官はどうするかといふと是には平生から士官養成の機關がある。ケンブリヂ大學にもオフィサース・ツレトニング・コアといふのが學生中の志望者を集めて學業の餘暇に乗馬、射的、訓練を爲し軍事上の學問をやらして居る。時々野外演習もして居る。僕の知つてる學生で中尉の格式を持つたのが居たが是は直ちに志願して戦地へ行つた。今一人の知人はフランス文學の講師だが是は通譯官として従軍を志願した。こんな譯で大學生の三分の二は軍隊へ行つてしまつた。

そこで此五十萬の新軍は六ヶ月教育したら大陸へ送られる筈だといふ。さうして次には更に五十萬を募つて合計百萬にするのだといふ。

百萬が揃ふのは一ヶ年の後とあつては随分氣の長い話だが英人はいはせると少しも不思議はない。英國は國土を直接に犯されて居るのでないから急ぐ必要はない。大陸諸國の陸軍が其精銳を盡して弱くなつた時分に此方は益々熟成した軍隊を送つて敵を最後まで追撃する。ナポレオン戦争の時にも英國の陸軍は初め微小にして後にウォータールの大勝を得たのだから今度も其通り根氣で勝てばいいのだ。キチナー元帥はエヂプトの總督から移つて陸軍大臣となつたが彼は政治家でない。政治家に非ずして政府に入つたのは戦争中働く約束である。「戦争が若し三年續けば三年間、其以上に續けば他に後繼者を求める」と彼自身議會で宣言した。要するに英人は今盜賊を見て始めて繩を縋ひつゝあるが盜賊は繩が出来るまで放さぬと力んでゐる譯だ。

我々日本人から見ると英國の今度の經驗は頗る參考になるだらう。第一我々は徵兵制度の外に軍隊を作る方法はないかの如く考へて居るが英國では全く反對で志願兵制度のみを採用して居る。是がドイツ兵と戦つて何の結果を生ずるかが見物だ。次に日本の陸軍はドイツを模範として財政上の困難にも拘らず二年兵役を行つて居るが英國では六ヶ月間に五十萬の大軍を養成し、一ヶ年後には百萬を擧げようとして居る。是も結果から判斷しなければならぬ。

夫から英國の陸軍は平時六師團十三萬しかない。日本は十九師團二十八萬を擁して居る。尤も日本と英國とは違ふ。歐洲大陸と支那大陸とも同じでない。色々斟酌しなければならぬが兎に角此際英國軍のエフィンエンシーの有無は我々に取つて頗る興味ある問題である。

(一橋會雜誌・大正三年十一月)

英國開戦の理由

僕の再西遊記は昨年十一月號に出た英國の陸軍と題する一段を以て中止され、僕自身は十一月十四日にロンドンを出發してシベリヤ經由十二月二十四日に東京へ歸つた。此に記する所は歸朝前の經驗の一部である。

昨年九月十月は英國に於て英國開戦の理由に就き議論の多かつた時である。政府の大臣を初めとして朝野政治家の面々は募兵演說會の席上に今回の戦争が義戦であることを説明する。外務省からは開戦當時の外交文書を發表して獨逸の惡辣なる外交上の機略を暴露する。大學教授や文士の連中は單行本を出して歴史上、經濟學上、政治學上から此世界の大事件を論評する。而して日々の新聞紙は勿論此等の論說や通信を以て充たされて居る。夫だから英國中

流の家庭に於ける會話の主題は何時も此方面に向つた。僕は今其一例として或友人との對話を書いて見る。

僕——今世間で英國開戦の理由を喧ましく論じて居りますが貴君の御意見はどうですか。

友人——私は歐洲の小國を保護することが主眼だと思ひます。凡そ今日世界の諸民族が各國を立てて交際して行くには相互に國の主權といふものを尊重して利益の調和を計らなければならぬ。然るに獨逸のやり方は弱肉強食を當然のこととして只管自國の權勢を張らんとして居る。現に獨逸の大宰相はベルギーの中立侵害を説明して是は必要だから仕方がない。「必要の前には法律はない」といつて居る。又獨逸の外務大臣はベルギー中立の條約をスクラップ・オフ・ペーパーだといつて居るでしょう。是は國際道徳を無視したやり方といはなければならぬです。

僕——成程英國開戦の動機はベルギー中立侵害といふ所にあつたと思ひますが是が果して國際道徳のため小國援護のためといふことになるでしょうか。若し英國は小國民援護のため何時でも戦を辭せないものとするならば今度の事件がベルギーに關係なくセルビア丈の問題であつたと假定して、矢張り填國に對して開戦しなければならぬといふロヂックになり

はしませぬか。又更に一步を進めて日本が朝鮮を併合した時にも英國は異議をいふべき筈ではありませぬか。

友人——左様です。併しベルギーに就ては特別の關係があります。英國はベルギーの中立保證を約束したのです。英人は約束といふことを重んじるから此際特に身を挺して戦ふといふ決心に成つたのです。

僕——御説の通り同じ小國の中でも援護を約束した國と約束せぬ國とは差別しなければなりません。然らば英國は何故ベルギーに限つて保證を爲し其の他の小國の獨立を保證しませぬか。

友人——ベルギーは古來大陸に於て戦争のある度毎に争奪の地となつて苦んだことは歴史上明かな事實です。夫故に此地方で戦争をせぬことにしなければ歐洲の平和を保つことは困難です。

僕——果してそれだけが理由でしょうか。ナポレオンがいつた様に「ベルギーは英國の心臓に向けられた矢である」即ち大陸國が英國を侵略するに頗る都合の好い溜りである、といふ事實が英國をして此約束を爲さしめたのではないかと思ひますが。

友人——あゝ然らばベルギーの中立條約に英國の參加したのは自國の防衛のためである。今度の戦争も同じく自國防衛のためであつて必ずしも世界の正義公道のためでないといはれるのですか。

僕——左様です。私は一國が他國に對して戦争を爲すべき場合は自國の獨立を傷けられんとする場合に限ると思ひます。第三國のために戦ふといふのは多くの場合には單なる口實であつて而かも政治的野心の奴隸にせらるべき危険な口實だと思つて居ます。

友人——それは御尤の様ですが、我々英人の考は少し違ひます。日本の如きは數世紀の間鎖國孤立の生活を爲して居た國民だから自國の名譽、自國の利益といふことを唯一の標準として外交軍備の政策を立てるかも知れないが、英人は長い間國際政治の經驗を有して居りますから世界の正義公道を維持するのを自分等の責任と信じて居るのです。或事件が直接自國の利害にあつても又なくても其處に顯然たる正邪の争があるならば英人は出て行つて正なるものの味方をしたいです。日本でも既に世界の一等國の班に列したからには世界の公道を背負つて立つといふ抱負がなければならぬ。夫だから今度日本が戦争に参加した事は私は英國の同盟者として歓迎するのみならず其大國民としての責任を重じたものと思つて喜ぶのです。

僕——貴君の國際道德の理想は誠に高尚な御考と思ひますけれども現今の實際が其處まで進んで居るでしようか。假りに英國が或國を正義公道の破壊者と認めて戦ひに行つた場合に相手の國民が却て自分の行爲を正義公道に適したものと信じて居たらどうですか。

友人——如何に正義公道を口にしても單なる口實として是を用ふる場合と誠心誠意之を信じて居る場合とは違ひます。私は英國政府が正義公道を口實として戦端を開いた時には無論反對しますが今度の場合は誠意を持つて行つたものと信じて居ります。又ベルギーのために戦ふのは結局自家防衛のためになるのではありませうけれども、英人が世界の文明のためにせんとする國際的公共心を有つて居ることも亦争へない事實と認めます。

此友人は至極淡白な人で遠慮がないから随分突込んで議論して見たつもりだが彼にも中々論據はあると思つた。ナアに英國人だつて矢張り自分の國權維持のために戦つて居るのだとは思ふけれども、併し彼等の正義公道は必ずしも口實のみでない。流石大國民としての大きな愛國心を有つてゐるなと感じた。

英國の赤十字

僕の古い知己にミス・ヒュースといふ老嬢がある。日本にも來たことのある人で昔はケンブリヂで師範學校の校長をして居たが今はサウスウエールズの郷里に隱居し公共事業の委員などをして居る。老嬢の弟は是も可なりの老人だが同じく郷里で辯護士をやつて居るが業務の餘暇テリトリアル・アーミー即ち護國軍の大佐になつて居る。此兩人が今度の時局に何をして居るかといふと老嬢は赤十字の世話人、令弟は退役士官として募兵委員と爲て頗ぶる多忙に働いて居る。

僕が出發前に訪問して老嬢の仕事はどんな事かと聞いて見ると中々面白い。自分の町（人口五萬位）で、一個の赤十字病院を組織することに成つた。其場所は詮議の結果或ホテルの建物を使ふことに成つた。此ホテルは戦争のために開業を延期したから當分入用はないといふので持主が無料で貸して呉れた。それから掃除をしなければならぬが其方は赤十字社員中に職人の奥さん連中が居るので其人達に頼んだら賃錢なしでやつてくれることに成つた。或

奥さんは非常な赤十字熱心で娘と共に毎日來て働いて呉れる。

其子供は平素からボーイ・スカウト（少年義勇軍）に屬して居るが此際使ひ走りの用事があるだらうといふので毎日學校が濟むと自轉車を持つて詰切りで用を聞いている。多少室の模様變へをしなければならぬ。今職人が入れてある。是は無賃といふ譯に行かないが其他には餘り費用が係らない。そこで病人のベッドだが是は到底買ふことが出来ない。社員が自分の家のを持出したり、又知己親戚に頼んで明いたのを貸してもらふことに成つた。收容患者六十人として六十個のベッドを集めるのは容易でない。併し既に四十個集まつたと話して居る間にチリン／＼電話が掛かつて来る。「何某さんが三個集めました。」又暫くして「何某さんの手で二個出來ました」後から聞けば此方法で遂に豫定の六十個を集めたさうだ。

然らば用意が出來たら其次には何をするかと聞くと、それから赤十字社本部へ通告して醫師の出張を乞ふ。

醫師が來て見て合格と極つたら病院付の醫師の職業的の看護婦を派遣される。夫を自分達が助けて病院を經營するのだといふ。

僕はヒュース女史の外にも赤十字熱心の或婦人を知つて居るが其人も同じ様な話をして居

た。一體英國の赤十字社といふのは統一した大社團ではなくして各地方の小社團の聯合したものと尋ねて見たら左様ではない。矢張り全國を通じての一大組織に成つては居るが、併し各地方の社員が夫々自分の所で病院を經營することを希望するから自然右の様なり方になるのだ。日本で赤十字社員といへば唯金を出す人が英國では金を出すのみならず其ために働くのだ。夫から日本で赤十字社の支部といへば知事が支部長で郡長や町長が其下廻りをやつて金を集めるのだが英國では此事業に熱心であり且暇のある人が支部の役員を勤めることに成つてゐる。

併し考へて見れば是は赤十字のみでない。英國の公共事業は皆此式で行つて居るのだ。公選の市長や縣參事會はあるが官選の知事はない。市長には誰がなるかといへば町の有力者になる。他から官吏の古手や實業界の元老を伴つて來る必要はない。而して市長は無論市の事業を統括するけれども何でも引受けるといふのでない。學校の事には學務委員が居る。養育院の事には救貧委員が居る。是等が實際の仕事を受けつてやるから市長と雖も中々干渉は出來ない。況んや公の職務外に屬する赤十字杯に手の出し様はないのである。

西遊通信

東京からモスコウまで

東京からモスコウまで九千七百キロの旅をして今クレムリン宮に程近きホテル・サヴォイといふ國營の旅館に落つた。マンジュリからこゝまで七日七晩ぶつづけの汽車でいさゝかつかれてゐるが、兎も角忘れない内に途中の經驗を二つ三つかいて見る。

四月十二日に志立氏の一行に加つて大阪を立つた時は支那の軍隊が北京の露國公使館を捜索した爲に公使館員は歸國し兩國の交際は斷絶したとか、又その結果として奉天人心恟々たりとか新聞に出てゐるので、此旅行が満足に出来るか否かを多少の疑をもつたのであるが、奉天に来て見れば萬事至つて平靜で我々一行は美しい孟春の一日を北陵見物に費すことさへ

出來た。ただ最近張作霖氏が北京に進出してから奉天票が暴落して日本金の一圓に對し十三圓になつたといふことを聞いて恐ろしく思つた。滿洲でドイツやロシア紙幣下落の二の舞を演じなければよいがと心配になつた。張氏は軍費調達のために幾十萬の紙幣を出して北滿の產物を買収して南滿で賣拂つて大儲けをしようとしたが生憎その品物が急に賣れないので大連に滞積されてゐるとのうはさを聞いたが、此やり方で無遠慮に進んだら奉天票が紙屑になるのは何のさうさもないだらう。

ハルビンでも汽車の連絡の都合で一日遊んだが、こゝではロシヤの紙幣と大洋が通用してゐる。但し今此地方で大洋といふのは銀貨ではなくして中國銀行や交通銀行等の銀券である。曾て大連の取引所で金建を取るか銀建を取るかといふことを大問題にしたことを覺へてゐるが今では滿洲全部が紙幣國になつてゐる。幾多の異種の紙幣が同時に通用して相互に高くなつたり低くなつたりしてゐる。金や銀は疾くの昔に何れへか行つてしまつたのだ。

大洋には一圓の外に五錢、十錢、二十錢の小札がある。これが潔癖ならざる支那人の手から手へ渡るので、そのきたないことは全く驚くの外はない。日本人の商業會議所は度々此汚れた小札の引換を支那銀行に要求したが一向取上げられないのだといふ。何れにしてもこれ

程きたない紙幣は他に種類があるまいと思つて、其二三枚を貴重なる参考品として保存することにした。

滿洲の鐵道は長春以南が南滿鐵道で、長春からハルビンに至る線と北滿を東西に貫通するシベリア線の一節とが所謂東支鐵道である。此鐵道は申すまでもなく日露戰爭前に露國のアジア銀行が敷設したものが、大戰後は露支合辦といふことになつてゐる。併し今までの利益金二千萬圓は全部ソビエットの國營なるダリー銀行に預け入れられて奉天政府には一錢も配當されない。そのために奉天政府は抗議を同鐵道理事會に提出してゐるが埒があかないのだといふ。つまり此鐵道の株主は露支兩國の政府であつて、其利益の配當は兩政府の兵力如何によつて決するのだらう。

さて鐵道そのものは右の通りだが、我々の乗つた客車は鐵道に屬せずして例の萬國寢臺會社のものだ。是は全く商業的な會社でハルビンには立派なホテルをも經營し、又旅行案内所を開いてゐる。此案内所には英佛獨露の四國語を繰る如才のない事務員が居てシベリア線への連絡切符を發賣し、モスコウの旅館のレザーヅまでやつてくれる。客車にも外國語のわかる車掌がゐるてよく世話をしてくれる。食堂車の料理もわるくない。

然るに國境滿洲里で車を乗換ると事情は全く一變する。一等車は戰前寢臺會社の客車が全シベリア線を直通してゐた時に露國の領内に残されたもので、つまり革命政府が寢臺會社から分捕つた品物だから構造に差異はない。けれども修繕が行届かず掃除が不充分で、使用人は気がきかない。食事は下手で種類が少い。その上に七日七晩乗通しだから容易なことではない。併しボルシェヴィズムの國では盜賊と人殺しが日々行はれてゐるやうに想像してゐる人々が來て見たらさぞ驚くだらうと思ふ程安全なものだ。ロシア人は使用人でも又他の旅客でも以前に變らぬ人の善ささうな連中ばかりだ。私は大正二、三年に此線を往復したが、單なる旅人として見ればその時と今と別段變つたことはない。革命後には銀貨にも、食堂の皿にも、シガレットにも「世界のプロレタリア團結せよ」とかいてあるが、是もロシア文字が讀めなければそれまでのことだ。

シベリアは今雪解の季節である。野に山にまだらを爲して残つた雪の上に日々快晴の日光が照りつける。雪の下から流れ出す泥水は溢れたり留つたりしてやがて恐ろしい勢で地を穿つて走りだす。河はまだ大部分氷に閉ざされてゐるが、又既に大水になつて鐵道線路を害したやうなものもある。雪解の水はイースター前後のシベリアの景色に強い力を與へるものだ。明

けても暮れても眼界に入り來たる白樺の林はまだ青くはならないが既に梢の先に紅味をもつてゐる。處々の驛には猫柳の花を束にして賣りに來る子供がある。まだ春ではないが北國の天地は將に長い冬眠からさめんとしてゐる気分があり／＼と見える。よく見れば白樺は大木の松檜等と交つたのもあり、又若木の密林をなしたのもあり、河に臨んで白い幹の影を投ずるもの、聊か拓けた牧草地のあちらに夕陽を反射するものなど千態萬様で、特に此木を愛する私の目には又とない美しい景色を畫き出してくれるが、併しそれが五日、六日、七日となつては有がたくない。幸に此度の一行は男女十六人の大勢で話相手が多いから、大いに助かつたわけだが、それでも終には「あきましたねえ」をあうむ返しにしなければならなかつた。此無聊の數日中に一行の耳を聳へしめたのは田中内閣成立の報、次では十五銀行の支拂停止、全國諸銀行の取付、三週間のモラトリアムの報であつた。それは勿論ロシア新聞の記事からであつたが、私と同室の米國商人でロシア語の幾分わかる人がゐて讀んでくれたのだ。詳しくいへば四月二十一日に支那の漢口政府と蔣介石氏との分裂したこと、列國は支那に送るべき第二の通牒を發する筈だが日本に政變が起つて日本の對支態度は強硬になるべき形勢があるによつて其通牒を暫く差控へてゐることを報ぜられた。是は政友會内閣かなと推測を

下しつゝ二日を經過すると二十三日になつて東京二十日付の電報で愈「リアクシヨナリーな政友會」が内閣を組織したとあつて大臣の名まで擧げてあつた。そこで吾々は何故若槻内閣が辭職するやうになつたかといふ動機について色々憶測を下してゐるが、翌二十四日朝に至つて東京二十一日付で金融界の恐慌を傳ふる所の電報を見た。右の新聞はロシア政府の機關紙イスヴェスチと共產黨機關紙プラウダであつた。(一九二七年四月二十四日モスコウ着の夜)

モスコウからジュネーヴまで

四月二十六日の夕刻モスコウを立つて翌朝ロシアとポーランドの國境のストルプシといふ所で税關の検査を受け汽車を乗りかへてその夕刻ワルソウを通過し、二十八日朝再び國境ステンチで税關の検査を受けてドイツ領に入り正午過ぎベルリンに達してこゝに一泊した。それから二十九日夜ベルリンを發し三十日夜ジュネーヴに着いた。これで大阪出發以來十八日間の大陸横斷が終つたのである。

ポーランドの様子は唯汽車内のサーヴィスがよくなつただけ窓外の景色は露領の時代と同じく全く貧弱なものだ。たゞ南西に進むに従つて氣候は暖くなり春の色が整つて來た。ワルソウ近傍では青々とした牧場に黄色の花が一面に咲いてゐる樹木の新芽も大半は出そろつてゐた。併しドイツに入ると天然のみならず人事が一變して夜の明けたやうな感じを生ずる。町が急に清潔になり田野はよく耕されてゐる。これは此道を通つた人々の何れも痛感する所だらう。

ベルリンで會つた人々の話に同地の状態は最近著しく整理されて來たが大戦争の大きな傷が明かに遺つてゐると思はれるのは男女の人口の差の甚だしきことで、今ベルリンにある結婚年齢の男一人につき女は三人ある。そのために青年の風紀が紊れてゐることは争はれない。それから戦後のインフレーション即ち貨幣膨脹の結果宵越の金をつかはぬといつたやうな浪費の風が盛になり識者は頻りに貯蓄の宣傳をやるが中々効果が現はれないといふことである。勤儉力行を特色とするドイツ國民に取つては如何にも憂ふべき惡傾向といはねばなるまい。けれども町を歩いて見れば昨今のベルリンは既に家屋や道路の修繕がよく出來て往來の人々の衣服なども舊態に復し、店先にある品物の正札を見れば日本よりずっと安い。帝國時代の

やうに軍人がゐるばらないだけに以前よりも却つて心地が良い。新聞を見るとラチヨナリジールング即ち産業經營の合理化といふことが各方面に力説されてゐるらしい。私の着いた日に機械製造家の大會が開かれ、外務大臣ストレーゼマン氏、スウェーデンのカッセル教授、ケルンのシュマレンバッハ教授の演説が報道されてゐたが、そこにも、新ドイツ建設の努力が窺はれる。

南ドイツのバーデンからスウィス領内は恰も晝間に通過したが、林檎や杏などの花盛りで全く春の気分になつた。日本を出る時ジュネーヴの四月はまだ冬服を要するだらうと思つたのは間違でレマン湖畔の散歩道には街路樹の新緑が萌え立つて辻待の馬車が其蔭に並んでゐる。山々にもまだらな残雪があるだけだ。花賣の籠にはライラックが香つてゐる。メイデーの行列も美しい日光の下で無事に行はれた。

會議は愈々豫定通りに五月四日から始まる。ロシアが参加することになつたので、こゝに代表される國の数は四十三國に達し、その以外に國際商業會議所や國際協同組合聯合や國際農事協會等の代表者も出る。何が出来るか豫想は不可能だが兎に角にぎやかなことだらう。

(一九二七年五月三日ジュネーヴにて)

モスコウの二日

我々の一行は四月二十四日にモスコウへ着いて二十六日の夕刻同地を發車した。田中大使初め大使館員諸君の一方ならざる厚意によつて大いに觀察の便宜を與へられたけれども、何分滞在の日が短かくて、加ふるにロシアの復活祭に當つてゐた爲に市中も多くは休みであつたから平生の様子は分らなかつた。抑々言葉の通じない外國人が旅行中の見聞であるから誤りの多いことは覺悟の前だが、しかしロシアの事はあまりに甚だしく日本に知れてゐないから試みに二三の皮相觀をかいて見る。

我々の泊つたホテル・サヴォイから近い所に城門のやうなものがあつて、その中央に小さな堂があり、金の十字架や聖像を安置してあるが、こゝは昔ザアの尊信厚かりし聖の聖なる場所として革命後の今日でも香華の絶間がない程に参拜者が多い。然るに皮肉なことには此堂と相對した家の壁に「宗教は人民に取りて阿片の如し」といふマルクスの言が刻まれてゐる

る。勿論革命政府の仕事である。帝政の支柱であつたギリシヤ正教會が今後のロシアに如何なる勢力をもつかといふことは實に重要な問題だと私はかねて考へてゐるので何か祕密の鍵をちらりと見たやうな氣がした。

この門を通ると右がクレムリン宮の高い城壁で、其前にクラスナヤ廣場即ち赤い廣場といふ所がある。此名稱は革命前からのものだといふが偶然にもこれがまた幾多の示威運動場の中心となつたのである。有名なレニンの廟は此廣場の正面に設けられてあるが、低い木造の四角の澁色の建物で其屋上が野外大會のプラットホームに使用されることになつてゐる。私の行つた時には来る五月一日のメイデーの準備として此建物へ臨時の觀覽席のやうなものを作りつゝあつた。此廟の屋上に熱烈な辯士が現はれて廣場を埋めた數萬の群衆の拍手を受ける光景は随分凄じいものだらうと想像される。

さて此廟にはレニンの死體が保存されて今尙生けるが如き姿で眠つてゐる。其保存の仕方はどうなつてゐるか知らないが硝子張の箱の中でカキ色の詰襟の服を着て胸に簡單なバッヂをつけて仰臥してゐる。いつも繪で見た通り廣い突出した額の下に小さなあごひげをつけた親しみのありさうな顔が電燈に照らされてゐる。目をつぶつてゐるからよく分らないが革命

家といふよりは詩人とでもいひさうな感じのする顔だ。そこで此顔を拜むといふか見るといふか、毎日數千の人が列をなして廟内に流れ込んで他の口からぞろぞろと出て行く。廟の内外處々に劍付の銃をもつた兵士が嚴肅な姿勢で番をしてゐる。群衆の中には死體の前で十字を描いて黙禱するものもあると聞いたが私の見た時にはそのやうな人はなかつた。但しこゝでは總ての人が一言も發せずして何となく敬虔な氣分になつてゐる。レニンは死んでから三年になるので此上の保存は困難であるから、近い中に死體を焼くことにきまつたといふことだ。何れは同じ寝姿が銅像となつてバリのナポレオンの廟のやうなものが出るのではあるまいか。

私はまたソビエト聯合國の議會を見ることが出來た。此議會は毎年一回十日間づゝ開かれることになつてゐるが、恰も、その開期中であつたのは我々の仕合せである。會場は大きな劇場で場の内外處々には是また劍付の銃をもつた兵士が立つてゐる。私は大使館からもらつた外交官の入場券を持參して行つたので、正面の大きなボックスへ通されたが、こゝは以前にザアの觀劇の席であつたといふ。議員の數は二千餘人で舞臺の後方と平土間を埋めてゐる。傍聽人は六階のガラリーに一杯つまつてゐる。演壇に陸軍委員長——即ち大臣——ウオロシ

フ氏の姿が見えると議員も傍聴人も一齊に拍手して急霰の如くといふよりは寧ろ萬雷の如き勢である。大臣は二時間に亘る長廣舌を振つたが議員等は時々拍手するのみで反對の野次は一つもなく、批評的の演説をするものもない。全く一黨の總會の觀がある。私は演説の意味が分らないから會場の様子だけを注意して見るに、議員中には普通のロシア人の外にトルキスタンか蒙古あたりの人種と思はるゝものがあり、服装はセビロ、詰襟、ルバシカ、其他色々で、頬かぶりをした婦人議員も數十人ある。舞臺の奥の一段高い所にレニンの石膏像があつて造花に飾られてゐる。其下を劔付銃をもつた兵士が通る。實に何ともいへない異様なものである。やがて會場を去つて其前のカール・マルクス廣場に出ると、こゝに數百の群衆が擴声器の下で大臣の演説を聴いてゐる。

ホテルの私の室から右の劇場の屋根の上に掲げられた赤旗が見える。夜になると下から電燈で旗だけを照すやうになつてゐて、暗い空に眞紅のはためきが浮いて見える。赤旗はクレムリン宮の屋上にも立つてゐて、やはり同様の照明装置がしてある。申すまでもなくそこがソビエト聯合國政府の本部である。あれが以前にザアの戴冠式を行つた場所かと思ふと今昔の感に堪へない。

市中の様子は前述の如く復活祭の休日であつたためによくは分らなかつたが商店はあらゆる種類のものがある。贅澤な家具や寶石の店もある。毛皮に包まれた婦人が自動車に乗つて行く。跣足の子供が行く。新聞賣や花賣が立つてゐる。毫も普通の都會と變つたことはない。ホテルや百貨店は國營だといふが商賣の仕方に變つた所はない。但し靴とか布地とかを政府が安く賣ることがあるさうだが、之を買ひに行く人が多いために中々買入の順が廻つて來ない。そこで金のある者は買ひに行かないで失業者などを其列に加はらしめて買物をさせるといふことだ。失業保険の制度はあるが其給與が一月十八圓ばかりだから勿論それで食ふことは出來ない。此土地に二年間住居した私の友人は今日のロシアには最早共產主義の實行と見るべき事は全くなかつたと語つたが多分さうだらう。

聞く所によれば幾十萬かの共產黨員は政府の重要な地位に就くことが出来る。その俸給は一月に二百五十ルーブル以上貰はぬことになつてゐるが、其以外に色々の役得があるから相當の生活をする事が出来る。外交官の招待の時などはすばらしい派手なことをする。つまり是が今の特權階級のやうなものだ。しかし黨員でなくても技術家や經營者は高い月給を取るからやはり一種の中産階級である。此人達が實際政府の鐵道や工場や銀行や外國貿易等を

指揮してゐるらしい。モスコウの丸善ともいふべき書店に行つて見たら米獨の工場管理、農業經營等の書物がうづ高く積まれてゐた。

要するにロシアは革命後十年間によく秩序を恢復したといふことが出来る。但し其秩序は營利經濟の秩序であるらしい。といふのが私の今まで多少讀んだ所と二日間の皮相的觀察の感じであるが、私は出来るならば今一度歸途にモスコウへ立寄つて此興味深き國を見たいと思ふ。

(一九二七年四月二十九日ベルリンにて)

レマン湖畔の大會議

ジュネーヴに着いてから今日で十日になる。此町の北端にあるモン・レボー公園に植ゑられた一本の牡丹の花は初めて見た時には見事な満開であつたが昨今は最早色あせて花瓣が一

ひらびら散つてゐる。國際經濟會議の仕事も既に半ば進行した。

會議は五月四日の水曜から開かれたが、その週の土曜までは所謂一般問題の討議であつて、四十七箇國の代表者及専門委員約四百六十人が一堂の下に集まつて各意見を發表するのであつた。其場所はサル・ド・ラ・レフォルマシオンといふジュネーヴにありさうな名の公會堂であつて、右の四百六十人の外に各國の新聞記者及一般聴衆が加はり、討論ではなくして、寧ろ恰も大演說會の觀があつた。英語演説は佛語に譯され、佛語演説は英語に譯され、獨語は英佛語に譯されるので中々時間がかゝる。四日間外國語の演説に耳を傾けるのは並大抵の苦勞でないが正直のところ半分はわからなかつた。唯聯盟から毎朝新聞を出して前日の議事を速報してくれるから翌日になれば意味が通じる。私の隣に坐つてゐた老人はラトヴィアの代表だが、此人は自國語の外は獨露の二國語がわかるだけで英佛は通じないといつたから、下には下があると思つて聊か意を強うした。

此大會議の議長はベルヂックの前首相テウニス氏で此人の開會の辭は會議の目的をよく説明するものであつた。同氏は議題の要點が關稅政策と國際カルテルであることを明かにし、特に前者について稍詳しいことをいつてゐる。即ち大戰中及大戰後に交通の障礙、貨幣の混

亂、領土の變更等のため歐洲の産業の分布状態が不自然になつたこと、又それにつれて各國關稅政策が著しく保護に傾いたことを指摘し、各國が一方に自足自給を計らんとし、又他方に販路の開拓を企つるは明かに矛盾であると斷言した。

會議の中に最も人々の注意を惹いたのは申すまでもなくソビエツト代表の演説であつた。何をいひ出すかと耳をすましてゐたが、要するにロシアの經濟状態の恢復を説き、其國營外國貿易機關の實際を説き、社會主義の國も資本主義の國と商業關係を結び得るといふのであつた。英獨の新聞紙にソビエツトは西歐において貿易上のクレデットを得て機械類を輸入したいのだと指摘してあるが如何にもそれらしい様子が見えた。

今一つ私の注意してゐたのは此會議に對する勞働組合の態度である。アムステルダム、インターナショナルは經濟會議開催日の直前に此地で大會を開いて決議を發表した。その決議の趣旨は英佛白蘭等諸國から代表として派遣された勞働指導者等の連名を以つて各國の代表全部に傳へられた。彼等は國際經濟會議の重要なことを認め將來一層多くの勞働代表者が此會議に入らしめられんことを希望してゐる。彼等は通商の障礙を去除き、現在の關稅障壁を引下げを主張し、又國際カルテルの行動を監督すべき機關を設けんことを力説して

る。佛の代表ジューオー氏は進んで國際經濟會議を勞働會議のやうな大きな常設機關にすべしと提案した。

右の外大會議の演説中出色のものはスツエデンのカッセル教授、エコノミストの主筆レイトン氏等のであつた。多くは歐洲の恢復につき各國の極端な保護政策が大障害となつてゐることを認めたもので、唯その障害を去除ける方法に緩急の別あるのみであつた。又工業の合理化ラシヨナリゼーションといふことも多くの代表の問題とされた。合理化といふ文字は近頃の流行になつてゐるらしいが、その内容はまちまちであつて、或は科學的管理の意味に用ひられ、或は需要供給を計畫的に適合させるといふ意味でカルテルを含ませることもある。

九日の月曜日から議題の要目に従つて商業、工業、農業の三の委員會が組織せられ、別々に會議することになつた。又此内で商農兩委員會は更に分裂して各三の小委員會となつた。小委員會になると三四十人の會合で色々面白い討論が行はれ、それが又吾々にもよく分る。

私は商業委員會中の關稅に關する小委員會に出てるたが、こゝには關稅の引下につき佛の消極的な提案に對し、英が不満足を表明したので會の空氣は聊か險惡になつたが、一晚の中に何か懇談が出來たと見えて翌日の會で佛が護つた。

各小委員會は討議の後に起草委員會を設けて決議案を作らしめ、之を小委員會に持出して練つた上で本委員會に廻し、更に之を總會に廻すことになる。何程の具體的決議が成立するか分らないが、兎に角歐洲人の會議を整理する技倆には感心させられる。

二

國際經濟會議へ出るために私が渡歐するといふことを私の尊敬する或友人に申送つたとき、此人は經濟政策學會に政府の代表が集まつても致方あるまいといふ批評をしてよこした。如何にも此會議は從來あまり多くの先例をもたない異様の會議であつて、ちよつと聞いただけでは其性質がよく分らない。こゝに集まつた所の四十七國の代表者の中には各國の有力な政治家、外交官、行政官、代議士等多數にあるが彼等は其國の政府を代表する所の全權大使ではない。彼等が何を決議しよう、それが本國を拘束すべき條約にはならないのだ。彼等は彼等と同じ権限を與へられた所の學者、實業家、勞働組合、農事組合、商業會議所等の指導者等と一所になつて、世界の經濟的恢復策を討議するだけのことだ。併しながら此會議の目的は唯討議するだけではない。相互の妥協によつて或結論に達しなければならぬ。而し

て其結論は正式の勸告案となつて各國政府に通牒されるのだ。但し各國政府は此勸告に基いて其政策の方針を定める責任はないのだから、正面から見ればこれも全く無力のものといはなければならぬ。それならば國際聯盟は抑々何のために此の如き會議を召集したか、各國の有力者は抑々何のためにこゝへ來てまじめくさつた議論をするのか。私の見る所では畢竟輿論の喚起といふこと、又は各國内の正當なる輿論を國際的に後援するといふことが此會議の大目的である。此輿論の力を認めて之を實際政策上に效果あらしむべく指導するといふ方は歐洲大戰後に現はれた世界の新傾向である。此新傾向の具體化された一の例は國際勞働會議だが、勞働會議には少くとも其構成に關して各國の締結した條約がある。勞働會議の決議に對しては各國政府が或程度の責任を有してゐる。此度の經濟會議に至つては此の如き條約上其他の公式の基礎は一もなくして唯單純に輿論に訴へるのである。

然らば此千差萬別の利害關係を有する四十七國の代表は果して其經濟政策に關する意見の一致を發見することが出来るものかといふに、現に會議の議題となつた二の重要事項の一なる關稅政策については少くとも或程度の可能性がある。蓋し此問題は何れも戦後の歐洲各國が現に迷路に入つてもあましてゐる所である。而かも各國協調の下には必ずしも一方の活

路を見出し得ざる性質の問題ではない。大戦後の歐洲には小國が多數に獨立して國境の長さは戦前に比して一萬一千キロメートル延びてゐる。その一萬一千キロメートルの國境の延長は取りも直さず關稅障壁の延長となつてゐる。一萬一千キロメートルは東京からシベリアを経てベルリンに達するだけの長さである。今米國が非常に好景氣であるのに對して歐洲は何故不景氣と失業に苦しんでゐるかと考へて見るに、その原因は米國が戰爭成金になつたといふだけではない。米國が其廣大な版圖の内において完全に自由交通を許され、地方的分業の利益を受けてゐるのに反して歐洲は戦前以上に經濟的分立を行ひ、各國それ／＼に不自然な産業を維持し或は助成せんとしてゐる。そのために英獨の如き戦前の工業品輸出國が其販路を制限されて不振に陥り多數の失業者を生じてゐるのは勿論だが、さて此等の國から出る工業品を排斥してゐる國々も亦決して樂ではない。只さへ租稅の負擔の重い上に保護政策によつて、益々生活の困難を來たしてゐる。だから相互の協定によつて關稅率の引下を行ふことは歐洲の經濟的恢復の前提條件だといふことに諸國の輿論が向つて來たのである。國際經濟會議は此輿論を迎へて益々これに力を添へんとする一の企てである。

併しながら歐洲諸國の關稅障壁が高くなつた原因は唯各國が工業の自足自給を望むため

かりではない。爲替の亂高下のあるために所謂爲替ダンピングの現象を生じ、そのダンピングを受くる國から見れば内國産業の安定を計るためにも亦關稅率の引上とか又は特別附加稅の追加とかの法を取らなければならなかつたのだ。その爲に各國の關稅法が複雑化し且變動、常なき状態に陥つたことは驚くべきものである。従つて關稅の規則を簡明にし、その變更を少くすると同時に稅率の引下をなすことは、是非やらねばならぬ事であつても、貨幣の安定が出来ない間は不可能であつた。そこで此貨幣の安定が漸次に恢復されて來た昨今に至つて始めて關稅問題の研究が國際會議の目的となり得る次第である。

私は出發前大阪の或會合の席上で、日本の政治實業家等の一部には歐洲諸國が戦後争つて保護政策を取つたのは是即ち時代の大勢であつて、日本も此潮流に乗じて對抗策を講じなければならぬといふ説がかなり有力のやうだけれど、それは自分の賛成し能はざる所であつて、歐洲には戦後八年既に反對の傾向が動き始めたのだといつたが、今こゝへ來て會議の空氣を観察するに、どうも前説を取消すことは出来ない。これは私が日本の讀者に是非お傳へしたいと思ふ一事である。

(一九二七年五月十六日)

前便は會議の進行中にかいたが、今は三週間の討論や協議や宴會やのあわたゞしき體驗を顧みつゝかく。總會が委員會に分れ、委員會が小委員會に分れ、その中に起草委員が出来て、やがて決議案は小委員會から委員總會、委員總會から本會議へと戻されて最終の決議案が出来上つた。かくして世界初めての國際經濟會議は二十三日の月曜日の午後六時に目出度く終了となつたのである。

前便に報じたモン・レポー公園の一株の牡丹は既に散つてしまつた。國際聯盟事務次長たる杉村陽太郎氏の邸先に見えるサレーヅの山に残つてゐた僅かの雪も今は悉く消え去つた。私は今將に此山水秀麗なるジュネーヅの地を去らんとしてゐる。

この三週間に何をしたかと問はるれば私としては何もしなかつたといふのが最も正直な答であらう。まづよくも分りきらない外國語の演説を聞くといふよりも見てゐただけのことだ。しかし會議は私の口も手も出さない間にかねて思つたやうな方向にどんどん進んで行つたのである。蓋し今回の會議は歐洲諸國が大戦後種々の原因で關稅政策の混亂を來たし、各國相

互に對抗的に關稅の引上を行つた結果、會て有利に行はれつゝあつた國際分業の機能が阻害せられ、全體の不景氣を益々甚だしくしたから、そこへ氣のついた各國の識者が方向轉換の策を立てて一種の經濟的軍縮會議をやることになつたのである。故に關稅引下、貿易自由の方針を宣言しなければ此會議の目的は達せられない。これが私の最初から豫想した所であり、又實際に見聞した所である。私はかねての主張を毫も曲げることなしに今後益々確信を以つて會議の結論を支持し、之を我國の輿論に訴へさへすればよいことになつた。固より會議の途中には各國間に意見の相違があり、きはどい論戦もあつたが、しかし今はその行道を説くよりも、直ちに會議の結論たる最終の決議の要點を指摘したいと思ふ。

四

所謂決議なるものは大體現在の時弊を述べ其救治策の大綱を擧げた宣言書のやうなものであつて、直ちに實行を求める條約文の形を有つ所は全くない。決議は商・工・農の三部に分れてゐるが、私は今商業の部の關稅に關する分と工業の部の國際カルテルに關する分とに限つて筆を執る。何となれば此二件が最初から會議の最重要な大問題とされてゐたからである。

關稅については次の文句がある。

「現在の關稅は戰爭以前よりも高くなつてゐて、そのために通商は妨げられてゐる。……又多くの場合には關稅が絶えず變更されるために益々その障害を甚だしくされる。」

「この状態は大部分戰爭から生じたアブルマルの事情に基く。例へば多くの稅は貨幣の暴落しつゝある國からの商品安賣を阻止するために設けられた。しかし此新稅そのものが又商業の障害でもあり、不安定の一因でもある。そこで貨幣の暴落しつゝある國はどうかといふに是は亦その暴落を止める目的で課稅してゐる。或場合には貨幣の暴落が止んで物價は安くなつたに拘らず一旦上げた稅は下らないでそのまゝ据置になつてゐる。」

「第二の理由は現在の或産業を維持する目的を以つて保護政策を行ふことであるが、その産業の内には戰時の要求で方外の膨脹をなしたものあり、又その國の資源では到底出來さうもない經濟的獨立を企つるがためにわざと設けられたものあり、又外國移民の出なくなつた結果として餘剰の人口を生ずるから之に職業を與へんために設けられたものがある。」

——戰時の要求で方外に膨脹した工業といへば第一には軍需品工業があり、第二には當時外國品の輸入の止まつたために其缺乏を充たす目的で無理に起された工業がある。日本で

も製鐵や染料の如きは此第二種に屬するものであつて、之を平時に維持することは極めて困難といはなければならぬ。

「この過大なる生産設備を如何に處理するかの問題はやがて關稅障壁の下に獨立したる國民經濟を創成せんと企てを起さしめた。しかしながらかくして自給自足を實現するの希望は其國の面積や天然資源や經濟上の便宜や地理的關係が良好でなければ到達し得らるゝものでない。世界中に此等の條件を具へた國は極めて稀である。人爲的に増加されたる生産設備は僅かに一部分のみ使用さるゝこととなり、従つてそれは世界の資本を不經濟に浪費することゝなる。これが又近年における金利の異常に高き一原因をなしてゐる。而して關稅障壁の存する限りかゝる資本の浪費は繼續して益々新しきヴェステッド・インテレスト（既存利益）を増加して愈々健全なる政策の回復をおそくさせる。」——日本は國產自給をなすに不適當な國情を有すること決して多くの外國に異なるものではない。金利の高い點においては最も著しきものがある。

「多くの場合には高き關稅は外國との交渉の目的を以つて設けられたが、實際には相互的引下の協定は成立せずして高い關稅のみそのまゝ残つてゐる。」

「此弊害は所謂タリフ・ド・コンバ（對抗關稅）の實行によつて近年殊に著しくなつて來たが、その結果は何時の間にか既存利益を發生せしめて豫定の引下を不可能ならしめる。」
——日本では幸にして此様な關稅の懸引をやつたことはないが、歐洲諸國の間には驚く程此種の事例があるらしい。

「又關稅の高きを辯護する一説は財政上の收入を要すといふことであるが、實際高い稅は輸入を減少せしめ従つて收入をも減少せしめるのである。」

そこでどうしたら此弊害を取除くことが出来るかといふに、それは「各國の平行的又は協調的行爲を必要とする。各國は自國が或犠牲をなせば相手の國も亦同じことをするといふ關係になり、かくて總ての國が全體の計畫の成功を希望するやうにならねばならぬ。」

しからば各國をこゝに導く方法如何。それは輿論を動かすことである。それが此會議に集まつた人々の責任である。尙其他に具體的方法を發見するためには、國際聯盟が其經濟委員會をして調査せしめるといふのである。

五

今回の會議で關稅問題は比較的順調に結論に達したが工業上のアンタント即ちカルテル問題の方は議論百出で、結局一定の大方針を承認するに至らず、たゞ種々の方面から此問題を觀察した結果を述べて、尙引つゞき國際聯盟の經濟委員をして調査をなさしめるといふことになつた。抑々カルテルは歐米において決して新しい問題ではないけれども大戦後に至りて特に重要な意義を有し、又特に國際經濟上に新しき意義を有するやうになつたと私は考へる。何故かといふに前に關稅問題の節にも述べた通り戦後の歐洲には或種の工業について各國ともに過大な設備を擁してゐる。此過大な設備を有する所の多くの企業が相互に競争する事は極めて不得策だから寧ろカルテルの方法によつて安定を求めんとするのは自然の形勢である。尙關稅障壁の設けらるゝ場合には此の如きカルテルは國內の市場を確實に支配した上で外國に向つてダンピングを行ふといふ方針を取ること出来るが、併し各國相互に同様の方針を以つて相争ふとすれば、何れの國もその目的を達することは出来ないで徒らに消費者の利益を害するやうになるから、そこで國際カルテルを結んで世界の市場の安定を計らんとするの亦自然の勢である。故に今回の會議において此問題を討議する必要を深く感じたことと思ふ。併しながら各國政府が如何にして此國內カルテル及國際カルテルの現象に對する

かといふ問題に至つてはまだ國際會議が一定の結論を立てて各國政府に推奨し得るに至らないのである。國と國との間に意見を異にし、資本家と労働者との間に意見を異にする。そこで今回の決議の要點は下の如きものとなつた。

「工業上の協定は其組織及運用を支配する所の精神の如何によつて良くも悪しくもなる。

「工業上の協定が行はるゝ範圍は大量販賣の可能なる集中的工業に限られてゐるから、之のみで歐洲現在の困難を救ふことは出来ない。

「協定の行はれ得る工業にありては一方においては現在の設備をより適當に利用することによつて生産を組織的にし生産費を節約するの功あり、又新企業の發生を適當ならしむることも出来る。又他方において不經濟なる競争を防ぎ、營業を安定せしむるの力がある。

「協定は労働者に就業の安定を與へ、消費者に價格の低減を與ふることも出来る。

「併しながら協定が獨占的傾向を取り不健全なる營業法を取るやうになれば技術の進歩を妨げ、且社會の重要なる分子の正當なる利益を害し、或國の産業に危害を及ぼすこととなる。

「故に協定は消費者及労働者の利益を重んじなければならぬ。又原料品の生産國が其加工

をなす國に向つて其供給を制限し、其他生産國と消費國との間に原料（又は半製品）獲得の條件を異にするやうになつてはならぬ。又協定が工業の現状を固定せしめるやうになつてもならぬ。

「協定に對して如何なる政策を取るかは各國政府の定むべき問題だけれども、協定そのものを總て抑壓すべきではない。

「各國政府は其國內カルテルのみならば國際カルテルに對しても之を支配する權能を有するは論をまたない。併しながら政府の交渉なくして合意の仲裁法が發達するは望まじきことである。

「國際聯盟は各國政府と協同してカルテルの發達を精査し、其技術の進歩や、生産の増加や、労働の状態や、商品の供給や、價格の變動に及ぼす影響を明かにすべきである。協定の内容を公表することは一方には其功につきて輿論の承認を得せしめ、又他方に其惡弊を矯正するのよすがとなるだらう。」

將來有力なる國際的工業協定が種々の工業について成立する場合に日本の同業者が之に加

處すべきや等の問題が起つてくる。吾人は之に對して準備しなければならぬ。

(一九二七年五月二十五日ジュネーブにて起稿、同二十八日パリにて稿了)

パリ及びロンドン雜筆

大飛行の成功不成功

五月二十三日國際經濟會議が終つてから其殘務に二日を費し、二十六日ジュネーブを去つてパリに行き五日間滞在、六月一日發ロンドンに來た。パリへ着いた當時の歐洲の新聞は米人リンドベルグ氏の大西洋横斷飛行の記事で持ち切りであつた。此の二十幾歳の一青年がパリにおいて「如何なる帝王も會て受けたことのない盛大な歓迎」を受けてから、更にブラッセルに向つて發すべくパリの上空を一周したその姿を私はシャンゼリゼーの街から見たのであつた。然るに其後ロンドンに來てから又チェンバレン氏が同じく大西洋横斷に成功して伯林

郊外まで飛んでリ氏の長距離レコードを破つたといふ新聞の賑かな記事に接した。詳しい記事は無論日本の新聞にも出るに相違ないからこゝにかく必要はないが、實際その土地に居て此等の事を見聞すると如何にも「今は飛行の時代」といふ感じが起る。米國の飛行家が引續き大成功をなしたに反して佛國の飛行家は近頃不運であつた。私がジュネーブに居た間に佛國の飛行機が米大陸の東岸に達したといふ報道があつて、經濟會議委員會の席上に議長がそのことを披露し一同拍手を以つて佛國を祝したのであるが、それは誤報であつたことが後に傳へられた。右の飛行機は途中で行衛不明になつたのである。しかしそれよりも一層遺憾なのはリニョー及コスト兩氏の東方飛行の失敗である。此計畫は實にシベリヤを横斷して東京に達し一萬キロのレコードを作る筈であつた。しかも私は幸にも三菱商事會社パリ支店長久我貞三郎君の厚意により東京商科大學の學長教職員學生諸君にあてた一通の書面を此飛行に託することが出來たのである。それが目的を達せずしてウラル山中に着陸したのは全く残念である。しかし此種の大飛行は今日尙ほ全く天候の好惡に支配さるゝ冒險事業であるといふから成功は好運で失敗は不運たるに過ぎず。今後同じ計畫は再々企てられて結局成功するにちがひない。さうして東西兩洋の交通は空を通じてなされるやうになることは殆ど時の問題

である。願れば今から二十年前私が留學生として歐洲に滞在した時にライト氏の飛行機が佛國の某練兵場で飛んだといふことが大評判になつた時代があつた。今後の二十年間の進歩はどんなものか想像して見るだけでも面白いことである。

協同組合と労働黨

英國の協同組合が數年前から政治界に乗り出してコオペラチヴ・パーティーなる名の下に一二の代議士を出してゐることはかねて承知してゐたが、此度チェルテナムに開かれたコオペラチヴ・ユニオンの年會において協同黨と労働黨は選舉の際に一致の行動を取ることが決議された。その發案者の趣旨を見るに普通の實業家は協同組合のために其地盤を侵さるゝことを好まずして種々の機會に其發達を阻害せんとしてゐる。故に協同組合は労働黨——即ち労働組合を基礎とする政黨——と提携して自己を防衛する必要があるといふのである。しかし多くの組合の内には組合員の節約の結果たる組合の資金を政治運動に使用するの危険を感じて此決議に反對するものがあり、決議案は一八四三票に對する一九六〇といふ少數の差で僅かに通過することが出来た。然るに此機會に又主義の上に於いて労働黨の社會主義とコオペ

ラチヴの主義と一致するや否やの問題が起つた。兩者は共に營利主義に反對して協同の國を建設せんとするのだから結局同一のものだといふのが一方の説であり、之に對して社會主義は國家の權力を用ひて産業を統制せんとするが、協同組合は個人の自發的協同によつて事をなさんとするから、此自發主義——ヴォランタリズム——の點において非常にちがふとするのが他の一方の説である。タイムスの如き保守黨系の新聞は後説を支持して抑々コオペレートするか、しないかを決定するものは個人でなければならぬ、コオペレートすることを強制されては協同組合の精神が存在し得ないと論じ、ロシアの例を引いて此社會主義の國では中央政府の商業委員會が價格を決定し、店舗を閉鎖し、役員を任免する權能を有するが、此の如きは英國の協同組合の好む所ではあるまいといつてゐる。保守黨新聞は労働黨の發展を妨害するために特に極端な場合を想像して議論をする嫌があるけれども、しかしながら一から十まで集會的組織を以つて個人の自發的組織に代へるといふことになれば協同の精神は傷けられねばならぬ。自治の完成によつて強制的な國家組織を全く自發的なものと觀念し得しめることが出来るか否かはまだ問題である。それが出来るとしても容易ならぬ訓練を必要とする。今日の人間を前提として考へれば自發主義は確かに社會の生氣を維持する所以であり、

之を機械的に統制することはその生氣を撲滅することになる。それもロシアの如き一般の民
度低き國においてはザアの專制でも又共產黨の專制でも專制によつて人民を教育することは
出来るが英國などではそのやうな餘地があるまい。だから協同組合が労働黨と提携するのが
よいか悪いかは別問題として、一般的に自發主義と強制主義との消長は英國において非常に
面白い問題を展開するものと思ふのである。

國際經濟會議の反響

前の通信に述べた通り國際經濟會議の目的は直接に或具體的の條約案を作るよりも寧ろ各
國の輿論を喚起することである。従つてジュネーヴに集まつた代表等は其場だけで決議をし
ただけでは用をなさない。各其本國において決議の趣意を宣傳しなければならぬ。そこで英
國の代表等は歸來何をするかと注意してゐるとノーマン・ヒル氏は其本業に關係ある海運會
議所において、バルフォア氏は技術家の會合において、夫々通商障害の撤廢に關する決議の
趣意を述べて賛成を求めたといふやうな記事が新聞に出て來る。レイトン氏がエコノミスト
誌を通じて同様の意見を述べることは勿論である。尙五月にジュネーヴに會した人々の中の

多くは國際商業會議所に關係してゐるから、彼等は又六月二十六日からストックホルムにお
ける全世界的の大會に赴いて五月の決議を實際に效果あらしむる方法を審議するのである。
私も實はストックホルムへ出席する豫定であつたが都合により見合せることになつた。但し
同大會には日本經濟聯盟の主事たる高島誠一君が出る外に志立代表を初め數人の日本側代表
者が行くから模様はよく分る筈である。

然るに又此に私の興味を引いたのはドイツ及ベルジックの政府が最近に國際經濟會議の決
議に同意するといふステートメントを發したことである。英國の新聞によると其文句は左の
通りである。

ドイツの分には「聯邦政府は經濟會議の報告全部を承認し、その決議に同意する。又その
報告の趣意を實現すべく熱心に協同する覺悟である。」

ベルジックの分には「政府は會議の報告を完全に承認したることを即座に宣言する。而し
て會議の示した原則の上に他國政府と協議をなさんことを望む。」

フランスの石炭輸入制限

ジュネーヴの會議の具體的な成案の一は曾て國際聯盟經濟委員の起草した「輸出入の禁止及制限の撤廢に關する條約案」を至急に外交會議に附すべしといふことであつた。而して吾々がジュネーヴを去つた後に間もなく開かれた國際聯盟理事會はドイツ外相ストレーゼマン氏の提議により此決議を認め且其外交會議を來十月十七日に開くことと定めた。是も經濟會議のよき反響である。

併しながら歐洲諸國は直ちに着々經濟會議の勸告を實現するかといへば必ずしも然らずで此に反對の一例が皮肉にも右の報道と同時に現はれてゐる。それはフランス政府が外國の石炭の輸入に特許を要するといふ緊急命令を發したことである。それは勿論石炭輸入を直ちに阻止するものではないが、少くとも政府の手心で輸入の數量と方面とを制限することになるから、此國への輸出元たる英獨の當業者には少からざる打撃である。そこで外國政府は極力右政策の緩和を求めてゐるが、又或方面には直ちにフランスからの輸入品に對して報復手段を用ふべしとの提案が出てゐる。さうなれば一の通商戰爭になる。フランス政府の言明によると此命令は國內石炭坑の失業を緩和することを目的にしたものであつて制限の程度は鐵道其他の公益事業に使用するだけの石炭の供給を國內に求めるだけで一般消費者には關係させ

ないといはれてゐるが、それでも從來の通商の徑路は一部杜絶せられ、それだけ外國の石炭坑に失業者を生ぜしむるのみならず、フランス國內でその陸揚とか運送とかに従事したものは仕事を失はねばならず、又英國の輸入石炭の船腹を利用してレンターン・カーゴを積出してゐた工業にも不況を來たすだらう。故に此命令に對しては國內にも大分反對運動があると云ふことだ。フランス政府の行動が實際止むを得ざるものか否かは分らないが、此種の政策が失業防止策として甚だ不満足なものである。側面的惡影響の多いものであることは疑を容れない。

經濟會議では輸出入の制限撤廢などは當然の事として容易に之を通過し、討議の主力を關稅引下問題に用ひたのであるが、實際にはその容易な問題さへ此通りの難關を生ずる。勿論失望するには當らないが經濟會議の事業は前途中々に多難なるべきを察するに足る。

英國の新自由主義

申すまでもなく今の英國自由黨は議會に於て凋落の極に達してゐる。英國政府は保守黨と勞働黨の二大陣營に分れて自由黨の占むべき場所は永久になくなつたと觀察するものも少く

ない。然るに又近頃自由主義のリヴァイヴァルといふ聲が聞え出した。現に近來行はれた三の補缺選挙には何れも自由黨が選出されてゐる。而して其の説明は何であるかといふことが一部の問題になつてゐる。六月十八日発行のネーション誌上ラムゼイ・ミューアの説く所を見るに、十九世紀の末にベンザムの思想に基く自由主義の政策は既になすべきをなし盡して新時代の必要に順應することが出来なくなり、フェビアンズムが之に代つて勢力を得ることとなつた。一九〇六年以後の社會政策はフェビアンの影響を受けたものであつた。けれどもフェアビンには國家社會主義の缺點がついてゐるから其勢力は一時的のものであつて、間もなくギルド社會主義の喜ばれる時代が來た。しかし此等はフェビアンズム以上に生硬なものだから何もなし得なかつた。最近社會主義者の側には何も建設的な思索がなくなつてしまつた。而して人は再びリベラリズムを思ふこととなつたのであるといふ。

しかしながらそれならば所謂新しきベラリズムは如何なるものかといふに、それはミューア氏も一定の形を與へることが出来ない。だゞそれはレーサー・フェアでもない、國家社會主義でもない。その何れとも異つた、而かも兩者の折衷でない一の政治哲學だといふ。それは建設的想像に富んで居り其の事實に忠實なる思索であり今現に自由主義者の間に徐々に成長

しつゝあるものだといふ。

この一文は私に取つて頗る面白く讀まれた。それは彼等の求むる所が恰も私の求むる所だからである。
(一九二七年六月十七日ロンドンにて)

ハイド・パークの貸椅子

今年の夏は雨が多く氣温が低く近年稀なる不順な氣候だといふが、日本の梅雨に比すれば遙かに暮しやすい。朝は四時半に日出、夕は九時に日没、戸外へ出るには最も都合よく出来てゐる。私は屢々新聞を持つてハイド・パークへ讀みに行く。ビーチの大木の蔭、青々として芝地に散在する青ペンキぬりの椅子の一つへ腰をおろす。十分間もたつて忘れた頃に一人の男がやつて來て二ペンスの切符を賣つて行く。此切符には今日限り此公園の何の椅子でもつかはせるとかいてある。つまり、二十二年前に來た時と同じことだ。

概してロンドンには變化の少い所だといふはれるが、全くその通りで最近十年間に彼の未

會有大戦争があつたとは思はれない程舊態そのまゝの事がある。ケンシントンのベイリス・ホテルいふのは、古くから物堅い中産の人を常客としてゐるので私も前に泊つたのだが、今度行つて見るとまだランニング・ウオーターがなくて女中が朝夕湯を持つて室の戸をたゞきに来る。リフトも電氣装置がなくてリフトマンの手が綱を操る。此男に私は二十年から此家を知つてゐると話したら私は三十二年間こゝに働いてゐると答へた。

シチーに勤める日本の銀行會社の支配人諸氏がバルマーストンといふ洋食店で毎日會食される習慣は何時からのことか知らないが、兎角二十年にはなるだらう。今では此會食のため特に一室が貸切になつてゐる。先日此家に附屬した散髪屋に行つたら其の男が自分は二十年前からこゝに居るが店は六十年前からあるといつた。

併し物が全く變らないわけではない。右のバルマーストンのあるビショップスゲート街でも大きな建物の改築が至る所に進行しつゝある。又ウエストエンドではリゼント街の商店が全改築されたといふので、先日キングがロンドン大學百年祭に臨幸の後、わざわざ此方面へ廻り道をされ、各商店はユニオン・ジャックを飾つて歓迎した。又ハイド・パークの側に頗る大きなアパートメント、即ちこゝでいふフラットの新築をやつてゐるが、概して近年女中の

缺乏税金の増徴等が原因になつてフラット住ひをする人が多くなつたといふ話だ。けれども十三年前に野原であつた郊外のゴルダース・グリーンなどは立派な住宅地になつて、それが殆ど皆一軒家か二軒づつの家で埋まつてゐる。電車の内には郊外新開地で地面付住宅を一千磅で賣るといつたやうな、土地會社の廣告が出てゐる。つまり英國人は大陸風のアパートメントを餘り好まないのだらう。

婦人が老若共に斬髪して僅かに膝を蔽ふ程の短いスカートをつけてシガレットをふかす所は近年歐洲一般の流行でこれは随分思ひ切つた變り方だが男の方はさほどでない。シルクハットが少くなりフロックコートは全滅したが、これは戦前から既にさうであつた。たゞシテイーを歩いてゐる人の風が何處やらむさくなつたやうに見える。税金の恐ろしく高くなつた割合には變つてゐない。ソヴェレンの金貨は勿論皆無で一ポンド紙幣がつかはれてゐるが、預金者が銀行へ行つてチェックを出せば帳面も見ずして直ちに金をくれる所は昔のまゝだ。鐵道で手荷物をチェックせずにいきなり貨車へほりこみ、到着驛で客が勝手に自分のものをさがし出して持つて行くのも昔のまゝだ。生活がせちがらくなり、失業者が此の夏のさかりに百萬もあるといふのに此様な大まかな慣習がよく廢れないものだ。

鐵道從業者組合の總會

昨年總罷業で大打撃を受けてから勞働運動は概して穩健になつてゐる。シャッドウエル博士は石炭坑夫の一部に政治運動を排斥する所の新組合の出來たのを見て之に大なる期待を持つた意味の論文をタイムスに連載した。この新組合の連中は大ストライキの當時復業の先頭になつたので或はブラックレグとか、資本家の御用とか嘲られてゐるが、實は至極眞面目な剛正な性格のものが多いのだと同博士は言つてゐる。今のところ此一派が近き將來の組合運動を指導するといふことは考へられないが、しかし逆に見て極左派のコミュニニストが有力になる望みは更に乏しいやうだ。

英國有數の大組合たる鐵道從業者組合は連日總會を開いてゐるが、その勞頭に問題にされたのはいふまでもなく現に議會を通過せんとする勞働組合法である。此法律は保守黨政府が將來昨年やうな大ストライキの起らないやうにするといふ趣意で提出したものであつて、第一、勞務條件に關係なきストライキは總て不法なりとし——即ち政府が政治的ストライキ

と認めるものはすべて不法なりとし、第二、ピケチングを嚴重に取締るやうにし、第三、組合の會費の一部を勞働黨の資金とするには一々會員の承諾を要すと規定してゐる。つまり一九〇六年及一九一三年勞働者側が取り得た權利を全滅でなくとも極度に縮小させようといふのだ。勿論勞働組合及勞働黨に取り死活の大問題で次の總選舉には此法律の撤回が主題になるだらうといふことだ。

そこで鐵道組合の記事が新聞に出るのを見てゐると、中々内部には強硬派があるらしい。即ち斯の如き反動政府に對しては直接行動即ち大罷業を以て對抗するの外なしとの主張があるらしい。けれども大體の空氣は此主張を否認して「組合員は教育及宣傳に全力を盡して速かに勞働黨政府の回復を計るべし」との決議をした。組合長トーマス氏は直接行動の無効なること、大規模のストライキが國民の大損失を生ずること、勞働者は其從事する産業のためには進んで雇主と協力すべきこと、雇主は必ずしも右法案の賛成者ならざることを力説した。この勞働者が其産業の利益のために雇主と協力すべしとの主張については前記の決議に引つゞいてなされた面白い決議がある。その一は近年鐵道に對して自動車の競争が激しくなつて來たが、鐵道會社をして其競争者の使用する道路の費用を負擔せしめるのは不當だといふ

こと、その二は鐵道の貨物の紛失するために莫大な損失を會社にかけてゐるから組合員は宜しく役員と協力して此弊害を絶滅せしむべしといふことだ。而して此第二の點につきトーマス組合長の演説の中には次の一條がある。曰く「LMS鐵道の社長サー・ジョサイヤ・スタンブは此弊害を取締るために請願巡查の數を増すべしとの下條の立案を排してトーマスを呼んで此事を相談に及んだ。このやうなことは巡查よりも組合自らの方がよくなし得る筈だと考へたからだ。昔ならば此種の悪行につけても一口に組合が悪いといはれたものだが、今では會社が其の取締を自身の問題にすると共に組合の仕事と認めるに至つた」と。

英露國交の斷絶

英國政府がロンドンにあるロシアの貿易事務所アルコスへ巡查の一隊を差向けて宣傳書類を差押へ同時に國交斷絶を宣言したのは私がまだジュネーヴにゐた時即ち五月中旬の出來事である。當時同地に來てゐたソヴェットの代表は社會主義の國と資本主義の國との間に貿易

關係を發達せしむることは確に出來ると力説しつゝあつたので此事件は甚だ皮肉に感ぜられたのである。後にロンドンへ來てから聞く所によると當時ミドランド銀行はロシアに對し一千萬ポンドの信用を與へて英國の機械を輸出するの資金にあてることになつてゐたのだが政府の一舉によつて中止されたといふから益々皮肉である。抑々ロシアは無限の天然資源を藏してゐるが之を開くに要する所の資本がない。ロシアは今日も尙帝政時代の如く保護政策を用ひて自國の工業を發達せしめんとの方針を取るだらうけれども、それにしても機械を輸入しなければならず、又機械を輸入するために金を借りなければならぬ。英國に取つては戰前ロシアとの貿易は頗る重要なものであつて、それが失はれたことは英國工業の不景氣の一大原因である。故に此經濟上の關係上から見ると英露貿易の將來は非常に有望といはれねばならぬ。たゞ困つたことにはロシアの外國貿易は政府の獨占事業であり、その政府は外國にボルシェビズムを弘めることを一の任務とする所の政府である。だから外國はロシアと通商を開くに當つて相互の主義の宣傳はやるまいとの約束をするのだが、實際、その約束が嚴守されない。此度のアルコス事務所の搜索は重要な材料を發見したといひ、せぬともいふがロシアが金を使つてコンミニュニストを助けてゐることは全く疑なき所である。此ボルシェビズム

の宣傳は宜しくないといふことについては今の政府黨も自由黨も勞働黨も等しく認めてゐる。たゞ此故を以つて直ちに國交を斷絶せしむることを愚擧なりとするものが少くない。政府部内で此度のことは内務大臣が敢行したもので外務大臣は不賛成ながら引づられたのだといふ説もある。

勞働黨はこれについて何をしたかといふに一片の宣言を發して政府の態度を非難してゐるが、その宣言の内にはロシアが暴に報ゆるに暴を以つてせざることを勸告してある。最近ロシアの勞働組合總會は此英國勞働黨の態度を卑怯であり不信であるとし、勞働黨幹部が石炭ストライキの時に取つた處置までも猛烈な攻撃を加へた。併し英國側にはせると彼等は今日の記事あるを恐れて昨年からロシア側へ注意を與へたけれどもロシアは宣傳の手をゆるめなかつた。今年になつて兩國組合の代表が會見して宣傳中止を約したがそれも效がなかつた。だから英國勞働黨は現政府の處置には反對であり、又國交の再開に盡力もするが、同時にソビエト政府及ロシア勞働組合に對して甚だ不満である。蓋し英國勞働黨の幹部は議會主義を固守せんとするが、少數の黨員は所謂コンミニュニストであり、コンミニュニストならずとも直接行動に走らんとする形勢がある。故に勞働黨がロシアの宣傳を恐れ嫌ふのは當然である。

果してボルシェビズムのロシアは資本主義の國と無事に通商をなし得るか。通商及金融上の實際の必要は結局ロシアを益々新經濟政策に傾かしめ終にボルシェビズムを捨つるに至らしむるのではないか。それともロシアは其主義を守る爲長く貿易關係の發達を犠牲にせねばならぬのだろうか。

(七月十一日附倫敦發通信)

ベルリンの印象

七月十二日から二十一日まで九日間ベルリンにゐた。市中を歩いて見るに町名等は多くは元のまゝで舊帝室に關係のあるフリードリヒとかウイルヘルムとかいふ名稱も變更してない。たゞ帝國議事堂のある所は前にケーニヒス・ブラットといったのを、今ではブラッツ・デル・レプブリクといひ、そこから南へ走る道がフリードリヒ・エーベルト街となつてゐる位のものである。東の方の勞働者町は事情がちがふさうだが、西部ではヒンデンブルグ將軍の誕生日の祝の催物をするから金を寄附せよといふビラが諸方に張つてある。大工業家等の内には

今でもオランダに隠居してゐる舊カイゼルと交際してゐる人が少くないさうだ。日本協會の主事をしてゐるトラウツといふ學者の話では近頃ドイツ人一般にカイゼルは必ずしも好戰的な人ではなく戰争の當時の事情で止むなく起つたものだといふ事を了解するやうになつたといふ。併し復古派が強い勢力を有してゐるのではなく共和政治はまづ安全である。勿論コンミュニストも一時のやうな人氣はない。私のベルリンに居る間にグイエナの大暴動が起つて新聞紙上には毎日幾十人の死者があつたとか、裁判所が焼打されたとか、鐵道電信が止つたとか、大きな活字で報道されてゐるがベルリン市中には何の反響もなかつた。斯の如く政治上の形勢は大體安定してゐるが、經濟上から見てもインフレーション時代の不安をドウズ案の實行によつて全く一掃せられ人民は昔の勤勉儉約で規律を貴ぶドイツ風に歸つたやうに見える。道路や家屋の戦時中荒廢した所は既に完全に修復せられ、今見るのは教會等の大きな建物に足場がかゝつてゐるだけだ。物價が比較的安くして且變動が少いから經濟上の回復の第一條件は具備してゐる。其上戦時の公債は貨幣の濫發といふ荒療治で片付けられ、軍備は平和條約の結果少しも爲し得ない事になつてゐるから、他の一方に莫大な償金——來年から年額十二億二千萬圓になる——を拂つても、其負擔は戰勝國フランスなどより却て少い。だ

からこれからのドイツの復興は他國よりも却つて早いだらうと見られてゐる。勞働者の家庭では今尙黒パンを食べてゐるさうだが、一般の榮養は必ずしも悪くないと見えて、戦時に結核死亡率が人口千人につき二十三人迄昇つたのだが平和と共にずつと下つて十二人になり、インフレーションの時に再び増して十五人になつたが、一九二五年には又十一人に下つてゐる。一九一四年の戦争開始前の數字が十二人だから當時に比して幾分改良したわけだ。併し今日でも失業者の數はまだ五十萬を下らず外國貿易は入超つゞきであり、資本は缺乏して金利が非常に高いのだから決して樂ではない。僅かの滞在でドイツの將來等といふ大問題を議するは餘りに無謀だからそれは止めよう。

私の最も感心したのは飛行機交通の發達である。ドイツは平坦な國で飛行に都合がよいからでもあらうが、ベルリンのベルホーフは既にたしかに歐米大陸飛行交通の中心になつてゐる。廣々した飛行場の一隅に停車場といふか停機場といふか一つの建物があつて乗機券を賣つてゐる。或はバリ或はライブチヒ、グイエナ、或はモスコウと一日中に十回位往復がある。停車場の屋上がレストランになつてゐるからそこで食事をしてゐる間に西から東から飛行機が到着する。又南へ北へ飛び出すのも見える。到着した飛行機の戸をあけると二十人位の旅

客がカバンを提げて出て来る所はまるで科學小説にもありさうな光景だ。私が立あがつて此光景を見た時に見知らないドイツの老紳士が肩をたゞいて『これだからドイツは戦争にまけても中々つぶれません』といったが、私自身もその瞬間全くその通りの感じを起して居た。

私も今モスコウへ来て日々忙しい見學をつゞけてゐる。ドイツの印象を思出さうとしても中々出て来ないから遺憾ながらこれだけにしておく。(一九二七年七月二十七日モスコウにて)

(企業と社會・昭和二年六月—九月)

ドナウに沿うて

沓掛からハルビンまで

八月中旬沓掛でコロンバイルに蒙古青年黨の暴動云々の記事を見て少々シベリア旅行の安否を氣づかつたがそれも數日間のこと、二十四日にいよいよ出發準備にとりかゝるべく東京へ歸つて豫定の通り三十一日の夜行で東京を立つた。出發前も暑いのと忙しいのでいささか閉口した。九月二日釜山に上陸した時夕立が来て初めて新涼を覺えた。深夜驛々で汽車がとまると、驛の名を呼ぶ眠さうな聲が一しきり靜寂を破る。その後の幾分間は滿天滿地の蟲の聲のみがきこえる。起きて外を見れば、明月の下に玉草の露が光つてゐる。淡い旅愁が湧然として起つた。三日は半島縦走の旅程を切つて京城で一休みしたが、この日自動車で郊外

二里の所にある清涼里の御陵を訪れると松林の小徑に野菊がさいてゐる。月明の夜はこゝにも蟲が鳴くことだらう。

京城ではまだ前年來たときに竣工してゐなかつた總督府の新建築を見た。幾百萬圓を投じたか實に壯麗を極めたもので、少くも日本内地にては見たことのない立派な大理石のホールがある。この建物の四階の窓から裏をのぞくと昔閔妃の暗殺された景福宮が見える。あの宮殿は貧弱な朝鮮にふさはしからざる贅澤な宮と考へられてゐたのが、今の總督府は勿論景福宮の幾十倍を費したらうと思ふ。

滿洲は素通りしてハルビンまで走つてしまつた。時計は安東で一時間おくらせ長春で二十六分進めることになつてゐるので鐵道の時間割が甚だまぎらはしい。つまり東京を中心とした時間とモスコウを中心とした時間がこの地で交錯してゐるのだ。もちろん一事が萬事で南滿は日本が築き、北滿はロシアが築いたものだ。しかし終局において總ての施設をもつともよく利用するものは主人公たる支那だらう。

大戦後北滿ではロシアの勢力失墜に乗じて支那政府即ち奉天政府が盛んに政權を回收しつゝあることは昨年ハルビンを通過した際に聞いた話だがこの政權回收運動は本年も益々繼續

されてゐる。壯麗な東支鐵道クラブの庭園には昔は支那人をいれなかつたさうだが、今では支那人の入場者が非常に多い。たゞこゝで催さるゝ西洋音樂のコンサートへ行つて見たら五百人位の聴衆の中に支那人は一人もゐなかつた。しかし數年の内にはこれも變らだらう。

近年支那本部から北滿洲への移住が盛んになり毎年幾十萬を數へたが、本年はそれが百萬に達する見込だとこの土地にゐる友人が語つた。一年に百萬といへば戦前米國へ流れ込んだ歐洲移民の數と同じだ。

滿洲は貨幣論の實驗所になつてゐる。朝鮮銀行の金券、正金銀行の銀券、奉天票、支那諸銀行の紙幣が併行して日々相場の變動がある。ハルビンでは日本人の店だけ朝鮮銀行の札が通用するが支那人やロシア人の店では行はれない。それは日本の札に信用がないのではなくして支那政府が干渉するからだ。支那紙幣は昨年日本金の二割安であつたが今回は三割安になつてゐる。支那紙幣は兌換はしないけれども數量の制限と政府の干渉によつてこの相場を維持してゐるのだ。ロシア紙幣は全く通用しないが相場は百ルーブルに付日本の五十圓位に落ちてゐる。しかし、ロシア政府は旅客が自國紙幣を携へて入國することを禁止してしまつた。我々は入國の際金ルーブルの平價で紙幣を買はされることになつてゐる。こんな政策が

如何なる結果を生じるか、これも面白い問題である。今夜シベリア線に乗込まんとする我々にとつては眼前の緊急問題である。(一九二八年九月六日ハルビンにて)

(一橋新聞・昭和三年九月十七日)

ドナウに沿うて

十月四日から三日間ブラーグの經濟會議に出席してそれから後ヴィーン、ブタベスト、ベルグラードをへてコンスタンチノーブルに到りイタリアの汽船で月末にヴェニスへ引返して來た。この四週間の旅行で感じたことは第一に自分の豫備知識の足りなかつたことである。いづれの國でも何か政治上、經濟上の大問題を控へてないものはないから、如何に單純な漫遊客の氣分になつてもそれに對して全く無頓着では通れない。六ヶ國の大問題が四週間の間に高速力活動寫眞の如く展開してくるのを不完全極まる豫備知識を絞つて、あゝか、かうかと考へ續けるのは中々苦しい仕事だ。そこへもつて來て一の國から次の國へ移るのに旅券だ

税關だ兩替だと一方ならぬ手數がかゝるから結局旅行の楽しみよりは苦しみの方が多くなる。ここに書くのはその苦しみの記録である。

税關・旅券・兩替

國境通過に手數のかゝることは戦後の歐洲を旅行する人の皆經驗する所ではあるが、しかしこの地方に於ける程面倒な處は他にあるまい。兎に角汽車で朝から晩まで走る間には必ず乗車切符の外に税關旅券の検査がやつてくる。しかして汽車をおりて町へ泊ればもちろんその國の貨幣を使はなければならないが、汽車の中の食堂が、僅か一回の食事をするにも勘定はその國の金でやらされる。その金が又曾て名を聞いた事もない新しい金なので、實に骨が折れる。

チェコスロヴァキアはクロネで日本の約六錢に當ると覺えこむ。間もなくオーストリアのシリングは約三十錢といふことを頭に入れてかゝらねばならぬ。それから又ハンガリーはベシゴで約四十錢、ユーゴスラヴィアはデナトリで約四錢、ブルガリアはレヴァで約二錢、トルコはピアストルで約一錢と次々にやつてくる。これだけの經驗を三週間の間にやらされ

れば算術の名人でも恐らくまごつくことだらう。

それに税關と旅券の検査が中々嚴格で入國と出國と二度づゝやつてくる。もちろん早朝でも深夜でも遠慮はしてくれない。抑も戦後の歐洲はいはゆる民族自決主義で政治的に整理されたけれども經濟的には分けてならないものを分けてしまった。國の數を増すと共に折角出來てゐた經濟組織を破壊してしまつたといふことは米國の銀行家ヴァンダーリップ氏が戰爭直後に歐洲各國を視察した時に書いてゐたが全くそれに相違ない。特に曾て奧匈帝國の下に統一した産業組織、金融組織をもつてゐたものが今は六の獨立國に分れてしまつたのは不幸な事といはねばならぬ。

ウィーンからブタペストへ行く汽車の中でオーストリアの大學教授に貴下もパスポートを用意しなければならぬのですかと問うたらもちろんですと答へながら窓外に見えるドナウの流を指さしてこの河の向岸は戦後ユーゴスラヴィア領に組入れられたからこの邊のハンガリー人が河を渡つて用達しに行くには矢張り一々パスポートを用意しますといつて苦笑してゐた。

成る程これだから國際經濟會議などに來る連中は熱心に中歐經濟同盟を主張する譯だと私

は背いた。しかしその人達の説を聽いて見るとこの種の同盟成立には大なる障害がある。それは民族間の嫉妬猜疑である。血統の違つた幾つかの民族が雜居してゐることが奧匈帝國の禍であつたやうに今後築かねばならぬ所の經濟同盟の障害にもなつてゐる。

チェコスロヴァキア

中歐における最も進歩した工業國であるにも拘らず Czechoslovakia といふ國の名のつゞり方だけでも實は今度ブラーグの會議にゆくまで正確には知らなかつた。事程左様に私には馴染のない國語である。所がドレスデンを出て山紫水明のエルベ溪谷に沿うて國境を越えるところもなく金ポタンの制服をきた男が來てペラ／＼と譯の分らぬことをいふ。同車のドイツ人にも意味が通じない。よく聞いて見れば食堂で夕食をするかとき／＼に來たのであつた。お客にわかつてもわからないでも、兎に角一應は自國語を使つて見る所が新獨立國らしい。

やがて汽車がブラーグへ着くとその驛の名はマサリックステーションである。他の一大ステーションはウイルソンステーションと呼ばれて驛の前にウイルソンの銅像が立つて居る。こゝにも新獨立國の氣分が出てゐる。

市中には十四世紀に出来たといふ古い市役所や有名な橋などがあり、日本公使館のあるマルテスカ街あたりへゆくと中世に歸つたかと思ふ程にもさびた小路があるが、それと共に新市街の建築も中々盛んでこれこそ新興の意氣旺盛な國の都と思はせる。たゞ言葉のむづかしいだけは實に困つた。すべての掲示がチェック語のみで書いてあるから便所へ行つても右が婦人用か左が男子用かわからない。帝國時代にはドイツ語を強制されたから今はその腹いせにドイツ語を排斥してゐるのではないかと疑はせる。然し言葉の問題で困らせられるのは外國人ばかりでない。聞けばチェックといふのは即ちボヘミアで前のオーストリア直領のスラーヴ國、スロヴァクといふのは前のハンガリー領のスラーヴ國でこの兩者が合體して一國を立てたからチェコスロヴァキアである。然るにこの國內にはドイツ系の人もありハンガリー系の人もあつてこれらの連中がいはいゆる少數民族の悲哀を訴へてゐる。議會でも同じ農民黨に三民族の派が分れ同じカソリック黨にも三民族の派が分れるから合計十六の政黨が分立してゐる。つまり民族自決で立つた國が又民族問題で悩まされるといふ状態である。

住宅市有

ハプスブルグ王家の統治した大帝國は文字通り四分五裂してオーストリアは今人口六百萬の小國になつてしまつたが、ウィーンへ行つて見ると流石に建物が宏莊で公園が多い上にすべての手いれが行届いてゐて、とても十年前に大戦争に敗けて幾多の政變に苦しめられた國とは思はれない。有名なコンサートホールでは日々滿員の聴衆を迎へていはゆる音楽の都の盛況を見せてゐる。國は小さくても文化においては一方の指導者と自任してゐるらしい。それに我々から見て非常に興味のあるのは今この土地で住宅市有の行はれてゐることだ。ウィーンは戦後の生活難時代に社會黨の市會が家賃制限の法を設けて戦前以上の家賃をとることを禁じ、しかもその家賃は戦後のインフレートした金で支拂ふといふことにしたから實際市中の建物はロハ同様の代金しかとつてゐないのである。

もちろん家主側では右の法律の廢止又は變更を運動するけれども市會議員を選挙する者の多數は借家人だから却々市會で多數を失ふ様にはならない。つまり貸家はすべて没收された妻である。随分亂暴な様だが、この國の公債はインフレーションの結果とくの昔にゼロになつてゐるのだから家主が公債の持主と同様に扱はれたと思へば不思議はない。しかし貸家を建てる利益がないとすればやがて貸家の不足を感ずるに至るではないか。反問して見るにそれ

だから市會は借家人から税金をとつてその金で盛んにアパートメントを新築しつつある。市營アパートメントの数は今日既に三萬に達してゐるが更に二萬五千戸分を建てる計畫があるのだといふ。現在世界で住宅市有を實行してゐるのはモスコウとウイーンだらうが共產國のモスコウよりは共產國ならぬウイーンの方が成績はよささうだ。(二橋新聞・昭和三年十一月)

南スラーヴの國々

攝政ありて國王なし

シルリングのウイーンを去つてベンゴウのプタベストへ行きその昔サンガレトといふキリスト教の聖者が蠻人のために殺されたといふ小山へ登つて行くと英語で話しかける婦人がゐる。この人はアメリカ人だがハンガリー人に嫁して戦争當時からこの地に住居してゐるので革命當時の恐ろしさなどを語つた。如何にも大戦後この國にベラ・クンといふコンミュニス

トが起つてロシア流の革命政府を設けたことは曾て聞いたが、今はどうかと聞いて見るとコムミュニストなどは殆んどないといふ。

ハンガリーは農民の國であり農民は比較的好都合の立場にあるから、コムミュニストの地盤になるべき階級がないのだと知合の大學教授が説明してくれた。ホテルの廊下であつた新聞記者の説では言論の自由が全然認められず新しい新聞などは到底起すことが出来ないから人民の不平は表に現はれないのだといふ。それもうそではなからう。

兎に角今ハンガリーは前海軍大將ホルティといふ人の專制政治になつてゐることイタリーのムツソリニ類するのではないかと思ふ。然るに面白いことにはこの人は自ら攝政と稱してゐるが、攝政に代理される國王といふものがない。ハンガリーは古くからハプスブルグ家を王室と仰いでゐてフランツヨーゼフ老帝が死んだ時には大戦中にも拘らず新帝のために盛大な即位式を行つた國柄である。従つて王政を復する以上は今スペインに亡命してゐる幼君が位に即く筈だが、内外の事情は相當に複雑になつてゐる。王宮を拜觀に行つた時に案内の番人は或肖像の前に立止つてこの少年はハプスブルグ家の世繼である。この方が今十六歳だが十七歳に達すれば歸國されるのだと説明したが果してその筋書通りに行くだらうか。こゝら

で二十世紀の王位繼承問題が起るのではなからうか。

南スラーヴの國

朝の九時半にブタベストを出て午後一時頃國境を通過して夕の五時半ベルグラードへ着いたが、この數時間の間に車窓に現はれる所の風景は全く一變してしまつた。同じドナウの平原でありながら前には耕作がよく行届き道路がよく出來てゐてステーションなども清潔であつたが、後には總てがその反對である。

三時頃フヰイサットといふ驛へ來て柵外に集る群衆の様子を見るとシベリヤへ逆戻りした程の感じがする。ベルグラードの市中でも平家の小さいのがでこぼこの石疊の道路の兩側に並んでそこへ羊のはひ出す所などはハルビンを想出させる。

たれかがロシアはアジアでバルカンはアフリカだと悪口したがその趣がないでもない。抑もユーゴスラヴィアは又の名をセルブ・クロアイトおよびスロヴェニアの王國といふ。けれどユーゴはスラブ語で南を意味し、南方に住する前記三種のスラーヴ人が合體して一國を立てたから南スラーヴの國といふことになつたのでチェコスロヴァキア等の北スラーヴに

對する名稱である。北スラーヴは古くからローマ教に歸依して西歐風の文明國になり文字もローマ字を用ひてゐるが、南スラーヴの本家たるロシアと同じギリシヤ系のアルファベットを使つてゐる。然し言語は大體似たものでブラーグの經濟會議に行つたユーゴスラヴィアの代表は言葉についてかうも不自由を感じないといつてゐた。バルカン半島では尙この外にブルガリアといふ南スラーヴの一派があるから人口からいふとスラーヴは餘程優勢である。スラーヴ以外ではルーマニアがラテン系、ハンガリーが全く飛び離れたアジア風の國語で孤立してゐる。戦後の國境整理は民族自決主義といつても戦勝國は領土を擴げ戦敗國は領土を切取られたのでハンガリーは戦前の三分の一に縮少しセルビアは戦前の五倍になつた。ベルグラードは急に大きい國の首府になつて人口は十八萬から三十萬に増し今盛に市街の擴張工事をやりつゝある。

前にいつたハルビンの様な街の續きにアスファルトの大道が開け、公園が出來、立派な店舗や官廳の建物が出來つゝある。中央工業會議所の書記長に聞いた所では行政上にも商業上にも不統一の制度を統一にし無聯絡の所に聯絡をつけるといつて仕事が出ないやうにあつてそれが追々出來上つてゆきつゝある。鐵道なども賃率がまぢ／＼になつてゐたのを一様にして

しまつた。税制も同様である。かくの如くして經濟上の制度が整理されてくれば本來富源に乏しからざる國だから將來の發展は期して待つべしといふわけである。然しベルグラード市中に兵隊の多いのはどういふ譯かを問ふにそれはイタリーの侵略がこはいからだ。この軍備のために産業の進歩が大なる障害を受けるのだといふ。

歐亞の大道

ウィーンからベルグラードまで鐵道はドナウの本流に沿うて走るが、それから先は支流の谷を廻り、やがてブルガリヤに入つてから分れ、嶺を越えて他の河の流域を通つてコンスタンチノーブルに達する。ブルガリアの首府なるソフィアも沿線にあるがこゝには降りなかつた。車窓にうつる景色から判断すればブルガリアはセルビア以上にバルカン氣分の横溢した所であつてそれ丈け多くシベリヤを思はせる。

私は汽車の中でこんなことを考へだした。今自分の通りつゝある線路が二千年前からの歐亞の大道でローマ人はウィーンからブタベストまで來てゐた。ローマ教會の教化も大體同じ邊でとまつてゐる。それから南西はいはゆるオリエンタル地方とされて居たのである。然し

て十四世紀にコンスタンチノーブルがトルコ人の手に歸してから東西文明の境は更に西へ押され氣味であつた。始めてウィーンへ着いた時に美しい芝地や樹木が多くて建物の配置がよく出來てゐるのは何か特別の理由があるだらうと推察したが、それこそ實はトルコ軍の脅威の意外な副産物である。神聖ローマの皇帝はトルコに備へるためにウィーンの城壁を固めるのみならず城外に廣い空地のゾーンを残しておいた。十九世紀になつてからこの不用の空地の一部をもつて公園となし残つた部分を賣拂つてその金で市役所、議事堂、博物館などを建てたのだと案内記に書いてある。又ウィーンに數多くある立派な建物の中で私が一番良いと思つたヴェルヴェ・テールの宮殿は誰が建てたかと案内記をくつて見るとこれは始め一六八三年トルコ軍がウィーンの城門に迫つた時にこれを撃退した將軍サヴォイ侯の邸であつたといつてある。次にブタベストへ行つてクロータングスキルへ、即ち國王の即位式を行ふ教會堂へ入つて見ると柱や天井に赤青等の見なれない模様がつけてあると思つたが、それはトルコがこの地を占領した時にこれをマホメット教の寺として使用した名残であつた。實際一五四四年から百四十四年の間ブタベストはトルコ領になつてゐたといふことは私には全く初耳であつた。更にセルビア以西の國に至つては十九世紀に入るまで皆トルコ領であつたこと申

すまでもなく、私が世界地理を教へられた頃の地圖にはギリシアを除くバルカン半島の全部がトルコ帝國の内になつてゐたやうに記憶する。

そこで又疑問になるのは軍事的にそれだけ深く攻め行つてゐたトルコがヨーロッパに何を遣して行つたかといふことだ。今まで見た所ではブタベストとベルグラードに要塞のルインが少々あつたのとボスニアに少數のマホメット教徒があることだけだ。その以外に強ひていへばこの邊でコーヒーをよく飲むのが或はトルコから傳つた風俗かも知れない。

(一橋新聞・昭和三年十二月十日)

目覚め行くトルコ

スタンプール

十月二十一日の朝トルコの國境に達したがその地方は非常に暖かであるに拘らず、草木の少い沙漠のやうな處であつた。停車場の外に、ラクダが荷を運んで來たのも見た。やがて汽

車はマルモラ海岸に沿うて走つて行く間に木造二階建の家つゞきが見えだした。それがスタンプール即ちコンスタンチノーブルである。汽車は時間表よりも三時間後れて驛へついた。降車後更に嚴重なパスポートの検査を受ければアジア大陸に屬する。私は海峡のずつと奥の黒海の見える處まで行つて見たが、水面は河のやうに靜かで兩側に青々した山があり、畑があり、村があつて國境地方の沙漠とは大ちがひの樂園である。近頃イタリーがねらつてゐるといふアジアの海岸もこんな處だらうと想像してしまつた。私は又日々前記の橋を渡つてスタンプールへ行つたが、もつとも意外に感じたのはトルコ人の色の白いことだ。外人町でもトルコ町でも顔色では區別がつかない。コンスタンチノーブルには始めローマ人の建てた都であるから歐人の血が多く入つてゐるに相違ないが然し私の讀んだ書物にトルコ人は本來白人種だと書いてあつた。次に服装についてはケマル・パシヤの改革以來、男子はトルコ帽を廢し女子は覆面を廢したので以前のトルコ風は最早見られないといふ話を以前から聞いてゐたが、全くその通りであつてトルコ帽は一度も見ず覆面も極めて稀に見るのみであつた。婦人の服は西洋の尼服に似たやうな形だからヴェールさへ取ればさほど珍しいものではない。つまり顔色でも服装でも建物でも我々から見れば總て西洋風である。小アジアの奥地へ行

つたら如何か知らないがコンスタンチノープルは少くとも外觀上東洋でなくして西洋である。そしてガラタ方面では商店でもカフェーでもフランス語が自由に通じるからフランスの植民地のやうな気がする。たゞ變つてゐるのはモスクだけだ。モスクの中にはサン・ソフィヤのやうに本來キリスト教の寺として建てたものを代用したのもあるが、それにも拘らず歐洲の寺院とは感じが全くちがふ。そのモスクが大小合せて五百あるのだから市の外觀もそれだけは變つて見える。

モスクの印象

モスクの大きいのを四ヶ所見たがその外觀は皆一樣に丸屋根を中央にして四方にミナレットといふ細い塔を立ててある。六世紀にジュスチニアン帝が建てたといふサン・ソフィヤはトルコ人がこの都を占領すると同時にモスクに改造したといふからもつとも古い寺であるが、その他のモスクへ行つて見ても別に變つてはゐない。村々にある小さいモスクに至るまでこの型である。皆サン・ソフィヤを眞似たのではないかと思ふ。内部の裝飾を壁や柱にモザイクを施したものと模様を書いたのと陶器のタイルを張つたの位の差異はあるが大體同じであ

る。それのみならずマホメット教では畫や彫刻を用ひないから、本來裝飾が餘りないのである。たゞ天井の下に幾つかの太い柱が立つてゐて床は一面に赤青などの色どりをした毛氈が布きつめてゐる。卒然として堂内に入つた時の感じは空虚といふことである。又窓が多くついてゐる明りが充分はいるためか、ゴシックの寺のやうな森嚴な気分にもならない。

特別の儀式の時は多くの人類が集るのであらうが、私の行つた時は何れの寺でも廣々とした所に僅か五人か十人の參詣人がゐるだけである。彼等は堂内に設けた噴水で顔と手足を洗ひ清めてからやがてメッカの方へ向つて靜坐してゐる。祭壇といふものもなく、香花燈明を捧げるでもない。偶像排斥は完全無缺に行はれてゐる。音樂もない。一度天台宗の聲明のやうなことをやつてゐるのを聞いたが樂器は全く使はない。すべてが空虚である。圓と直線の外に形といふものなく高さや廣さの外に感じがおこらない。空虚も一種の深い感じではあるが、モスコウ、パリ、プラーグ、ウイーンなどの壯麗又は優美な寺々を見て來た我々には寧ろ失望であつた。

由來コンスタンチノープルはギリシヤ人やローマ人が幾百年の間建てては崩した町である。十字軍の大將達が寺々の目ばしい品物を神の名においてことごとく掠奪して行つたといつて

も美術的傳統だけはあつたらう。今にも地面を十坪も掘つたら必ず大理石の首の一つ位出て來さうな土地柄だ。それにも拘らずモスクの堂内をこれ程空虚にして置いたことはマホメット教の強い所であるか、それともトルコ人の藝術的でないためか何れかでなければならぬ。兎に角この寺へ來て見るとコンスタンチノープルの外觀が西洋風であるにも拘らずその人民の本質は餘程異つたものだといふことがわかる。

新トルコ共和國

十四世紀以來コンスタンチノープルに都した所のオットマン帝國は一九二三年十月に消滅してアンゴラを首府とする新トルコ共和國が出來たのである。大戦前の歐洲の新聞にはサルタンの朝廷をボルトと呼んで常にその外交上の態度を報道したのだが、このボルト即ち宮城の門は今風雨にさらされて見すばらしい姿を留めてゐる。

だから新トルコを見るにはアンゴラへ行かなければならないのだ。私がイタリー行の船の豫約に煩はされてコンスタンチノープルから引き返してしまつたのは大きな誤りであつた。ボルトがドイツ側について聯合國の黒海に對する聯絡を絶つたことは大戦の成行に大影響を

生ぜしめたが、その結末はセーブル平和條約に現はれてトルコの領土は殆んどことごとく分割されることになつてしまつた。コンスタンチノープルには英佛軍に占領せられ、サルタンは手も足も出なかつた。然るに其時ケマル・パシヤといふ豪傑が現はれてスミルナに侵入して來たギリシヤ軍を撃退し、結局聯合軍をして小アジアの全部とコンスタンチノープルと東スレースの地方をトルコ領土と認めしめたのみならず、一舉に外國人の治外法權を撤廢するまでこぎつけた事は我々が當時の新聞を読んで快哉を叫んだ所であつた。

このケマル・パシヤの運動は單なるトルコの獨立といふこと以上に重大な意味をもつてゐる。それは一方には昔の征服國としてのトルコを止めて一個の民族國家にすることであり、他の一方には西歐風のデモクラシーを行ふことである。以前のトルコはアジア、アフリカ、ヨーロッパに跨る大帝國であつたけれど實は幾多の民族がその領土内にあつて少しも統一がとれない所謂病人國であつた。

今トルコはエヂプト人やアラビヤ人の獨立に反對しない代りトルコ人の住む所は完全に自ら支配するといふのである。すべての異民族を解放してしまつた純トルコは人口約一千萬人の小國である。アンゴラ政府は今この小國を整理し開發して、近代的の國たらしむべく必死

となつて諸般の改革を急いでゐる。トルコ帽と覆面を廢したのはそのためである。サルタンをやめるのみならず、サルタンのマホメット教主たる地位まで廢したのは矢張りそのためである。政府はまた小學校を普及せしめ義務教育を行はんとし各地に師範學校を設けたさうだ。又イタリーの刑法、スウイスの民法、ドイツの商法に倣つて法典を作つたさうだ。農業改良のために外國から機械を輸入したさうだ。フランス、ドイツに澤山の留學生をだしたさうだ。特に面白いのは最近アラビア文字を廢してローマ字の使用を強制せんとしてゐることである。アラビア文字は右から左へ横書きをする流儀でアルファベットではあるが極めて複雑なものらしい。それを廢して簡単なローマ字となし西歐と共通の利益を受けようといふのである。一言にして云へばアンゴラ政府は日本よりも六十年後れて明治維新を實現せんとしてゐるのである。今までの所この改革は大した反對を惹起せず、多少の反對は之を押切つてしまつたらしい。

問題は今の改革者が果してよき後繼を得るだらうか。又國民が政府と呼應して改革に熱中するだらうかといふ所にある。

(二橋新聞・昭和四年一月一日)

インド漫遊記

諏訪丸にて

一九二八年十二月十日歐洲の旅をナポリに打切つて日本郵船諏訪丸に投じ、インドへ向つた。そも／＼私がインド漫遊の志を抱いたのは十數年來のことであるが、然しながら何故インドへゆきたいかといふ理由は自分にもあまりよく分らない。大聖釋尊を生んだ國としてのインドに親しみをもつけれども特に深く佛敎に歸依してゐるのではない。インドには古い貴い建築や彫刻があることは聞いてはゐるがそれをわざ／＼見に行く程にこの方面の素養があるのではない。野生のくじやく、らんの花、象、ヒマラヤ山等も見たいには見たいが、さほどの物好きでもない。強ひていへば日本との貿易高五億幾千萬圓に達する國、従つて商業の

ために日本から出張して彼の地に在住する人々の多くある國、さうして旅行の時期を冬季に選びさへすれば普通に想像されるやうに熱くはない、英米からは年々多數のツーリストが入り込む所のその國を、日本人があまりに無頓着に看過し、甚だしきは猛獸毒蛇のすむ國として恐れて近づかない風のあるのはもつての外だといった様な軽い憤慨が本になつて、兎に角この自然のおよび社會的に幾多特異の點を備へた尨大な國土國民を視察する氣になつたのである。従つてこれから書くところの紀行はあらゆる意味において無用な素人の見聞をありのまゝ並べて見るに過ぎないことを豫めお断りしておかねばならぬ。

x

さて諏訪丸でナポリからコロンボまでゆく海上の二週間をインドに關する讀書に費し、大體の旅計畫を作つて見たが、何分にもインドは面積において日本の十三倍、人口において六倍もあるので中々短時日にまはりきれぬ國ではない。ただ大體この國の地勢をつかんで見れば北にヒマラヤの山地があり、その南にガンヂス河の大平原があり、その次にデッカ半島の高原があり更に半島の最南部に平地があるといふことになつてゐるからこの四段の地域を通過して見なければならぬ。次にカルカッタとボンベイはインドの經濟上の二大中心である。

り、デリーはインドの政治上の首府だからこの三都を見るのはもちろんだが、尙あらゆる事項についてインドの問題を紛糾させるところの、インドの人種および宗教關係の上から考へてヒンヅの都とマホメタンの都を訪はなければならぬ。又インドの全部は英國の直領地になつてゐるのでなくして、面積の四割弱、人口の四分の一は七百の藩主に屬してゐるといふからその城下の一二は見たい。その他いはゆる佛蹟も少しは見たいといふ希望をもつたのである。

x

以上諏訪丸の甲板で作つた所の計畫は彼地在留の友人諸君の助けによつて大體これを實現することが出來た。即ち私の旅行の道順は十二月廿六日コロンボに上陸し、セイロンを一寸のぞいてから海峽を渡り南インドで有名なマデラの大寺院を訪ひ、マドラスへゆき、それからデッカ高原を横斷してボンベイに至り、次にアジャンタのどうくつとグワリオルの城下を一見しアグラ及びデリーに行つてモーガル帝國の遺した大建築と英國人の作りつゝある新デリー市街を見、ヒンヅの聖地なるベナレスに遊び、ガンヂス河に沿うてカルカッタを下り、ダージリングに一遊してから一月二十七日カルカッタを出帆しラングンおよびビナンに

寄港してシンガポールに着いたのは二月六日であつた。コロンボ上陸からカルカッタ出帆まで卅日を費したが最後に至るまで毎日意外な新事實を見聞するので私のインド観はまだはつきりして來ない。何を話しても誤りがありさうで、どうも自分の知識に自信がもてない。インドは實に大きくしてかつ複雑な國である。

インドの冬

諏訪丸で同船した人々に私共はこれからコロンボで下りてインド旅行に取かゝるのだといふと、多くの人がそれは暑いのに御苦勞なことだと同情してくれる。私自身はかねてインドの氣候とセイロンのそれと大いに違ふことを聞いてゐたが、しかしそれが何程違ふといふことは想像が出来なかつた。セイロンは一年中暑くて濕氣の多い所らしい。私は茂垣領事の客となつて年末四日間滞在したが、日中は到底外出する勇氣がなかつた。キャンデイは海拔二千尺の高地だといふから涼しからうと思つて出かけたけれども中々さうではない。實際十五分の散歩で汗みどろになつてしまふのに驚いた。然るに一たび海峽を渡つて半島を行くと相

當に暑くはあつても空氣が乾燥してゐるから遙かに凌ぎやすい。更に、北へ進んでデリー、アグラあたりへ行けば朝夕は冬服を着てストローヅに火をいれる程の彼岸日和だ。但しそれだからインドの氣候はよいなどといへば彼地に働いてゐる友人等から抗議がくるのであつて、私共は唯最好の季節のみを経験してゐるのである。

×

抑もインドは熱帯に屬するけれども赤道直下ではないから夏も冬もある。十一月から二月までは大體前記の通りであつて特に雨が絶対に降らないから旅行にはあつらへ向きだが、三月になれば急に溫度が昇つて百度以上になり、六月には大雨がふりだして九月一ぱいまでつづくのだといふから中々樂ではあるまい。インドの冬、即ち乾燥期の風景は實に想像以外であつた。セイロンは熱帯植物が惜しげなく繁茂し、それに山あり、谷あり、急流あり、更に毎日しのつくやうな夕立がくるので中々豪快な氣分を見せるが、インドはこれに反して土地が平たんである上に植物に生氣なく、海岸を除く外は、ことごとく灰色の沙漠のやうに見えた。まづ南インドではシャボテンと龍舌蘭のみが茂つて、椰子さへもまばらにしか生えない。不毛の荒野原が幾時間となくつゞいた。そこには無論村落がまれであつて時々ほう髪をふり

亂した牧童が貧弱な山羊の群を逐うてさまよふのに逢ふ。

×
やがてデッカカン高原へ行つても景色はあくまで荒涼たるものであつて、ハイデラバードの棉花の産地あたりでも、小さくやせた棉の畑が荒野と交替に見えるだけだ。その棉畑に所々に臺灣坊主のやうに作物の枯れた部分があるのは乾燥の如何に甚だしいかを思はせる。

×
それからインドでもつとも豊饒なガンヂス流域へ出ると、さすがに樹木が多くあり、麥畑茶畑など連続してゐるが、百姓は井戸の水をくんで畑へ注ぐのに忙しい。その井戸といふのは畑の中のあちこちに設けてあつて牛の皮のふくろをつるべで下ろして水をくみあげるのだが、これを引くために二三頭の牛を使つてゐる。これは二千年前釋尊の時代からやつてゐる灌がいの方法だといはれてゐる骨の折れさうな仕事である。然らば都會はどうかといふに道路にほこりが多いから銀ぶらなどは出来ない。トンガといふ一頭引きの小さな馬車でドライヴするとたん／＼たるアスファルト道路の並木に砂煙が薄霧のやうにかゝつて見える。幸ひにして風がないから東京の冬の乾燥した場合よりは始末がいゝのである。

×
更に驚いたのはから／＼にかわいた廣い／＼枯野をよく見るとそれが米作のための水田であつたことだ。これが一たび雨季にいと十日間に生きかへつて一面の新緑になると説明されても一寸信用しきれない位だ。私が子供の時から想像してゐたインドは草木が青々としてはずの花が年中さいいて、果物がぼた／＼落ちる程なつて、牛乳と蜂蜜が流れるやうに豊かな國であつたが、これはマレイ半島かジャワあたりの氣分であつてインドにはあてはまらない。インドの冬は寒さのためでなく乾燥のために灰色になつてゐる。かくの如く、一年中の四ヶ月は大雨がふり、八ヶ月は一滴の雨も見られぬといふ自然界の規則が何程この國の農業、交通、衛生および日常生活に影響するか、實に我々旅行者の思ひおよばざる所であらう。

埠頭の群衆

コロンボへ上陸してまづ目につくのは埠頭に集まる土人の群である。彼等は一樣に火ばしのやうにやせた紫たん色の身體に、大幅の白又は赤の綿布の太物を幾ヤールだかぐる／＼巻

つけて炎天にやけるやうな敷石の上をはだしである。一寸見ただけでインド人は野ばんだなといふ感じが起る。但しこれはいはゆるクーリーの階級であつて、町へ行つて見れば上だけ洋服の背廣を着て下に腰巻をした店番が出てくる。又神戸、横濱あたりで見るとメエりの外たうのやうな上着に細いズボンをはいた裕福らしい人も見受ける。又薄絹づくめの貴婦人が自動車を走らして行くのにも逢ふ。

×

それから又一様だと思つた大幅綿布の連中の内にも、頭の形だけは色々あるので、昔の琉球人の如く髪をのばし大きくしをのせたのがシンガリス即ちセイロン人、前部を野郎のやうにそりあげたのがタミール人、額に白赤の三線を引いたり山の字形をかいたりしたのがヒンヅ教徒、トルコ帽がマホメタン、頭を全部そつてオレンジ色の布をまいたのが佛教僧だと説明されればその區別はよく分る。インド人は階級によつて文明人と野蠻人との相違があり、又人種的宗教的に種々様々のものの雑居から成立つてゐることは一日の觀察で肯かれるのである。

×

私はその後各地の埠頭驛頭街頭において、勉めて群衆の服装や動作や顔付を注意してゐたがどこへ行つても、同様の光景を見るので結局インドは單なる大陸でなくして、やはり一種の國だといふ印象を得た。もちろんインドが日本の如く一民族の國でなくして幾多の民族の雑居から成立つてゐることは、前記の如く一日の觀察でもよく分る。そのみならず雑居してゐるものの種類も地方によつて少しづつ變つてゐる。歴史を讀んで見ればインドには始めドラヴンデアンといふ土人がゐるが、そこへ智勇共に優れたアリアン人が北西の國境から大舉してやつて来て豊ぜうな大平原を占領してしまつた。その上に西曆十世紀以來マホメタンが同じ方向から攻め込んで一時はモーガル大帝國の下にほとんど全インドを統一したのだといつてあるが、今旅行して見ても北上するに従つて顔色の黒さが薄くなるばかりでなく顔付も上品になつてくる。例へばデリーあたりのホテルのボーイとして使はれてゐるマホメタンの身長の高い面長の頬髻の濃い、トランプの王様の様なのはコロンボ、マドラス邊では中々見られない。又海峽の連絡船で働いてゐた鼻の低い唇の厚いニグロの血でも交つてゐるかと思はれる様なのはカルカッタではあまりない様に思ふ。その他ボンベイで會つたパーシーの上流紳士に至つては、インド人といふよりも、寧ろユダヤ人と見そなふやうな容貌の持主

であつた。こんな調子で地方的の區別も全くないことはないけれども、雜居が萬べんなく行はれてゐるからいづこへ線を引いても區別することも出来ない。私は各地を廻つて最後にラングンに行くまで、甲の國から乙の國へ移つたといふ感じを起さなかつたのである。

今の英國の植民政政上ではセイロンがインドから離れて別の政府の下におかれ、ビルマは英領インドの一部とされてゐるけれども、人種的にいへばセイロンはインドの一部であつて、ビルマこそ別個の國と目すべきだらう。ラングンへ來ても白木綿の太物を卷いた群衆があつて、支那人のクーリーと共に働いてゐるけれども、これらは明かに外來の者であつて、土着のビルマ人とは全くちがつた人間と見える。インドは詩の國美術の國などといふ人もあるが、少くとも今のインド人はあまり美術的とは思はれない。服装なども前記の通り無趣味極まるものである。これに反してビルマ人は中々しやれ者であつて色彩のたしなみもある。

×

又インド人の群衆は随分多辯でかつ大聲をあげるけれども笑ふことの少い、陰氣なものだが、ビルマ人は何となく柔かみのある樂天的な氣分をもつてゐる。その代りビルマ人はインド人のやうに働くことをしない。近頃ビルマはインドから分離する運動を起したさうだが地

理的歴史的に當然なことと思はれる。

鐵道旅行

旅行者として氣候の次に問題にしたのは鐵道とホテルの設備であつたがこの方はあまり意外とするやうなことはなかつた。インドには現在三萬七千マイルの鐵道があつて、さすがの大國も大鐵道網におほはれた形である。それに主なる都會を結びつける所の幹線は皆廣軌であつて、しかも勾配とカーヴの少い平原を走るのだから速力もよく出るわけで、急行は一時間に四十マイルをとばす。然して一等車は廣々したコンパートメントに専用の便所洗面所とシャワーの仕かけがついてゐるから申分ない。賃錢は三等の四倍以上だといふが、それでも三等車に例の綿布をまきつけた連中がすし詰になつてゐるのを見ると少々もつたいないやうな氣がする。然しインドで階級の差別の嚴重なのは鐵道ばかりではない。又一等客は大抵英國人だから一寸見ると英國人が威張つてゐるやうだが、これも英國人ばかりでない、彼等はインド人の上流者が横暴に振まふ慣習をそのまゝに利用してゐるのだと思ふ。

ホテルはツーリストの道筋には大抵備はつてゐるが、西洋人の出入の少い土地には停車場の二階にレタイヤリング・ルームスといふのがあつてベッドもおいてあるから旅客はこゝで日中の暑い時間を休息も出来るし、又一泊も出来る。たゞ鐵道の客車でもレタイヤリング・ルームでもベディングの備へ付がないから我々は毛布とシートと枕を大きなふくろに入れて持つて歩かねばならぬ。そのためにトラベリング・ボーイといふ専門のボーイがあつて客と共にいづれの地方へでも旅行し、手荷物の世話をしたり、ベッドを作つたり、又簡単な通牒をするやうになつてゐる。私共もコロンボで一人のトラベリング・ボーイを雇つてカルカッタまで伴れて行つたがこの男は前に雇つてくれた日本の客人の推薦狀を澤山もつてゐた。

×
インドの鐵道で不愉快なことは驛員や車掌がいはゆるボックスをほしがることだ。コンパトメントのすいた所へ案内したといつてルービー、接續列車の席をレザーブしたといつて又ルービー、それが少いとすこぶる不氣嫌な顔をする。但しこれも鐵道ばかりではないので、寺の坊さんまでがぬけめなくやる。大きな寺の内陣の前でこれは聖の聖なる場所だ

×
どといふ口の下からボックスをねだる。何程でもよいといふから銀貨二枚やるとそれでは足りない、五枚くれといふ。折角インドの宗教的氣分を味はうとしても忽ちお座がさめてしまふ。こんな國では官吏の收賄も隨分行はれるだらうなどと想像して見ることになる。

×
言語は英語が可なり普及してゐるので旅行者には便利だが、困るのは停車場のポーターだ。汽車が着くとほこりだらけの例の綿布をまいた陰氣な男達が雲霞の如くやつて來て手荷物を一人一個づつ抱へこんでしまふ。言葉は一ことも分らないで、目ばかりぎよるつかせてゐる。但しその時例の旅行ボーイが大なるばりで然るべく片づけるのである。どんな言葉をつかふのかと問うて見ると、南の方ではタミノル語、北の方ではヒンドスタニだといふ。つまり、この二つと英語を知つてゐれば南はコロンボから北はダージリンに至るまで通用することが分つた。書物にはインドに百七十九種の文字が行はれてゐるが、ヒンドスタニは隨分廣く通用すると思ふ。しかしながらこれだけの事實から押してヒンドスタニはインドのリングア・フランカだとする説を信ずることも出来ない。事柄によつてはヒンドスタニも不十分だと見えて、現に立法議會では英語を用ひ、諸大學の講義もすべて英語でやつてゐるのみならず、イン

ドの自治とか獨立とかを叫ぶ所のナショナル・コンGRESSでも英語をつかつてゐる。

×
即ちインド人の國民運動なるものは彼等の暴政者として敵視する所の英人のかけた鐵道とその英人の國語をつかはなければ出来ないのだ。私が前にインドも一種の國だといふたが、それは風俗習慣を異にした諸民族が各自の領土に割據しないで、全國到る所に異分子の雜居をやつてゐるといふ意味である。地方的に分裂する恐れはない代りどこへ行つても統一がつかぬといふことになる。三億の人口が實質的にいはゆるインデアン・ネーションとなるのはもちろん容易なことではない。

ヒンヅー食堂

インド旅行を始めて間もなく氣のついたのは各地の都會にヒンヅー・レストランといふ看板の出でゐることだ。これはどんなものかと例の旅行ボーイに尋ねて見ると、あれはヒンヅー教徒のみが行得る菜食の食堂である。由來ヒンヅーは甚だしく排外的な弊風を有する輩で

あつて寺院の如きもマホメット教のモスクならばたれでも入場差支へなきことにしてあるが、ヒンヅーの寺は嚴重に他教徒の入ることを禁止してゐるのだと早速彼自身の宗教的反感を露骨に語りだした。そもそもインドの平和および統一を妨げる一大原因となつてゐる所のマホメタンとヒンヅーの争ひには如何なる社會的背景があるかといふことを、問題にしてゐた所の私はこのボーイの答へに非常な興味を感じたのである。

×
インドの人口の二割三分はマホメタンの占むる所であるが、その教徒の末社の末社たるこのボーイまでがこれ程の反感を抱いてゐることは實に容易ならぬ事柄だ。然しこの種の事實は旅行中に數多く見聞して益々兩教の争ひの根柢深きことを知らされた。ヒンヅー教徒の菜食の理由はもちろん生きたものを殺さないといふ戒律から來てゐるのだが、その菜食の程度は随分嚴重なものだ。私がある西洋人の主婦の茶に招かれたときヒンヅーの婦人が數名同席してゐるが、この人達は肉のサンドウィッチを食はぬのみならず、玉子の入つた菓子をも食はなかつた。又彼地で商業に従事する日本人が得意先を招待する場合にはヒンヅーには菜食、マホメタンには豚の入らない料理を特に用意しなければならぬといふ話を聞いた。尙この戒

律は上流の階級ほど嚴格に守るといふことだから、下級のものはどうかと思つて在留日本人の家庭に使用するボーイ達が主人の肉食のあまり物を食ふかと尋ねて見た。さうすると、その答にまづ食はないのが普通で、食ふものはそのことを他人に隠してゐるのが多い。食はない場合には肉類をすててしまつて自費で菜食するのである。

×

どうしてこの様なことがかくも一般的に實行されるかといふに、それは最早動物を哀れむといつたやうな感情ではなくして、四足を食へば身心共にけがれて神様の前へ出ることが出来ず、後生何に生れ代つて來るかわからない、その神罰がこはいのである。だから自ら菜食するばかりでなく、肉食で汚れた外道共と席を同じくすることも不快になる。例のヒンヅー食堂の必要があるばかりでなく鐵道構内の水飲み所までもヒンヅーとマホメタンと別々に設けなければならぬのだ。ヒンヅーはすべて殺生を禁するがその中でも特に牛を大切にす。實際インドへ行つて見ると農業にも運送にも牛ばかり使つて馬を使はない。その上に牛乳から作つたバタのやうなものが常食に用ひられてゐるから牛は十分大切にさるべき理由がありさうだ。けれどもこれもそんなことに基いてのことではなく牛は大神シヅアの使者だからこ

れを殺せば神罰が恐ろしいのである。私が田舎の棉花の市場で聞いた話にこの市場へ出入する牛車の主人達は毎月何程かの贖金をして牛の養老院を作つてゐて、自分の牛が働けなくなつたらそこで飼殺しにさせ、決して撲殺しないといふことであつた。

×

マホメタンの側はどうかといふに食物については、豚の外何でも食ふから比較的世話なしだが、これも形式的な戒律が中々やかましい。彼等は毎日五回の祈りをなし毎年一定の時に一月間の斷食を行ひ、一生に一度はメッカへ巡禮に出る。偶像排斥のためにモスクには人物や動物の入つた裝飾を嚴禁し、ヒンヅーの偶像崇拜を極端に輕べつし、かつ敵視する。彼等が昔片手にコーランを捧げ、片手に劍をふるつて侵入した時代にはヒンヅー教および佛教のあらゆる寺院および佛像を破壊してまはつたもので、現在インドに古美術の乏しいのはそのためだと稱せられる。今日は寺をあらしにゆく程の亂暴はしないけれども、何か事があるとヒンヅーの寺の門前で牛を殺して見せるといつたやうな示威運動をやる。ヒンヅーの方でもその意趣返しに金曜日の朝モスクで靜肅な禮拜の行はれる時刻に鐘と太鼓をたゞいてその妨害をするやうな事件が起る。

×
私がインド旅行を終つた後のこと、本年二月七日から一週間ばかりボンベイ全市の家々はしめきりになり、商賣は止まり、ほとんど戒嚴令のやうな取締をしなければならぬ状態になつたことは、その當時日本の新聞にも報道されたが、事の起りはやはりヒンヅーとマホメタンの衝突であつた。マホメタンが何かの工事にヒンヅーの子供をさらつて人柱にするといふうはさが傳はつて、双方若者同志の喧嘩が起つたのが始まりで町中の大衝突となり、百二十人の死者をだした。こんな大騒動は毎年あるわけではないけれども、決して空前の出来事ではなくして前例はいくらもある。要するに宗教のこりかたまりとこりかたまりの鉢合せといふべきものである。

カースト

インドにカーストといふ嚴重な階級制度があつて上級のものとは下級のものを輕べつし、しかもカースト間の婚姻は絶対に行はれないから階級の差別は永久に存続するといふことを物

珍しさうにかいてあるが、實は日本でも六十年前まで大名、侍、町人、穢多などの階級は苛酷な隔てがあつて通婚も出来にくかつたが今ではそんな偏見が殆んど消えてしまつた所を見ると左程面倒でなささうにも思へる。又實際面倒だとすれば何か特別の事情でもあるかといふ疑問が起る。しかし今日二千五百のカーストが分れてゐるといふので問題は非常に複雑だから私共のやうなツーリストに分るわけもない。ただ旅行中の見聞を少々かいて見るだけだ。

×

私が子供の時に歴史の教科書で今から二千五百年前、釋迦の時代にブラミン即ち僧侶、クシャトリア即ち武士、ヴァイシャ即ち農工商、スドラ即ち勞働者の四階級があつたといふことを讀んだが、今でもブラミンだけは一のカーストをなしてその人口一千四百萬あることが統計にのつてゐる。この連中は今日では僧りよばかりでなく官吏、辯護士、教師等になつてゐるさうだが、しかし彼等の經濟上の基礎はやはり寺にあるらしい。寺でなくてもその宗教上の特權によつて収入を得られるから階級が存続するのだらう。例へばヒンヅーの聖地たるベナーレスで群り來る參詣人の額に水をかけてやるだけで立派な収入が得られると聞いた。但しブラミンにはブラミンのおきてがあつて、酒、煙草を用ひず、肉食せず、朝夕

の祈りをかかさず、彼等自ら模範的とするやうな生活をしなければならぬさうである。又彼等は他階級以上の學問をすることになつてゐて、今では西洋の學問をするものも彼等のカーラストがもつとも多いさうである。

X

それでこの階級がもし明治維新後の日本の士族のやうに身をていして國民指導の重任を引受けることにでもなればえらい勢力だらうと思ふが、その様子は見えない。由來ヒンヅリの傳統には佛教に唱へらるる衆生濟度といふ精神なく、唯自分等の神から授かつた清淨な身をどこまでも清淨に保つことのみ考へてゐるらしい。あれ程西洋へ留學などして立派な學者になつた人があるに拘らず、下級者を引あげるといふ努力の現はれないのはこのやうなことが原因になつてはゐらないか。これが彼地の大學教授などと會談した後の感想である。

X

その他のカーストで私の耳に入つたのは高い方で田舎の地主、都會の金貸、金細工師など、低い方で村々に必ずある土器の製作人である。これ等の場合にはカーストがギルドの性質を具へてゐるやうにも思へるが、然し各種職業の世襲的獨占はカーストの自衛のみで維持され

るのではない。上級のカーストに生れたものが傳統的にそれより低いと看なされた職業にづくことを潔しとしないからだ。私の友人の家庭で七八人の男を使用してゐるから、何故左様に多くの人を使ふかと尋ねたところがその答に、インド人は自分のカーストに相當した仕事しかやらないので室の掃除人、庭の掃除人、便所の掃除人と別々に受持たせなければならぬといふことであつた。又ある工場の支配人の話に大學の卒業生を技手に雇入れた時、見本の一包を他の室へ運べと命じたらそれは自分のカーストのものなすべきことでないと抗議した。そんな贅澤な技手は使へないといつたのでしぶく命令を聞いたといふことである。

カーストの關係でもつとも重大な問題は英語でいふアウトカースト即ちカースト以外の最劣階級が六千萬人、全人口の五分の一あるといふことだ。この階級は特に南インドに多いといふから、恐らくは古代にヒンヅリが征服した土着人種の後裔であらう。彼等は村にゐても村の井戸の水をくむことを許されず、寺へ參詣することを禁じられてゐる。現在は全く文字を知らないが、たとひ將來小學校が普及しても他階級のものと同じを並べることが困難であらう。何となれば彼等は生れつきけられた人間だからその手を觸れた品物はことごとくけがれてしまつて他階級の使用に適しなくなる。もし食物の上に彼等の影がさしたならそれだけ

でその食物はくへなくなる。だから都會へ出れば汚物の掃除をするのが、その唯一の職業となるのだ。

x

つまり日本の昔の特殊階級と同じことだが、こちらは多く見て二三百萬、即ち人口の廿分の一以下に止まる。インドでは人口の五分の一を占めてゐる。最近インドの政治運動は著しくデモクラチックになつて來たが、このやうな文化のかけ離れた人民があつては到底進歩した制度を行ふことは出来ない。それ故ガンヂ氏の如き改革家が一方に英國の政治を攻撃すると同時に他方にアウトカーストの消滅を唱へてゐるのは當然なことだが、インドのアリストクラシーたる彼のブラミンの傳統的氣分が前記の如くひとり己を淨くすることになつてゐるのは遺憾といはねばならぬ。

マヂュラの寺

コロンボを夜行の汽車でたつて翌日早朝海峽の連絡船に乗替へ二時間の後に向岸へ着き、

直に汽車に乗つてその日の午後マヂュラ驛に下りた。南インドには北方で見られない大きなヒンヅー教の寺が數ヶ所あつて教徒巡禮の中心になつてゐるが、こゝはその隨一だといふので見に來たのである。驛のレタイヤリング・ルームに一休みすると案内人がやつて來た。服装は例の白木綿だが白髪白ひげで風さい堂々としてゐるから、トガを着た古のローマ人のやうに見えた。私はこの案内人をつれてこの日のうちに市中を一巡し、更に翌朝寺だけを見ることにした。それがあたかも大みそかと元日に當るので、意外な惠方詣りをするものだと思つた。

x

マヂュラの町は人口十三萬に達すといふがほとんど純粹の土人町で、家が小さく、車大工、ブリキ屋、鍛冶屋などの手工業者が表通りで仕事をなし、時々放し飼の牛や山羊が自動車の交通妨害をするといつたやうな土地だ。その小さい民家の中に寺と王宮がづぬけて大きい。兩者共に十七世紀の中頃この豊ぜうな地方に國を立てたある國王の造營である。寺は日本の善光寺、成田山のやうに山の上でなく市内の平地凡二町四面を石べいで圍ひこんでゐる。その石べいの東西南北に各一の門があつて、その門の上に非常に大きなはしご形の塔が立つて

る。塔の高さ百五十尺で遠方からもよく見えるが、近よつて見ると全部が無数の佛像をもつておほはれてゐる。それが美術的にすぐれてゐると思へず、又すべての像が千篇一律の形であるのはいさゝか物足りないが、よくもたんねんにこれだけの石材を刻みあげたものだと感心させられた。寺の本尊はヒンヅーの三大神の一なるシヅアと、その配なる女神ミナチとで前にいつた外壁の内に更に内壁を設けその奥深き所に二の宮が出来てゐる。この宮の内へは信徒以外のものをいれないのである。しかし正門から宮までゆく間に薄暗い廣間や回廊が幾つもつながつて見事な龍と象などの彫刻を施した石柱が並んでゐる。

x

又宮の周圍に多くの末社があり象の顔をした幸運の神ガネシユやシヅアの使者たる大きな石牛もある。それ〴〵燈明があがつてゐるが、石牛の頭や背に油のやうなものがかゝつてゐるのは參詣人が病氣全快とか子寶とかの祈願のためにするのださうで、我々から見れば甚だ不潔だ。又一方には大きな石だゝみのタンクがあつて多くの善男善女が水をあびてゐるが、この水もあまり清潔ではない。參詣人は晝夜を問はず無數に集まつて來て石だゝみの土間に坐つたりねころんだり子供を遊ばしたり、物を食べたりしてゐるのもあつてその亂雑さは善

光寺などの比ではない。彼等は幾十マイル幾百マイルの遠い所から毛布一枚背負つてこの聖地巡禮にくるのだ。門の外から中の廣間まで呉服、小間物、おもちゃ、かゞみ、かばんなどの小店が並んでゐて日本製らしい品も見えるが、これも甚だ貧弱で善光寺に遠くおよばないのは一體に民度の低いためだらう。然し人數だけは非常なもので一年に四回の大祭日には幾十萬人がおしよせ、満月の光の下に兩本尊を車にのせて引だして町はづれにある一千尺四方の大池へ行つて小舟にのせてこぎまはるさうで、この儀式は兩大神の結婚を意味するといふことだ。ヒンヅーの通俗の信仰にはあまり奇抜できつねにばかされたやうなこともあるが、この大祭などは日本人にもわかる方だと思ふ。

マドラスまで

マデユラからマドラスまで急行汽車十五時間位だがこの間に多くの農村を汽車の窓から見ただ。インドは農業國であり、全人口の九割まで農村の住居だから、私はその後の旅行にも農村を注意して見てゐるが、様子は南北ともに大差ないかと思ふ。まづ家の構造は都會では木

造煉瓦造で瓦ぶきの家が多いけれども、田舎は大抵泥の壁をまはしたただけの家であつて、廣さは三坪か四坪もあらうか、屋根は草ぶきである。それがごちや／＼不規則に並んでゐる。中には壁が崩れ屋根が落ちて空家になつたのが、そのまゝ取片づけもせずに残つてゐるものもあつて如何にもだらしない。牛小屋は別にあるかないか、兎に角どこの村にももの／＼やつてゐる。外から見たところの生活の程度は朝鮮の農村と大差ないと思ふが、熱い國だからオンドルの入用もなく寝具も少くて足ることだらう。家具といふ程のものももちろんないがどこの村でも土器を造る家があるから食器などはあれで間に合ふのだらう。それから共同の井戸があつて女共は眞ちうのかめに水をくんで頭へつけてゆく。雑木林のある地方では薪木を拾つて頭にのせてゆく。薪木の足らない所では牛ふんをほしてたき物にするので、往來の牛ふんを拾つてこれも頭へつけてゆく。しかしこんな貧乏な農家でも女の耳環、腕環、足環をつけてゐるのは不思議である。

x

村には大抵大きな池がついてゐてそこで洗濯もすれば、水浴もする、口もゆすぐ、牛もとびこんでくる。もちろんその水は随分きたない上に今は乾期だから少ししかない。雨期にな

つたら一ぱいになるだらうが、要するにたまり水である。さうして雨期にはあの泥の家がさぞじめ／＼するだらう。そこへコレラや天然痘が流行して來たらどうだらうか。こんなことを想像して見るとインドの死亡率が、人口千人につき三十以上、即ち日本の出生率と同様の高さになることも肯かれる。

x

書物を読むとインドの農民には大地主に屬する小作人と自作農とあるさうだが、いづれにしても甚だしく貧乏なことは分つてゐる。彼等は肥料といふものを用ひず、耕うんには昔ながらの木のすきを牛にひかしてゐる。米の收穫は日本の半分に過ぎない、その上に一度早ばつにあへば木も草もかれるから、昔はき／＼がよくあつた。今は鐵道が出來たからき／＼はないが、その代り金貸にいちめられる。西北のバンジャブ地方では近年信用組合が起つてその借金の弊害を救ひつゝあるといふ、私はあちらへ行つて見る事が出來なかつた。

x

ガンヂ氏は西洋工業の侵入を不可なりとし、古來の自足自給生活を維持せよと勧め、自ら手織の粗布をまとひ、機械製綿布を排斥してゐるが、この無智、貧乏、不健康は決して有難

い状態ではない。

ボンベイの町

マドラスは朝について晩に立つまで一日の間に、同地在留のほとんど唯一の日本人小林氏の案内で諸所見物したのである。この土地は全く英人の作つた都會であつて起源はボンベイ及びカルカッタよりも古いけれどヒンターランドが右兩地に劣るから工業も貿易も人口も比較的少い。けれども皮、油などの農産物輸出は中々盛んである。インド人は非常に多くの牛を使つてゐながら靴をはかすにはだしてゐるから牛皮の輸出の大きいのは當然な事である。

x

マドラスから荒涼たるデツカン高原を走ること三十時間にして二日目の朝早くボンベイについた。多くの友人に迎へられてホームに立つとどうやら野蠻國から文明國へ出たやうな氣がした。それから私共の宿所とされ三井の北村支店長方へゆくまでの間に幾つかの廣々とした道路やスクウエヤを通る、そのあたりヴェニス寺院サン・マルコのやうなスタイルの停車場

があり、その他市役所、ホテル、銀行、政廳、裁判所、大學など様式取りよりの宏壯なる建物が、具合よく配置されて歐洲もまれなる美しい町だと思つた。

x

翌日友人がボンベイ灣内にあるエレファンタの島へつれて行くといふので、はしけ波止場へ行くところにて白茶色石造の壯麗典雅なアラビア風だらうと思はれる建物がすつくりと立つてゐて、ドームの下が門のやうになつてゐる。これは現在の英帝がインドを訪問された後にその記念に造つたものでゲイト・オブ・インデヤと名づけてあるさうだ。つまり私共は南インドの庭口から入つてインドの玄關を内側から見るとなつたのだ。

ボンベイ雜感

私共はボンベイ滞在中實業家や大學教授と會談したり、芝居を見たり、小學校を訪ふたり、色々の經驗をした。特にボンベイがその大をなす所以の棉花市場、紡績工場へも行つて見た。ボンベイは英人の起した都會であるが商工業共にインド人の取扱ふ部分が非常に大きい。イ

ンドの工場労働者百四十萬——三億の人口に對照すれば小さなものだが——の内で木綿工業が三十萬、ジュート工業が二十八萬、前者はボンベイに集中し、後者はカルカッタに集中してゐる。しかもカルカッタに八十五のジュート・ミルがある中でインド人所有のもの唯一ヶ所だが、ボンベイの木綿工場八十のほとんどすべてはインド人の所有經營にかゝる。だからインドのブルジョアジーの本據はボンベイにあり、彼等がインドの政策を動かす力も相當に強いものだらうと思ふ。現在かれ等の間には産業保護の要求がさぶる旺盛であつて、それが又スワラジストの政治的國民主義と歩調をそろへてゐる。私が日本で自由通商を主張してゐるといつたら、ある實業家はそれでも日本は保護政策をもつて自國の産業を樹立したではないかと逆襲してきたので、私は日本の經驗は行過ぎた保護の實例であることを證明したやうな状態である。

ボンベイ實業家の保護を主張する一原因は彼等の木綿工業が今非常な難關に出あつてゐるためだ。大戦中の好況に際して工場の増設擴張を行つたが、その生産費が高くて日本品との競争が出來にくい。そこへ勞働運動が猛烈に起つて昨年は十五萬の職工が結束して三ヶ月の大ストライキを敢行したやうなわけで随分もてあましてゐる。それで彼等は日本紡績の夜業

を行ふのは不正競争だといつて國際勞働會議で攻撃して見たり、又インド議會に運動して綿糸關稅を引上たりして見たけれども、まだ足りないので今度は綿布關稅引上を企ててゐる。あるひはこの政策が近い内に事實となつて現はれるかも知れない。しかしインドの工場は日本のそれに比して經營がわるい上に労働者の状態も甚だよくない。私は前にボンベイの美しいことを感心したけれども、工場地帯の労働住宅を見ては反對にその不潔なのに驚いた。その住宅といふのはチョールと稱せられ三階四階の大きな建物の中に一家族各一室を借りて、そこで寢食炊事一切やるのだから堪らない。採光通風のわるい上に掃除不行届で住民の健康を害し一年以下の幼児死亡率は千人につき六百六十に達してゐる。インドの職工は農村から出かせぎにくる連中であつて田舎の無頓着な生活を都會の密集した所で再演するから田舎以上の不健康になるのだと思ふ。産業革命に労働者の犠牲を伴ふのはいづれの國も免れない所だが、かくまで先進國の誤つた經驗がくり返されるとは實に遺憾なことである。

x

ボンベイには今三百人程の日本人がゐるに既に日本人小學校が出來てゐるが、商業の主たるものは東洋棉花、日本棉花、江商の棉花仕入と綿布販賣である。東洋棉花は一の紡績工場を

もつてゐる例の労働争議にへこまされてゐるが、その經營についてはインド人の工場よりも確により所があるらしい。私は佐野東棉支店長の案内で棉花市場を見に行つたが、そこに立派なビルディングがあつて中央の廣間でギャ／＼立合をやつてゐた、外には無数の棉の包みが出積してその價格は幾千萬圓に上る程の數量だといふが、今は雨の心配が絶対にないから青天の下にさらしてある。この棉花を産地から買集めてくるのはインド人の仲買の仕事であるが、日本の三會社はボンベイ市場で買入れる以上に多數の出張員を所々に駐在せしめて産地の仕入もやつてゐる。出張員は半年は産地にゐて收穫期がすむとボンベイに歸つてくる。大抵三十歳位の青年であつてこの人々が單身與地の事務所に陣取つて部下の土人たちを指揮し、ほこりの中に自動車を乗りまはしてゐる姿はすこぶるめざましい。

ア ジ ャ ン タ

ボンベイからアグラまで八百二十マイル、直行すれば一晝夜の行程だが私共はその途中アジャンタとグワリオルを見物することにした。前者は古い佛教の遺蹟であり後者は一地方の

王城のある所だ。いづれもその種類の土地としてはインドで屈指の部類に屬する。

×

佛教の始まりは西曆紀元前六世紀であるが、それが全國にひろまつたのはそれから三百年の後アソカ大王の力によるのであつて、この王の都は今のカルカッタの西北三百三十マイルにあるバトナといふ所だ。然しその後佛教はブラミン族の壓迫と内部の腐敗によつて衰微し、紀元後五世紀乃至七世紀に支那の名僧法顯とか玄奘とかの巡禮した時代には甚だしく不振であつた。今日ではセイロン人およびビルマ人は佛教徒であるがインド本部にはほとんど全くその跡を絶つてゐるから佛寺といふものはない。しかのみならず太古の木造建築は腐朽し、石造のもマホメタンの侵入のとき破壊されてしまつたので、今遺つて居るのは甚だしい。ただサンチとエローラとアジャンタだけが有名である。佛蹟巡禮などといつても眞の佛陀の古蹟なるカピラ城とかマカダ國とか、ブダガヤ、サルナスなどはもちろんのこと、バトナの都にも見るべき遺物は何もないといふことだ。

私の見たアジャンタはボンベイから一晩汽車で走つて、ジャルガオンへ行つて、それから更に自動車で四十マイル行かねばならぬ、随分不便な所だ。幸ひこの地方は棉花の産地だか

ら棉花會社の出張員の案内でゆくことが出来たのである。こゝは水流のために深くほられたけい谷の絶壁を利用して横から岩をくりぬいてどうくつを作つたものである。どうくつの數は二十八個あつて、あるひは禮拜所あるひは僧院となつてゐる。各十間四方位の廣さで表側および内側に幾本かの柱をくりのこしてそれにこまかい佛像の彫刻を施し、内壁、天井等も見事な彫刻又は繪畫をもつて埋められてゐる。又正面の奥には巨大な佛のみ姿が刻みだされてゐる。

x

これ等の作品の美術的の價値は私共門外漢にはわからないけれども、マデユラあたりのものと比べものにならぬことだけはよく分る。出来た時代は紀元前三世紀のもあり、又それから數百年後のもある。いづれも職人の仕事でなく修道僧が信仰のためにひつ生の心血を注いだものに相違ない。サンチには同じく古い時代のスーツバ即ち記念塔の非常に大きいのがあるさうだが、これは見にくくことが出来ず、カルカッタの博物館で僅少の斷片を見ただけである。すべてこれ等の遺蹟を見た所で私の頭に浮んだのは日本の佛寺佛像が實に世界にまれなる貴い藝術であるといふこと、従つてこれを保護するために國民的努力を惜しんではなら

ぬといふことだ。

グワリオル

アジャンタからグワリオルへ行くと佛の世界から王の世界に移る。年代も紀元前から飛んで紀元後十六世紀以後になる。その間にインドの社會状態がどう變化したか、或ひはあまり變化しなかつたか、それは分らない。兎に角十六世紀にマホメタンのモガール帝國が出来て、それが崩壊して無数の小王国となり、その中の七百が今の英政府の下に尙形式上半獨立の地位を保つてゐる。その現存の王国のうちにも大小いろいろあつて最大のハイデラバードは人口千二百萬第二のマイソールは五百萬を有し最小のものは僅か數ヶ村を領するに過ぎぬ。大國の王は殿下の尊稱を用ひ、廿一發の禮砲を受けることが英政府の定めであつて、以下十九發十七發の等級がある。私の見たグワリオルは人口三百萬で二十一發組に屬する。

x

グワリオルの驛を出ると右手に、高さ數百尺の丘上にモーガル風の舊城が毅然として立つ

てゐる。間もなくホテルへ着くとこれもモーガル風を交へた堂々たる石造の建築で王室が外客の便利のために設けられたといふことである。ホテルの前が西洋風の公園になつてゐて、それをぬけると現在の王宮がある。王宮も内外共に全く西洋風で廣間には大理石を多く用ひ眞紅のカーペットをしきつめたなど立派なものである。ヴェランダの前に階段があり、泉水があり、そのさきに見通すかぎりますます芝生があり、その兩側に植込があつてドイツあたりの諸侯の宮殿を思はせる。こゝの王室では象を飼つてゐて、舊城を訪問する外人に貸してくれろといふ話を聞いてゐたので、そのことを宮内官に頼むと快く承諾してくれた。それから私共は城下の市中を一巡してから、例の象に乗つて舊城に上つて見物を終つたのだが、大體感想は王室の經營の進歩的なるに引かへて一般の民度がひくいといふことであつた。市の中央に西洋風のスクエヤを設け、先王の銅像を立てたりして見ても商店は貧弱であつて市場の方が押すなぐの繁昌を呈してゐる。しかしこゝらがインドのインドたる所だらう。

デリーとアグラ

デリーとアグラは共にガンヂスの支流ジャムナ河の岸にあつて兩者の間の距離は僅百二十ニマイルである。兩者共にモーガル帝國時代に全インドの首府とされた土地であつて、漫遊者の興味はそのフォート即ち要塞いと稱する宮城と諸帝王の墓所などに集中してゐる。但しデリーは、英政府が十七年前に總督府をカルカッタからこゝへ移したために再び現在の首府となり。尙その郊外には全く歐洲風の理想的なプランの下に新デリー市が建設されつゝある。この新デリー市は今では僅に道路が完成し、インド議會及び中央政府の宏壯な建築が大部分完成しただけの程度であるが、都市計畫の専門家が見たら非常に参考になるだらうと思ふ。アグラは人口からいへばデリーの四十八萬に對し十六萬の小都會だが、その附近には十六世紀の都市計畫又は宮廷計畫の下にアクバル大帝の經營したファテールの遺蹟がかなりよく保存されてをり、特にマホメタンの美術の最高の作品と稱せられるタジマハルの靈廟がついてゐる。そもゝインドの歴史上全國の統一されたのは佛教のアソカ王の時とこのモーガル帝國の時と二度しかないが、後者の興つたのは十六世紀の始めにトルキスタンから侵入したバルバル帝から七代、百五十年ばかりの間のことである。この侵入者は決して野蠻人ではなく、ヒマラヤ山の彼方にゐた時から既にアラビヤの文明を吸収し、建築や彫刻や庭園の趣

味をもつてをり、バルバルの如きは詳しい自傳をかきのこした程であつた。従つて彼等がインドの富を自由にすることの出來た時代に世界を驚かす作品をだしたのは當然のことである。

×
デリーおよびアグラのフォートは何れも周圍一マイル位の城廓であつて、高き城壁を回らしその外に濠を設け、どつしりした城門を通つて内へ入るやうになつてゐる。城内にも要害堅固なしかけがあるけれども大部分は美しい石造の宮殿の建物がみつしりと所せまく立並んでゐる。宮殿の中には儀式や謁見に用ひられる廣間があり、大理石の禮拜堂があり、宴遊の爲の泉水や小亭があり、居室、寢室、浴室等がある。上品な形のアーチを幾つとなく重ねた回廊を通るとき、又莊嚴な柱の列をなしたその奥に貴い玉座をすかして見るとき、私共のやうな素人でも思はず歎賞の聲を放つたのである。

×
有名なタジマハルの靈廟は始めアクバル大帝の孫シャージャハンが、その最後の皇后の遺骸を埋めるために二十二年の歳月を費して作りあげた殿堂で、後には彼自身も又そこへ葬られた場所である。赤い砂岩の樓門を入ると少しばかりの階段の下からまつすぐに長い泉水が

のびて居て、兩側に歩道があり、暗緑色のサイプレスの並木があり、廣々した芝地がある。その中央のどんづまりに高さ百三十尺のミナレットを四方に配した百八十尺のドームが巍然として青空にそびえてゐる。それが全部白大理石から成つてゐることは實に世界無比であらう。こまかい裝飾に至つては偶像禮拜を極力排斥する所のマホメット教のおきてとして人物や動物の彫刻を用ひることは出來ないが、その代りにさつぱりした唐草模様だのアラビヤ獨特の幾何模様などが白大理石の材料と相待つて十分に清淨無垢の氣分をだしてゐる。たゞ薄暗い堂内に安置された石棺のそばまで行つた時に數名の番人が現はれて無用の説明をした後に例のボックスを請求したのには果然たらざるを得なかつたけれども、それは元よりシャージャハンの知つたことではない。

×
デリーとアグラには宏大なモスクが幾個所もあるが、その型は大てい一様である。まづ外部から見ると石べいの中央に大きなアーチの樓門があつて、兩端にミナレットが立つてゐる。樓門をみると方形の敷地は一面に石だゝみの廣場になつてゐる屋根がない。方形の三面は石べいの内側に回廊を設け正面に高いドームをきつ立せしめてその下を廣間となし、その前面

の階段の上に一列の柱を立ててある。偶像禮拜を忌むが故に奥の祭壇に當る所は無飾の壁になつて居り、その他の部分にも彫刻などはあまり使つてないけれども、柱やアーチの配列によつて十分單調を破つてゐる。私は曾てコンスタンチノープルのモスクを見て、高さも廣さの外に感じの起らない、空虚そのもののやうな所だと思つたが、インドのモスクはそれと大いに異つたものである。インドの回教徒は毎金曜日、幾百千人となく彼の石だゝみの廣場に集合して「アラールは偉大である。アラールの外に神はない」といふ祈りをあげるさうだが、それは随分壯觀だらうと思ふ。

×

インドの名所の中で漫遊者のもつとも好んで見ゆくのにはデリーおよびアグラの王宮、寺院等であり、又實際これらのものは世界の驚異であるに相違ない。けれどもこれがインドといふ古い國の古い名所かといへば決してさうでない。いづれもやうやく三百年を経過せるに過ぎない。日本でも近世の部に屬する日光と同じ古さのものだ。しかもその藝術は外國の征服者が外國から輸入したものであつて、本來のインドの作品ではない。これと類似したものはアフガニスタンにもアラビアにもあるのだ。然らばそれ以上古くてインド固有のものが、

アジャンタやサンチの外に見られないのは何故かといふと、それはデリーおよびアグラの建設者たるマホメタン自身が破壊したからである。現にデリーとアグラの中間にマラといふ町があつて、その附近には昔數百ヶ所のヒンヅーおよび佛教の寺があつたさうだが、ことごとくマホメタンに破壊されて今はその斷片ものこつてゐない。彼等の偶像破壊は實に徹底したものだ。それを考へるとマホメタンとヒンヅーの反目嫉視は實に根源の深いことであつて、インドは不幸な國だといふことが今更しみるゝ感じられる。

ベナーレス

デリーからカルカッタまで、約九百マイルの鐵道はガンヂスの沃野を縦貫してゐる。ベナーレスはその中程でガンヂス河の岸にありインド全國に散在する十數ヶ所の聖都の隨一に位するものだ。南インドで見たマデューラなども主なる聖都の一ではあるが、しかしヒンヅー教徒はヒマラヤの雪の下から出てくるガンヂス河に非常な靈驗を認め、この河の水に浴するものは心の汚れを除かれ、この河のほとりに死ねば後生がよいと信じてゐるから、こゝにもつ

とも多くの信徒が集まり、多くのプラミンが住居を構へるやうになるのだ。ベナーレスがヒンズー文化の中心たることは太古からのことであつて、釋尊がブダガヤで菩提樹のかげに悟りを開いた時にもベナーレスまで来て現在の郊外數マイルにあるサルナス、即ち鹿野苑で最初の説教をされたといふことだ。その傳統が今も衰へずして常に幾萬の巡禮を引つけるのみならず、近年ヒンズー主義の立派な大學が設立せられたりして、インドの宗教生活を見るにはもつともよい場所とされてゐる。

x

新市街のホテルから馬車を命じて舊市街にいと人家が密集し道路がせまくなり、例の白木綿をまいた群衆がうよ／＼してゐる。各自額に三の字や、山の字のしるしをつけてゐるのは毎朝祈りをあげた後につけるのであつて、これは信仰する神によつてしるしが違ふのだといふ。元來ヒンズー教には神即ち宇宙を支配する力が一つしかないのだが、それが創造者ブラマ、保存者ヴィシヌ、破壊者シヴァの三の働きに分たれ、それに女神が配せられ、子神が生れ、神僕がつき、更に大神自身がたび／＼生れ替つて色々の姿を現はすから、そこで無数の神々が出るのである、さうして俗間に行はれる信仰は卑近を通り越して俗惡な、然も頑

固な迷信にまで墮落してしまつたのだ。

ガンヂス河岸

ガンヂスの河岸の水浴場へ行くと幅の廣い石段が水際までついでゐる。巡禮の連中は立つて齋戒沐浴して祈りを上げてゐるものもある。默想のために設けられた石小屋に入つて坐り込んでゐるものもある。然しまた河の水で洗たくをしてぬれたものを石段にほしてゐるものも澤山あつて甚だ亂雜なものだ。又その群衆の中には例の牛がゐる、乞食がゐる。白髪をぼやぼやはやし自然木の杖をついたのが私に向けて鉢をだしたが、それはサドウ即ち聖なる人だといふ。但し本當のサドウは家をすてて單身山野に放浪し、たゞ生命を支へるために食物だけを托鉢するのだが、このあたりうろついでゐるのは偽のサドウが多いと案内者は説明した。

x

こゝで小舟を雇つて中流へこぎだして流れを下つてゆくと河岸には今通つて來たやうな石段が數十ヶ所ある。その間に宏壯な建物が立ならんでゐる。これらは諸國の王家の離宮もあ

り、一地方の巡禮のために設けた無料宿泊所もある。又富裕なブラミンの邸宅もある。それに禮拜堂のとがつた屋根が所々に立まじつてゐる。全體の遠望は中々の壯觀というて宜しい。やがて河岸の一點から煙が立のぼつたのを近づいて見ると大きな薪を積んでその上へ白布につゝんだ死體をおいて焼き始めたのである。ヒンジーはすべて墓を設くることなく死體を灰にして地に歸せしめるのだが、ガンヂスの河に歸せしめればもつとも後生がよいとされてゐる。そのために老病のものはこゝまで死にに來ることもあるさうだ。

×

次に陸へあがつて二三の寺を見る。黄金寺といふのがこの土地でもつとも大きいのだが建築はマヂュラとは比較にならない小さなものだ。せゝこましい町の中に迷宮のやうな曲りくねつた通路を設け、そこに神々の堂やら、石牛やら、香花祭具などの店やらが並んでゐる。まづ東京藥研堀の藥師を幾つとなくよせて汚くしたやうな所だ。他の一の寺は門があり、左にへいがあり奥にとがつた屋根の堂があつて、小さいながら寺らしい感じを起さしめたが、そこには昨日殺した山羊の血が流れてゐた。これは女神カリのほこらで、カリは怒りの神だから動物の犠牲を捧げなければ禍を下すといふことになつてゐるさうだ。こんな神様が

廣く俗間の信仰を得てゐるのは不思議といはざるを得ない。これ等の光景に比すればデリーで見た清淨な簡潔な回教寺がどれ程すぐれて尊いかわからぬ。

カルカッタ

私共がカルカッタへついたのは一月十九日、こゝを立つたのが二十七日、日本なら寒中だが、あちらではせいぜい合服位を着てゐた。私共はインド貿易の功勞者である千田氏の宅を本據として見物にあるき、實業家學者などに會ひ又ダージリング觀光にも行つた。カルカッタといふ地名は例の怒りの女神カリの地といふ意味で、今でも有名なカリのほこらがあつて毎週犠牲の山羊を殺してゐるさうだが、都市そのものはボンベイと同じく英人の經營で歐洲風の美しい商業區域住宅區域がある。市の中央にマイダンといふ廣い芝地が出來てゐて、その一隅に建てられたヴィクトリア女皇記念館など遠望するとハイダーバークに行つたやうな氣がする。

×

カルカッタの人口は百三十萬で英帝國の第二の都會、即ちロンドンに次で大きな都會といはれてゐるが、ボンベイは百二十萬でほとんど五角の都會になつてゐる。外國貿易高もインドの總出入六十六億ルーピーを三分してその一つづつをこの二港が占め、残り一を他の多くの港が占めてゐる。工業に於てもボンベイの木綿とカルカッタのジュートとが對立してゐる。但し兩者の異つた點もあるので、ボンベイにはインド實業家の勢力が強いが、カルカッタではさうは行かない。貿易、工業共に英人の經營に屬するのが多い。又ボンベイの綿業はマンチェスターや日本の激烈な競争に曝されてゐるが、ジュートはカルカッタの獨占といふことである。ジュートの原料はベンガル州の特産であつて世界中この地方のみがこれをだすのだ。

×

それが原料麻のまゝで輸出されるのと糸、布およびふくろの形で輸出されるのとあるが、ジュートはもともと荷造の目的に限られ、きはめて粗大な品物だから毫も精巧といふ要素を必要としない。安い勞力で安い品をだしさへすればよい。インドの勞働者は概してなほ農村に本據を有し、農繁期には郷里へ歸るやうなのがが多くして工場にゐつくものは僅少だから熟練は望み得ないが賃銀は甚だ安い。それにボンベイの木綿工場ではほとんど男工のみ使用し

てゐるが、カルカッタでは大部分が女工であるから賃銀もよほど安いだらうと思ふ。その代り女工のあるものは子供をつれて來て來て仕事をしながら子守をしてゐるといふ風だから能率は低いに相違ない。彼等の生活程度は非常に低くして儉約すれば一日一人の食ニアンナ即ち十錢でも足り、男工一月の所得二十ルーピー即ち二十四圓あれば充分ださうだ。

インドの銑鐵

それから又カルカッタの工業といふと語弊があるがカルカッタから支配されてゐる工業として製鐵業を看過することが出来ない。インドの銑鐵は近年非常に多く日本へ輸入せられ、他のいづれの國からの同品輸入高をも凌駕してゐるがその産地はカルカッタの西方百五六十マイルの半徑内にある。會社は現在三つあつて一番古いのが歐洲大戰前からあつたベンゴル製鐵會社、次がインドの三菱ともいふべきタタ商會のタタ製鐵會社、もつとも新しいのが一九一八年創立のインド製鐵會社である。タタは資本金一億六千萬ルーピーでもつとも大規模にやつてゐるが、他の二社も相當大きなもので、いづれもその工場の周圍に新市街を經營し

てゐる。

私はベナールスからカルカタへゆく途中アサンソール驛で下車してその地のインド製鐵會社工場を見ただけであるが、その位置は豊富な炭田の區域内にあつて鐵鑛も僅百七十マイルさきであり、カルカタへも百三十マイルしかない實に好都合な場所だ。驛の附近に鐵道附屬の市街地があり、それからたんとたる大道を少し走ると左右に使用人および職工の住宅、クラブ、運動場、日用品市場、浴場等が點々として散在し、その向ふに三百五十トンとかの大きな熔鑛爐が二本立つてゐる。材料の運搬、ガラの利用、副産物たる肥料の製造などの設備は私にはよく分らないが最新式といはれたのが決してそうではなささうだ。支配人以下十數人の英人米人が二千人のインド人の上に立つてゐるが、これ等の人々の話によると創業當時から建設工事について困難があつた上に鐵價の暴落で非常に惱まされたけれども、昨今では好成績を収めてゐて、歐洲へでも輸出が出来る。その好成績の理由は全く原鑛の品質がよいからであつてこれは世界中何れの國にもまけないといつて比較表を見せてくれた。

×

私はかねてから日本の製鐵國策などと稱して、原鐵のほとんど絶無な我國に銑鐵の自給を計るのは非常な誤りであり、我國はインドでもどこでもよい、鐵の安く出来る國からほとんど輸入すべきだといふ説を抱いてゐたから、この製鐵所は實に面白く見學した。我國では原鐵を支那から輸入し、それが困難になつたらマレイ半島から輸入してゐるのに、インドから銑鐵を輸入して悪いといふのは、實に調子はづれの國策ではないか。おまけにこちらで銑鐵に課税した場合にボンベイの綿業者が大威張りで綿布關稅引上でもやりだしたら兩國の不幸この上なしだらう。

ダージリング

インドへ旅行したらヒマラヤを是非一見しなければならぬと思つてダージリングへ行くことにした。カルカタを夜八時半にたつと翌朝早く山の麓につくが、この間の距離は三百八十六マイルある。それからヒマラヤ登山鐵道といふのに乗替へて五十マイルを登るのに五時間かかるからダージリング着は午後一時になる。登山鐵道はしばしば後進してジグザグを作つ

たり、又ループを多がいて前に通つた線路の上を横ぎつたりして六千尺の高さに上るのだから手間が取れるのだ。植物は山麓では熱帯のものだが、登るに従つて温帯になり、上の方は温帯の高山植物になる。夏になればベンゴール州の總督以下すべての官吏が書類一切をかついで山上に移るといふが、今は季節はづれで我々のやうな外國の漫遊客がぼつぼつ行くだけだ。然し鐵道沿線に英人經營の茶園がたくさんあつて年中茶が出るから、ダージリングはその支配人等の休養地にもなつてゐる。

×

登山鐵道の最高點を超えて少し下つたところにダージリングの町がある。そのホテルのヴェランダから見渡すと前に大きな谷を隔てて大きな山脈が幾つか重なつてゐて、一番奥の上に高く高くヒマラヤ山脈中エベレストに次いでの高山、二萬八千尺のキンチンジャンガが仰ぎ望まれる。それは甲州街道の大垂水峠から富士を見るやうなものだが、ヒマラヤだけに規模がすばらしく大きい。私ははじめ列車が峠を下りかけた時にこゝから雪の山が見えるはずだと思つて見廻したけれどもそれらしいがない。目を上の方へ向けたら雲の上に大きな純白の山塊が浮んでゐた。その瞬間の感じは日本の歌人の「思はぬ空にはるゝ富士の根」

どころではなかつた。ホテルではストーヴをたいてゐたが、景色はガラス越しによく見える。山はあくまで高く白く青空の一部を占めてゐる。地上にそびえてゐるのではなくして天にかかつてゐるものらしい。これと比べては日本アルプスはおろか、スウイスのアルプスもおもぢやに過ぎない。しかし實をいふと山があまり高すぎて下界の山川草木からかけはなれてゐるからこれをあはせて一幅の好畫圖にすることは出来ない。寧ろ他の一切の世界から切はなして見るべきものだと思つた。

×

その日は夕方から霧が出てしまつたが、翌朝六時に起きて窓からのぞくと註文通りに山は裾の方を雲海につままれて朝日の光りを桃色に反射してゐた。それは全く永劫の雪の殿堂で宇宙の創造と破壊を知ろしめす、畏るべきヒンズーの神の住居そのものであつた。私は更に次の朝三時から支那人のやうな顔付をしたネパール人のクワリーがかつぐチェーヤに乗つてここから六マイルさきのタイガーヒルへ登つて同じ山の姿を見たが、感じはやはり美しいといふよりもおそろしかつた。この地點からは世界一の高山エベレストの絶頂もちよんびり見えたけれども距離が遠いから景色にはならない。それよりもキンチンジャンガがその左右に

ある幾つかの二萬尺以上の山々と共に一大山塊をなしてゐる姿がいつまでも忘れられない。どうしてあんなに超越し得るか。然し下界からあまりかけ離れてゐる。インドに高い思想があるが、一般民衆には取りつきやうがない。その山もあのやうなものかも知れない。

國民會議

私共がインドを旅行してゐる間に新聞の紙面をにぎはす所の記事には一方にアフガニスタンの反動派の軍事的成功アマヌラ王の退位とその後のもりかへしなどすこぶるドラマチックな場面の幾轉回があり、他の一方には英國から來てゐるサイモン委員會の地方巡歴とこれに對するインド人の反對示威運動やインド國民會議の年會における自治獨立の決議など同じくドラマチックな出來事があつた。この西北境外の形勢とスワラジストの獨立運動とはインドにおける内治外交の最大問題であり、私共にも興味もてるので毎朝の新聞を待ちかねるやうに讀んだ。但しインドには英字新聞と色々のインド語の新聞とあるが私の讀んだのはもちろん英字新聞である。

國民會議の年會は毎年クリスマス後の休暇を利用して順次各地に開かれる慣例になつてゐるさうで、一九二八年末の會議はカルカッタでやつたのだ。各地から集まつた數千人の大會合において華々しき論戰の後に通過した所の決議は随分激烈なもので、つまり英國がもし一九二九年末までにインドを完全な自治領にしないならば同會會員は一せいに「非協同」の運動を起すといふのである。英國では現にサー・ジョン・サイモンといふ人を委員長とする一團の政治家、學者などをインドに派遣して憲法の再調査を行ひつゝあるが、インドの急進論者はそんなものを眼中におかず、直にカナダやオーストラリアと同様な完全な自治を與へよ、然らずんば十年前にガンデー氏の指導の下に行はれたやうないはゆるノンコオペレーションの運動に取かゝる。即ち議會の選舉やインド人の任官を防止し、諸税の納付をも防止する、そのために運動員が刑罰を受けるやうなことがあつても厭はないといふのだからすこぶる氣の短い申分である。

新聞によると右の會議に獨立派および自治派ともいふべきものが分れて對立し前者は直に

英帝國以外に獨立することを目標とすべしといひ、後者はまづ英帝國內の自治領の地位を得るに努むべしといふので大分のみあつたが、ガンヂー氏以下領袖等のあつせんによつて辛うじて分裂を避け前記の決議に折合つたのだ。インドでは政治運動に對する壓迫が猛烈に行はれると聞いてゐるが、少くともこの國民會議における言論は自由であつて、思ひきつた反英國の煽動演説も中止を命ぜられないのみならず、新聞にも全文の報道がのつてゐる。例へばカルカッタ在住會員の代表として歓迎の辭を述べたセングプタ氏の演説は種々の實例を擧げて英國の失政を攻撃し、又インド人が如何に英國を助けても英國がこれに報いるやうなことは決してないといふことをこま／＼と論じた後に二の結論を導いてゐる。その一は英國の統治はインド人の幸福にならないで却て貧乏と無智とを招いたこと、その二はたとひ英國の統治の下にインドの物質的文明が進んだとしても、それは要するに外部から與へられたものであつてインド人自身の築いたものではない。一國民の自由を犠牲として得られた平和と繁榮ほど恐ろしいものはない。それがインド人を奴隷にしてしまふのだ。故にインドは如何なる犠牲を拂つても獨立を得なければならぬ。非協同もよし、行政妨害もよし、武装革命もまた辭するところでないといふにある。これは頭のよい大學生の處女演説ではない。創立以來

四十三年を経たるインド國民會議の年次大會における大先輩セングプタ氏の言である。あるひは彼自らその演説の一言一句を信じてゐるのでなくして青年を激勵するためにことさら猛烈な演説をやつたかも知れない。然しながらこの位のことをいなければ刺激にならない程國民大會の空氣は悪化してゐるのだらう。

x

「國民會議」はある時代にはヒンヅーとマホメットと兩教徒の優秀を包括した時代もあつたが、今ではほとんどヒンヅーの知識階級のしかも急進黨のみの團體になつてゐるさうだから、これがその名の示す如く國民の輿論の反映だといふわけには行かない。特にインドの平和は破れてもよい、國內における人種的反感のために内亂の絶えざる状態に陥つてもよいからまづ革命を起して英政府を放逐せよ、といった様な議論には同黨員といへども眞面目に賛成するものは少いだらう。けれども少くともインドの有力な階級に反英國の感情が非常にたかまつてゐることはおほふべからざる事實である。

サイモン 歸れ

インドにおける反英國の感情が濃厚になつてゐる徴候は國民會議以外にも見ることが出来た。それは前にもいつたサイモン委員會に對する示威運動である。サイモン委員は憲法實施の状況を調査のため、各地を巡回中であるが、そのゆくさきさきで黒旗を立てた群衆が出て來て口々に「サイモン 歸れ」と罵り、甚だしきは通行の妨害をなし警官と衝突を引起したりする。私共は幸か不幸かその實況を見る機會に遭遇しなかつたけれども新聞には日々何かかいてあつた。サイモン委員會は憲法改正のために調査を行つてゐるのだからインド人としてこれを歓迎すべきはずなのに、却てかくの如き反感が起るのは何故であるか。それには中々由來がある。

×

そもくインド人の自治獨立運動は前世紀の末、一八八〇年代からのことで革命的運動の先例もあつたが、その頃は世界中に白色人種の外、政治能力あるものはない位の考へで英國

政府は問題にしなかつたし、インド人自身もへこたれてゐた。そこへ大きな刺激を與へたのは日露戦争であつて、日本のやうな小さい國がロシアに勝てるなら自分達も奮發せねばならぬといふことになつて來たものらしい。然しインド人に英語を教へ、イギリスの歴史を學ばしむる以上は彼等が西洋風の國民主義にめざめてくるのは當然な成行であつて、これは日露戦争なしとしても早晚起るべき機運であつたらう。従つて英國でも何かしなければならぬといふので憲法政治の始めに中央および地方の政府に民選の諮詢機關を設けたのは一九〇九年であつた。然るに歐洲大戰に至つて形勢は一大飛躍をなした。凡そ世界に事ある時インドが英國の助けになるとは考へない人が多かつたが、實際は寧ろ意外でインドから百萬の軍隊が出征したのみならず軍事費まで負擔して他の英領植民地同様の態度を取る事が出來た。戦争がづくに従つて多少不安の空氣もあつたけれども現實には兎に角無事に四ヶ年を経過した。かうなると英國でも捨ててはおけないから一九一七年に政府は今後益多くのインド人を官吏に任用すべく、又インドにおける自治機關を漸次擴張してやがて英帝國の一員として責任内閣を立つるに至らしむべしといふ根本主義の聲明をなし、戦争終結の後一九一九年にインド議會および各州議會を開設したのである。

非協同運動

然しインド人の一部には中々そんな事で満足しないスワラジストの連中があつて、この議會開設後間もなくガンヂー氏の指導の下にはゆる「非協同」の運動を始めた。それは英國政府には改革の誠意がないのだから、これと事を共にするのは無益である。自ら新議會の議員とならざるはいふまでもなし、更に積極的に議員の選舉そのものを妨害するといふのであつた。この運動は思つた程に成功もせず、その内に同黨内に分裂が生じ、議會は兎も角成立以來三回の總選舉を経験するまでになつた。けれども「非協同」といふ新しい戰術は英國政府も少からずもてあましたらしく、インド人の側では時に應じてこれを利用する慣例になつた。サイモン委員會のボイコットもその一例である。

×

現行の議會制度は試験的にやつたもので、十年後には再調査すると最初から聲明してあつたわけだが、制度の内容は随分變態になつてゐる。即ち第一、議會は中央も地方も議員の

一部を官選にしてある。第二、中央議會は豫算および法律を審議する権限はあるが、議會から大臣をだしてそれを實行することは出来ない。議會が政府の提案を否決した場合にも總督は自分の一存でそれを強行し得る。第三、州議會は大臣をだすことになつてゐるけれども、警察および財政は地方總督の直轄だから議會出の大臣が産業、教育、衛生等のために施設しようとしても財源問題で行詰まりになつたりする。これがいはゆる二重制度の欠點である。インドのやうな人種關係の複雑な分野さまさまの人口を含んだ國に自治機關を設けるのは非常に困難なことに相違ない。そこで再調査といふことになつたのだが、英國では本國議會の調査會だといふので各黨の議員中から委員を任命してしまつた。インドではこゝにも議會があるのにインド議員を加へないのは不都合だといつて非常に激昂し、インド議會はサイモン委員を助けまいといふ決議をしてしまつた。即ちサイモン委員に對する「非協同」はスワラジストばかりでなくして、穩健派にもおよんでゐるわけだ。この問題が今後どう發展してゆくか、我々漫遊者に豫見などする勇氣はないが、その道の専門家にはすこぶる興味のあることだらう。日本にも朝鮮および臺灣があるからよそ事ではない。

婦人問題

旅行中インド人、英國人、日本人と會談してゐる間にしばしば話題に上つたのは米國婦人キャザリン・メーヨーといふ人の著書「マザー・インディア」であつた。この書物は歐洲でも評判になつてゐると見えて私はジュネーヴの國際聯盟關係の友人からすゝめられ、インドへ行く前に一讀してゐた。内容は主としてインドの婦人問題、特に幼年結婚のこと、寡婦虐待のことなどを、取扱つてゐるので必ずしも新しい發見をしたといふわけではないが、著者が婦人であり、かつ醫者であるために、男子の許されない内房にまで行つて見ることが出來たばかりでなく、それらの陋習を詳述してインドの自治運動者の反省を促すといつたやうな幾分挑戰的態度に出たから、多くのインド人を怒らしたのだ。それにこの著書が一九二七年即ちこれから英國政府の手でインド憲法の再調査を始めるといふ矢先に出版されたことも評判の起る一因だらうと思ふ。兎に角新聞雜誌にはこれに對する賛否の論がこもごも現はれ、インドの名士で反駁のためにわざわざ「ファザー・インディア」といふ著書をした人さへある。

詳しいことは漫遊者たる私共に判斷のしようもないけれども著者のいふ所はうそではないだらう。婦人問題は異教徒間の反感やカーストの懸隔と同じくインドの國民的弱點としてガンヂー氏以下多くのスワラジストの自ら論ずる所である。

×

家庭の内部のことはわからないけれども、バードが即ち婦人を内房にかくす習慣は我々の目にもふれた事だ。この習慣は本來マホメタンの側に嚴重に行はれた事なので第一回教のモスクで禮拜のために集まるものは男子ばかりである。もし婦人が來ればすかしぼりを施した壁の後からのぞくことになつてゐる。又停車場の群衆のうちに頭から白木綿の布をかぶつた婦人を見たこともたびたびであつた。ピンヅ側ではさほど勵行されてはゐないらしいが、それでも芝居の看客は殆んど全部男子のみであつた。又極端な一例としては自動車の窓にみすをたれて外部から見えないやうにしておいて、車を出る時にはその下り口から家の入口までの通路にテントのやうな幕をひろげるのを實見したこともある。然し農村では婦人が顔をだして働いてゐるし、公園博物館などにもたくさん婦人が來てゐるのを見ればバードを守らない家庭も多くあるに相違ない。又それが年々すたれてゆくといふのも事實であらうと思ふ。

幼年結婚といふことも徐々に改まりつゝあるらしいが、それでも満十二三歳で人の妻になるのが普通で、極端なのは九歳十歳の細君もあるらしい。熱帯では子供の成長が非常に早く、在留日本人のあかん坊でも、出産後八ヶ月目に立つてあるくといふから、結婚期の早いのも當然ではあるが、身體の成熟と同時に結婚するとしても随分弊害がありはしないだらうか。メーヨー女史の著書には結婚の早すぎるために死産が非常に多くあり、幸ひにして無事に生れたものも虚弱で出産當時の體重五百目位しかないとか、又は母親が肺病、ヒステリーにかゝるとか、又は男の不品行のために性病が多いとか、悲惨なことが列擧してあるが、これは醫者が病院で見たのだから、すべてその通りとはいへないだらう。けれども私共が途上に見た所の赤兒で太く丸いのは極めてまれであつた。しかもこれは生理上のみの問題でない。若くして母となり、バーダの生活に入る所の婦人は智的に發達することが出来ないからインドの社會の最大の弱點たる迷信の痼疾を取除くためにも是非幼年結婚の風からかへてゆく必要がある。この事は近年まで幾分類似の習慣をもつてゐた所の我々日本人がもつとも公平に理解し得る所ではないかと思ふ。

寡婦虐待

更に一の困難な問題は寡婦の虐待といふことである。インドでは夫に死別した女は前世がわるかつたといふ意味で非常な差別待遇を受ける。一切の服飾をすてさせられるのみならず、一家の内で一番きかない仕事をやらされ、しかも、一生再婚は許されない。一三歳の時に結婚の式だけやつて、五六歳の時にその夫が死んだ場合でも娘は寡婦の取扱ひをうけるといふことだ。それはあまりに悲惨だといふところから思ひ立つて寡婦の合宿所を設け、そこで看護婦や教員の養成をすることにしたのが起源で、今は一の女子大學を成立せしめたといふその老婦人と私は會談したが、右の習慣は今でも行はれてゐるらしい。

かくの如き人道に恐ろしいばかりでなく、婦人の智的發達を妨げて社會全體の進歩をおくらすことになる。インド人が日本人よりも遙に早く西洋人に接してゐながら、經濟上その他について西洋の長所を取りいれることの出来ない一大原因はその婦人の地位が自由でない

所にありはしないか。例へば日本では明治の初年から女教員があつて小學教育の普及に貢献したが、インドでは今でもそれが出来ないといふやうな著しい事實がある。

×
しかしながら日本でも婦人の社會的地位は西洋に比して低くあり、そのために幾分國民の進歩を妨げてゐることがある。さればといつて又西洋風がすべてよいと思へず、特にアメリカ風を東洋に移すことは甚だ考へものだとされてゐる。だから日本人こそインドの婦人問題を研究するのにもつとも適してゐるのだが、そのやうな研究者のまだ出て來ないのは遺憾である。

教育制度

インドの婦人問題や、カースト制度や、ヒンズーとマホメタンの反感や、迷信の強いことなどを實見した一方にスワラジストの政治運動の記事を讀むとき我々はメーヨー女史をまたずして何か調子の取れないやうな感じが起る。今のインドで英國の勢力を放逐するといふこ

とはまづ夢としか思へないが、その夢の世界で完全なる分離獨立か英帝國內の自治かを争つてそのために黨の分裂の危機を生ずるのは取らぬたぬきの皮を争ふやうなものだ。しかし我外國人から見ればこのやうな愛國的運動をする人がどうしてもつと社會制度の改革に熱をもたないかを不思議に思はれる。かの「國民會議」などに出る人々は學問もあり、世界の形勢にも通じてゐて、自國の弊風の弊風たる所以もよく知つてゐるし、又それを口に出して演説したり、文章にかいたりしてゐるが、實際にその弊風を破るところの最有力手段たる普通教育に熱中しないのは何故であるか。

×
あるインド紳士の言に英國はインドを治めること百餘年になつても小學教育が今日の如き不振の状態に止まつてゐるのは英國の政治のよくない證據であるといはれたが、英國が來なかつたら果して教育が進んだらうか。又英國が去つたら果して今以上に進むだらうか。現に法律の上では市町村において義務教育を行つてもよいことになつてゐるけれども、實際にはどこもまだ行はれてゐない、その原因の一はカーストの高い人が低い人の教育に對して費用をださうとしないからだといふ説明をきいた事がある。現在のインドの社會は階級的に出來

てゐるから假令議會制度を設けても決してデモクラシーにはならぬ。上級の人が動きださなければ下級から教育の要求など出るわけはない。

今日のインドで自ら名をかき得るもの人口百人について僅に八人でその内で男が六人八分、女が一人二分とは餘りに低い數字である。そこで小學教育の實際はどんなものかといふ疑問を起したのであるが、私共の旅行日數が少いために思ふやうにその方の見學をなし得なかつた。たゞ辛うじて見て來ただけのことを書いて見ると、ボンベイで市役所の吏員の案内で參觀した學校は模範的の施設だらうと思ふが、これは近頃東京に出来る同じやうな鐵筋コンクリートの立派な建物であつた。然し中に入つて失望したのは兒童の數の少いことであつた。一級の兒童數二十人位でこれが私立の贅澤な學校ならば至極結構だが、公立で無月謝でやつてゐるのだから、つまり一般父兄の向學心の欠乏を示すと思ふのである。但し話をきいて見るとこゝにも日本邊りで想像の出来ない困難がある、といふのは兒童の家庭で話す國語が一つでない。従つて學級を編成するにも、教科書を作るにも、グジャラッチとかマーラッチとか色々の言葉で別々のものになければならぬさうだ。一般父兄が貧乏かつ無智である上

にかやうな不便があるとすればインドの小學教育も中々容易でないとと思つた。

今一個所私の見たのはデリー市中の回教寺でやつてゐる寺子屋である。この方は寺の回廊や廣場の樹木の蔭を教室に代用し、机もなく腰かけもなく、一人の教師の前に各十二三人位兒童がずらりとあぐらをかいてゐる舊式の學校で、我々が寫眞を撮らしてくれといへば、授業を中止するといつたやうな雜作のないやり方であつた。然し英語のわかる先生は一人もゐなかつた。

インド總督の膝許たるデリーにおいてかやうな學校があるのは他によい學校の施設がないのか、それともマホメタンの父兄が舊式を好むのが、何れかでなければならぬ。インドの全人口の九割が農村にゐるといふから、小學校の視察も農村へ行つて見なければならぬが、その機會は全くなかつた。書物には、田舎では人口の密度が低いので、向學心の一層乏しいために學校經營が非常に困難であり、今の形勢では都會と田舎の間に知識のギャップが出来さうだと書いてあるから推して知るべしだらう。

かくの如き小學校の現状から見ると、彼の歐米の諸大學に留學するインドの學生はどこから出てくるかと疑はれるが實は一般民衆の教育の甚だ不完全なるにかゝはらず一部階級の高等教育は中々盛んなものである。中等以上の學校は皆大學の豫備校であつて、現在大學の數はインド全體に十三あり、學生の數は六萬八千に達する。私はボンベイ、ペナレース、カルカッタの三大學へ行つて學問の深い教授にあひ、教室一ぱいになつてゐる學生を見た。カルカッタではサルカー教授の教室で學生から色々の面白い質問を受けて彼等の興味の向ふ所も察することが出來た、それは立派なものだと思つた。あの迷信にかたまつたヒンヅトの寺とこの大學とがどうして同じ國の同じ都會にあり得るかを疑はされた。然しかくの如き高等教育偏重の行はれるものも恐らくカースト制度の一面であるだらう。上級の者が自ら知識を求むることすこぶる熱心でありながら下級の人民にこれを傳へんとする努力が起らないからであらう。大學生の志す所の學科別を問うて見るとこゝにもインドの社會の反映があり／＼と見える。一萬一千の卒業生の内九千八百は文科と法科であり、工科は僅百四十、農科はたゞの八十六である。

×

何故にかゝる數字が出るか。インドは農業國であつて、しかも農業のおくれた國である。一反步當りの生産は砂糖はジャバの四分の一、棉花はアメリカの半分、米も日本の半分である。その國で農科の振はざることかくの如くなるは何故であるか。私の聞いた所のインドの上級の青年は傳統的に體力を働かすことを、好まず文筆のみに携はらんとする。そこで彼等のめざす所はまづ第一が政府の役人である。由來英國は他國の如く植民地へ多くの役人を出さない。あの大きなインドに在住する英人は僅か十六萬人でその半分が軍人、残りの半分の又半分が商人、その餘りが官吏である。だから中央および州政府の下役は全部インド人であり、鐵道の事務員も全部インド人である。この方面に出るには文科、法科がもつとも適當だといふことだ。それに辯護士といふものが又インド學生のもつとも喜ぶ職業だといふから法科の多いことがわかる。しかし最近に大學卒業生が過剩になつて就職難に陥り、有識無産階級が出來つゝある。これが又無謀な政治運動の起る一原因にもなつてゐる。日本も高等教育偏重に苦しんでゐるがインドはそれ以上だ。

×

我々はインドの教育ある人々が現に政治運動に注ぐだけの熱を教育に費したよからうと思

ふが、英國政府もまだ／＼なすべき事があるといふ感じをもつてこの漫遊を終つた。インド人は英人の如く個人的に自らの制度を築いて行く人民でなくして國王とか政府とかのひろげられた大きな網の内で働く事を要求してゐるやうに見える。英國がインド人の私的生活に立いたらないで唯秩序の維持、生命財産の安全といふことだけに力を注いで、それによつて長い間の平和を保證し得たことは異民族統治の一大成功であらうけれども、その代りインド人の力を有効な方向に向けるといふ一面から見ても足らない點がありはしないか。

×

政府がもし産業、教育、衛生といったやうな方面に一層干渉的態度を取つたならば、インド青年の志望もより多くこの方面に集中せられ、官吏としてあるひは技師、教師として働くことになつたのであるまいか。もちろんかゝる方針を取れば時としてインド人の宗教的偏見と衝突する場合も少くないだらうけれども、それにも拘らず干渉を可とすることがありさうに思ふ。私は朝鮮、臺灣を旅行した際には政府があまり世話をやきすぎるといふ印象を得たが、インドではそれは逆になつてゐる。(朝日新聞・昭和四年三月廿三日―四月十二日)

西部カナダ印象記

バンフに向ふ

今年の夏私は夏季休暇を利用して、前後五十日間の海外旅行を試みた。その用向はカナダのロッキーマウンテン、バンフと云ふ處で開催された太平洋會議に出席することであつたが、なほ會議終了の後、十數日を合衆國に行つてシャツトルで暮した。日本を出たのが八月二日(日枝丸)日本へ歸つたのが九月二十一日(平安丸)といふわけでこの五十日のうち二十二、三日間は郵船會社の御厄介になつてゐるのである。私は海上へ出れば至つて弱蟲であるが、夏季の北太平洋は概して非常に平穩で、大體波の頭が白くなつてゐる日よりも眞青に見える日の方が多く、そして行つた先は何れも涼しい所だから、全くの避暑旅行をする事ができたので、

實に満足してゐる。郵船會社の提灯持ちをするわけではないが、この絶好の避暑的航路にあるな贅澤な船を通はせながら、それを利用する人の少いのを驚いたのである。尤もこの間に困つたことが二つあつた。一つは、往船に毎日時間がつまるので努めて早起をしても、なかなか朝飯時刻に間に合はないで困つた。然しその代りに復航には毎日日が長くなつてゐるので誠にのんびりできたからこれは差引になる。今一つ困つたことは何分圓價下落で何をしても何を買つても、その代價を日本金に換算すると勿體なくて手が出ないこと。但しこれでもないかと云へる。といふのはつまり金を遣はなかつたからである。

バンフとはどんな處かとよく問はれるが、少くとも英帝國の漫遊者にしてバンフを知らない人はない。ことほど左様にバンフは、廣く知れ渡つた名所である。北米大陸を縦斷するロッキーマウンテンの眞中海上五千尺の高さにあつて所謂山紫水明、大氣清涼の避暑地である。ロッキーマウンテンはその名の如く山骨稜々たる無数の峰を列ねた山脈である。バンフの驛に下りれば右にも左にも一直線に碧落と迫るといつたやうな、思ひ切つたアウト・ラインの峻峰が林立してゐるのを見ることが出来る。秋晴の一點の雲なき青空に彼の山々を見渡した印象は一生涯忘れられないと思ふ。さてこの五千尺の高地は、谷間に相違ないが何分全體の規模が大きい

から、その谷間に莫大な森林原野があり、湖水があり、川があり、川中島がある。この土地にカナダ太平洋鐵道會社が九百萬ドルを投じたといふ大ホテルがある。夏だけ開業するのであるけれども、建物は堂々たる城廓の趣を具へ、高さ九階、室數一千位ある。お手のものに鐵道切符賣捌所は申すまでもなく、郵便局、電信局、銀行迄揃つてゐて、何もかもホテルの中で用が足りる。こゝへ來て馬に乗つたり、山に登つたり、自動車やドライブしたり、ゴルフをやつたりして、ホリデイを過す所の連中が英帝國の各地並に合衆國からやつて來る。山にはイギリスの山岳界の有名な人々の名をそのまゝとつて命名してゐる。

太平洋會議は今更説明する迄もなく太平洋に重大利害關係を有する諸國の政治家、實業家、學者達が集まつて主として極東問題を研究する會議である。英米その他の人々にとつては東洋研究會であり、日本、支那の會員にとつては各自の國情發表會である。今回の會議の主題は「太平洋における經濟的衝突とその統制」といふのであつて、その他に各國における教育——といつても學校教育ばかりでなく、新聞、雜誌、ラヂオ、活動寫眞等の輿論構成における勢力に關し討論が行はれた。この討論のやり方が面白い。それはラウンドテーブルと稱するが、つまり日本で流行の座談會をやる組織にしたものである。だから會議に参加した國の

數は十ヶ國、その他に國際聯盟及び國際勞働局の代表も加つて人數合計百五十人程あつたが、討論をする時は二三十人の小さいグループに分れてしまひ、質問應答が便利にできる。そして參考資料は豫め各國において編纂印刷して會員全部に配布されるから短い時間に味のある討論ができるのである。

面白い經驗二つ

會議は二週間にわたつて行はれたが、その間、會議以外で面白い經驗が二つあつた。一つはバファロー即ち野牛の丸焼を食つたこと、今一つはカナダの酒を飲んだこと。

カナダの貨幣には野牛の繪がついてゐる程カナダは野牛の多い國である。少くとも開墾の行はれる前にはさうであつた。そこでカナダの會員は外國から來た私共お客様を接待するといふので一日アメリカ・インディアンの競馬に招待してくれた。その時の御馳走が野牛の丸焼である。地面へ廣さ二坪、深さ一丈位の穴を掘つて、その中に丸太を薪に使つて大きな火を燃す。それから野牛の頭や脚をとつてしまつたものに太い鐵の棒を通し、右の穴の中へ吊

して十何時間グル／＼廻轉させる。かくの如くしてでき上つた丸焼を片端から大きな庖丁で切つて出すのである。一寸ロースト・ビーフに野趣をたゞよはせた味がする。

カナダのホテルでは酒場以外食堂でも自宅でも酒を賣ることができない。然し客が自ら自宅へ持ち込む分は差支へないといふ。そこで一日町へ散歩したついでにウイスキーを買つてみた。外から見ると何商賣かわからないやうな構への家がある。その扉を押して中へ入ると各國の芳醇綺羅星の如く並んでゐる。そこで一罇を要求すると先づ以つて許可申込書にサインしなければならぬ。許可證の代價が五十セントでその他に高い酒代を納めてお拂下を受けるのである。店番の人にわけを聽いて見るとカナダではアメリカのやうに禁酒をしないで政府の專賣によつて節酒法を行つてゐるのである。それ故一つの町には一つしか販賣所がない。至る所バーがあつて飲酒を誘惑する様な弊害を除き、しかも飲みたい者には飲まして、これによつて政府が莫大なる收入を得るといふ仕組になつてゐるのださうだ。

ついでにアメリカのことをいふと、アメリカでは十四年前に斷然禁酒法を行つてみたが、實際は密賣が盛に行はれ、而もその方法は年を経るに従つて益々巧妙になり、組織的になり、今では金さへ出せばいくらでも飲み放題になつてしまつた。酒の密賣で飯を食ひ金を儲ける

ことが一つの重要な職業に發展してしまつた。これではいかんといふので禁酒を解き節酒法を以つてこれに代へんとしてゐるが、密賣者は大金を散じて禁酒法解禁反對運動をやり、更に密賣者から賄賂を貰つてゐる役人達も解禁には好意を寄せない。そのために解禁がなかなかできない。遂にこれが大統領の選挙にまで影響する一大政治問題となつた。結局輿論は禁酒法の弊害に懲りて今では同法撤廢の實現に近づいたわけである。人々はこれから大びらに一杯やつて不景氣を吹き飛ばさうとしてゐるらしい。

シヤトルの二週間

太平洋會議が終つてから平安丸の出るまでに、十二、三日の餘日があつた。その日を何に暮さうかといふことが旅行計畫の最重要問題となつたが東部へ行つたりしても汽車の中で時を費すことが餘りに多いと思つたから、私に最も不精なプランとしてバンブから直ちにシヤトルに引返し、そこで滞在してしまつた。シヤトルには敷地七十萬坪を有する州立大學がある。この大學の近くに宿をとり、毎日圖書館へ行つて古新聞を讀んでゐた。アメリカの近情

殊に世界の經濟的一實驗と考へられる所の「産業復興法」の實施狀態を觀察しようとしたのである。

「産業復興法」は National Industry Recovery Act であつて、これを略して N R A 或は N I R A と稱し、一方労働者の組合組織を公認し、賃銀引上を行ふと同時に、資本家側にはカルテルを組織せしめ、價格協定を公認することとし、これによつてアメリカの全産業活動を一つの國民的大計畫のうちに取入れようとする政策であつて、現在の不景氣挽回策たる以上に計畫經濟の原理を實現せんとする企てであるから、或意味においては資本主義の修正、従つて經濟組織の大變革とも見られる。吾々經濟學徒にとつてはソヴェエットの計畫經濟と同じく見逃すことの出来ない一大實驗である。

兎も角アメリカ政府はこの N R A 實施の宣傳に全力を盡し、それに市町村の當局者や新聞や婦人團體などが加はつて太鼓を叩いてゐる。N R A に參加した會社・商店はその窓に青い鷲の繪を書いたビラを貼ることが出来る。このビラには We do our part 即ち「當店はこの愛國運動に參加した」といふ文句が入れてある。だからそのビラを貼らないものは愛國者でないといふことになつてしまふ。

併しながらシャトルには同窓の友人が多いから御馳走になつて密賣の酒を飲んだり、自動車を借りてドライブしたりすることもあつた。或日同地で有名なタム富士即ちマウント・レニア國立公園に遊んだ。レニアは一萬四千尺の休火山で、殊に緯度の高い所にあるから夏でも雪が全山を蔽ひ、グレーシアが裾野に延びてゐる。シャトルからドライブ三時間で山麓、といつても六千尺位の高地に達する。その邊は高山植物の豊富な所で恰も百花繚亂の好時節に際し、非常によいピクニックが出来た。概して合衆國の北西地方及びカナダの海岸は山海の風光秀で氣候のよい所であつて、地方全部が公園のやうに美しい。あのやうな土地を先取特權で占領してしまつた人種は如何にも幸福である。これに反して世界の産業革命に遅ればせとなり、移民禁止を受けてゐる我々東洋人は不幸である。私は毎朝憤慨しながら名物の旨いメロンを食り味つたのである。

盛な自動車の利用

アメリカへ行つた人が誰でもいふことであるが、自動車の利用の盛なことは驚かざるを得

ない。一億二千萬人の人口に對し三千萬臺の自動車がある。自動車を持つことは日本で電話を持つよりも遙かにたやすいので、サラリーマンでも職工でも月賦で自動車を買つてゐる。また古自動車の市が諸所にあつて百五十ドル乃至五百ドル位の正札付で賣買されるやうになつてゐる。恰も丸の内の瀬戸物市の趣がある。

この自動車の利用が社會生活に及ぼす影響の一端を見るに家族總出の旅行は極めて手軽にできるのである。レニア山へ行つて見たのであるが、車の中へ毛布、着換、石油コンロ、食料品、子供、お襦袢等々を一切合切詰め込んで夫婦交代にハンドルを廻して百マイルでも二百マイルでも走つてしまふ。行つた先で「林間紅葉を焚いて」といつたやうな趣味が彼等にわかるわけではないが、兎に角林野のうちに臺所を急設して一家團樂の食事をとる。亭主が魚を釣つて來れば妻君が茶を沸かす。子供等は愉快にそこら中を駆け廻る。そのみならず、マウント・レニアのやうな客の多い所にはキャビンと稱して小さな小屋を數多く設け、それを日貸するやうになつてゐるから、一家族の旅行者はそこへ泊つて安上りに自炊する便宜もある。そこで彼の自動車なるものは家庭圓滿の機關になると私は結論したのである。少くとも夫婦喧嘩のない時はさうだと確信する。

自動車の今一つの影響は鐵道との競争である。これはすでに日本でも現はれつゝある現象だが、アメリカでは殊に痛切に感ぜられるので、單純な旅行者の眼にも明らかに映つて來る。前記のやうな調子で鐵道には遠足のお客がなくなつてしまつた。そのみならず乗合自動車も非常に發達して町から町への旅客の交通は大部分それによることとなつた。ステエヂと稱する大型のバスが定期に運轉されてコンクリート舗裝のハイウェイを埃を上げずに滑走する。私はバンクーヴァーからシャトルまで行くのにこのステエヂを試みたが、道の兩側を見ながら走れるので、汽車よりも便利だと思つた。實にこれは經濟史上の一大變化となるであらう。

(世界知識・昭和八年十一月)

太平洋會議の所感

唯今御紹介戴きました通り先般ヨセミテに開かれました第六回太平洋會議に出席しましたので、その會議の所感を申上げるのでありますが、太平洋會議については所々で報告演説がありましたので、多數の方は既にお聞きになつて居るのぢやないかと思ふのであります。それで時間も無い事でありますから極く簡単に申上げ度いと思ひます。

會議のありました所は、ヨセミテの國立公園でありました。所謂ヨセミテ溪谷の兩岸は非常に高い絶壁になつてゐて、その底に大森林がある。絶壁は二千尺か、三千尺か高さがあるので、雄大な景色であります。但し涼しい所と思つて行つた所が案外暑いので閉口致しました。殊に森の中の小屋に二週間も入つたのでありますから、私なんか何とも思ひませんが、贅澤な人は相當困られたやうであります。さう云ふ譯で會議は極く質素にやるのであります。來た人は相當顔觸れが揃つて居つた様に思ひました。參加して居る國は十ヶ國、何れも

太平洋に面してゐる國であります。加奈陀、亞米利加、新西蘭、濠洲、それから蘭領印度支那、佛領印度支那、英吉利（是は香港新嘉坡をもつてゐる）支那、日本、露西亞の十ヶ國、ハワイを加へて十一ヶ國といふこともあります。露西亞は今年初めて加はりました。出席者の數の多い國は勿論亞米利加が一番ですが、三十人位参りました。加奈陀も相當参りました。日本からは十五人でございます。英吉利からも支那からも相當参りました。例によりまして何も纏つた決議をしないと云ふ事は無く、たゞ組織的の座談會をやりました。會議の出席者は段々有力な人が来るやうになつて参りました。其一つ二つを申上げて見ますと英吉利ではアレキサンダーと云ふ前に海軍大臣をした人、ロード・スネルと云ふ労働黨出身の貴族で、貴族院に於ける労働黨の首領、其から支那通と綿業通の人が二、三人。亞米利加ではニュートン・ベーカーと云ふ大戰の時に陸軍大臣をして居た人が來ました。其から有力な極東通の新聞記者、大學教授も多數参りました。支那は何時もさうであります。アメリカで教育を受けた若い大學教授が大勢來ました。團長は北京大學の胡適氏であります。あちらでは大學教授が政治上中々有力で政府筋とも一脈の連絡があるのではないかと思ひます。日本から参りました顔觸れは新聞で御存知の通りであります。太平洋問題調査會は國際協會と云ふもの

に合併して居りますので、其國際協會の副會長の山川端夫博士が團長となり、其から芳澤前外相、支那通の坂西利八郎中將、それに大學關係の私共、銀行方面で如水會員の大島堅造君、綿業方面で同じく如水會員の濱野恭平君、滿鐵で長修親義君。私も加へて如水會員は四人出ました。

一體太平洋會議の目的は太平洋關係の色々な大きな問題を取上げて事實を本として長い眼で見ると冷靜な態度で事實を研究し合ふと云ふのであります。太平洋問題調査會は各國に常設されて居つて絶えず研究をつゞけて居る。其研究の結果を持寄つて、お互ひに事情を話し合ひ、當局者の参考にしようと思ふので本來は學術的な會であります。今日のやうに太平洋特に極東において國際關係の切迫した時代に中々さうはまゐりません。今申す通り、政治方面に關係の深い人が出て参り、其處へ以て來て新聞記者が加はると宣傳力も相當にあります。どうしても當面の問題をどうするかと云ふ事が話の主題になつて來るのでございます。さう云ふ風になつて來ますと實は私共見た様な者は一向役に立たないのですが、しかし此會議に行く前に、さう云ふ風な事になりはしないかと云ふ感じもしましたものですから、當面の問題たる支那なり、滿洲なり、其他に於ける種々の問題を調べて参りました。外の國でも同様

であつたかと思ふのであります。

今回の討議の問題は、各國の國內政策及び外交政策が、太平洋の國際關係にどんな影響を持つか、と云ふ事でありました。之を五段に分けてやつたのであります。先づ支那中心、亞米利加中心、日本中心、露西亞中心の四段に分けて討議を進め、最後に總括的な話題を取扱ふ事になつてゐました。所が何處の國を中心として話して見ても、どうも日本の方に鋒先が向いて來るので、結局この會議は日本の發展に關する問題、日本の發展から生じて來る所の色々な問題を討議した様な形になつてしまつたのである。或は日本が被告の様に取扱はれて居るといふ説も傳はつて居りますが、必ずしもさうでないと思ふ、外の國と雖も隨分慮められて居る。併し日本は虐められる問題が一番多い。勿論虐められ放しでないので、夫々しつべ返しはして來ましたが、口先きで相手をやつつけて見ても充分納得させることの出來ない問題も中であつたやうに考へるのです。其處で日本の發展と申すものには、云ふ迄もなく通商上の發展と、政治上の發展、端的に云へば武力發展とがあります。斯う云ふ二通りの發展がある。所が外國人の或ものはこの兩方を結び付けて考へてゐました。近頃、日本には一種獨特の國民思想が充滿して居る。それが東洋的な王道主義であつて、之を本にして總ての政

策を立てて居る。東洋的な政治を行ふため歐羅巴風のバリリヤメンタリズムとか、デモクラシーとか、リベラリズム、ソシアリズム、斯う云ふものは悉く排斥しようとする。單にそれを日本の國內から排斥するばかりでなく、東洋全體に於て排斥する、西洋文明の勢力を東洋から放逐すると云ふ事が、即ち天から受けた日本の使命であると云ふ風に考へて居る。其が經濟上いゝか、悪いかと云ふ事は寧ろ第二の問題として、第一には東洋文明を擁護すると云ふ考で以つて、總てやつて居る。これが現在日本のルーラースの一貫した方針である。産業及通商上の發展と云ふのも是亦畢竟はさう云ふ所から割出されて居る。日本には統一した發展のプログラムと云ふものがある、と云ふ風な考へ方をするのでありまして、これはイギリス側のベイバーには明かにあります。さうなりますと日本に對する攻撃も今迄のソシャル・ダンピングとか、日本の生活程度が低いとか云ふ事を超越して、一種の黃禍論になると思ひます。日本には何か東洋的なミステリアスなものがあるといふ事は、彼等の頭の底には多少どつかに潜んで居るのぢやないかと思ひますが、例へばマホメットが、右に劍、左にコーランを持つて、亞細亞から亞米利加を征服したと云ふ、さう云ふ運動が日本において起つて來たのではないかと云ふ人種の疑惑にやがては陥るのである。是はとんでもない事だと思ひま

して、日本から行つた同僚に話をするとか皆同感でありましたので、この點は充分論破に力めました。併し十分に彼等をコンヴィンスさせる事が出来たかどうか、と云ふ事は尙疑つて居る次第であります。其は今云つた様な一つの宗教的な國民運動が日本國內に擴がつて來て、其の政府の政策を支配して居ると云ふ所まで極端に考へない迄も、兎に角、結果に於て日本の最も有力なる支配階級と云ふものが、一種の日本國の使命と云ふものを考へて發展するならば、日本の通商上の發展に對して幾分外國が讓歩したところでその運動は止まるものではない。日本が通商上の利益を得れば、その力は悉く政治的に利用されるのだと云ふ考へ方になるのであります。尤も會議の初めと終りは、大部空氣が違つて來た。一番初めに英吉利の團長のアレキサンダーと云ふ人が演説をした時には、はつきりと、日本の通商發展と云ふものは、日本の國勢、即ち人口の激増から考へて當然な事であるけれども、併し通商發展に依つて日本の國民生活が安定し改善されるならいゝが、其は却つて軍事費豫算を膨脹させるに過ぎぬといつたやうな攻撃的な事を申しましたが、一番終りに同じ人が演説した時には、非常に調子が違つて來て、東洋の事に就て多く學ぶ所があつたと云つて、非常に感謝的な事を申ししたのであります。けれども、先刻申上げた様に、其點に就て充分先方をコンヴィンスさ

せる事は困難であつたかと思ふ。今日では滿洲に就て、彼是云ふ者は殆んどありません。是れもう既に出來上つたものであると考へて居る様であります。しかし滿洲から今度は北支那に出ようとしてゐるが、次には北支那からどこ迄進出するか、更に揚子江に行き、香港、新嘉坡或は蘭領印度迄行くのではないかと非常に心配して居る人があるのであります。これは徒らに各國をして日本に對し警戒せしむる原因となるやうに思はれます。

次に支那に就ての一般外國人の觀察がどうなつてゐるかを申上げます。支那は由來とまりの悪い國であるが、所謂國民政府は果して支那を統一した國家になし得るや否やといふ問題であります。會議に行つた人々の考へを聞いて見ますと大體斯う云ふ事だと思ふ。支那の形勢は、此四五年間に餘つ程變つて來て、著しく國民統一と云ふ方向に發展しつゝある。と云ふのは一つは技術上の進歩が原因となつてゐる。先づ飛行機が用ひられて居る。亞米利加之資本で、亞米利加之技術で以て、支那全國に航空路を開いて居る。現に此飛行機で以て一日の中に南京から、北京へでも廣東へでも充分に旅行する事が出来る様になつたといふ事は、中央政府の力を非常に強めるものである。地方軍閥は飛行機を有つて居ないし、持つて居ても十分の働きが出来ない。南京政府だけが航空會社を持つて居るのであります。そこで

例へば西南地方に問題が起つても蔣介石が自ら飛んで行つて井附けて來られる。飛行機がある爲に、さう云ふ事は出来るのである。これは昔とは非常にちがふ。其から又一時共産黨が揚子江沿岸に大きな領地を取つて政府を立てて居つた。その共産黨を討伐する爲に南京政府では、澤山の道路を拵へ、自動車の通れる様にした。それが動機となつて近年道路が非常に發達して來た。是も亦中央政府を有力ならしめ、支那統一を便利にする一つの力である。第三には水害であります。其水害の爲に無數の村が水に浸され、そして地方自治體が無力になり、中央政府の助けを求めた。それで水害が一つの契機になつて中央政府の力を強めた。其から又銀が急に高くなつて海外に流出した結果、支那も終に銀本位をやめて、日本などと同様の紙幣本位になつた。是が支那のやうな國においてうまく行くか、行かないかと云ふ事は隨分問題であると多くの人は疑つて居たが、兎に角、今迄のところでは爲替相場は相當の安定を得てゐる。そこで支那がマネージド・カレンシーになつたと云ふ事は、奥地の農村は別ですが、全國の都市に中央財閥の勢力が及ぶ事を意味する。是も支那の統一に向ふ所の一つの要素である。其からして最後には心理的影響であります。日本が押し寄せて來る、日本が恐い、と云ふ爲に國民主義が刺戟されて、従つて國內の統一を來たす。現に共産黨は、

近頃國內の金持を倒す前に先づ日本の侵略を防がなければならぬと云ふ事で方針を變へて、南京政府の國民黨と協力して行くこと云ふ事を云ひ出した。かくの如く近年の支那には國民的統一に都合のいゝ事件が段々現はれて來ると云ふ事は、一般外國人が見てゐるやうに考へます。私として支那のことは一向不案内であります。今度の會で外國の極東通の話を聞いて居る間に成程さう云ふ風になつて來たのかと云ふ感じを持つたのであります。近頃支那へ行つたアメリカの視察團なども支那にヴァスト・チェンヂが起つたと申して居る。つまり自動車を通つたり飛行機が通つたりして、そのため政治的に統一し、經濟的にも進歩の基礎が出來ると見てゐるやうであります。斯う云ふ事になると蔣介石も偉いだらうけれども、假りに蔣介石といふ個人が倒れても、中央政府に都合のいゝ條件があるのでありますから、此事は支那の歴史の上で相當重要な事ではあるまいかと考へついたのであります。アメリカへ行つて來て支那を語るのには、迂遠なことかも知りませんが、こゝには外國人の支那觀がこんな方向になつてゐるやうに思はれましたので一寸申上げるのであります。尙日英、日蘭、日濠、日米の通商問題についても、あちらの人々の論じあひましたが時間がありませんから省略させて頂きます、御清聽を得まして有がたう存じます。

(如水會報・昭和十一年十一月)

アメリカを覗く

今年の夏は太平洋會議へ出席したので、一寸アメリカをのぞいて来た。往復の船の中を入
れて僅二ヶ月にも足りない旅行であるから全く覗いただけのことだが、自分には大いにめづ
らしく感じたこともあつた。

第一サンフランシスコへ入港するとき大きな橋が二つ出来かゝつてゐるのに驚いた。桑
港の市は小さい半島の上に築かれてゐるので、灣の向岸にオークランド及びバークレーとい
ふ二つの市が出来て桑港の發展を補つてゐる。而して現在ではこの灣を渡つての交通は大き
な渡し舟がやつてゐる。それは幾十臺の自動車に乗せて往復する大きな汽船だ。

然るにこの渡し舟ではまだるいといふので、桑港オークランドを結ぶ橋梁を作つて、この
十一月十二日に開橋式をやることになつた。長さ六哩、自動車は往復各三つづゝ並んで走れ
るので先づこれは世界一だらうと、例のアメリカ流の自慢の種になつてゐる。而も感心なこ

とはこの橋の建築工事に三年しかかゝつてゐない。東京の大建築新議事堂は見事なものだが、
建築には十七年かゝつたさうだ。

然るに桑港は一個の橋では満足しないで、更に一つの橋をゴールデン・ゲイトの入口にか
けんとしてゐる。これは工事を始めたばかりで、今橋脚を築いてゐる。この方は市と市の連
絡のためでなく、太平洋岸を北から南へ走る國道の一部になるのだ。アメリカで總人口四人
に付一個の自動車があることはよく知られてゐるが、それだけの無数の自動車を使ふに鋪裝
道路の必要なことは申すまでもない。カルフォルニア邊でも縦横に國道州道が出来て、それ
ぞれ番號がつけてあつて、東西は偶數とか南北は奇數とかになつてゐる。

旅行者はその番號を書入れた地圖さへ持つてゐれば迷ふことはない。速力は一時間四十マ
イル位平氣で出せるから實に便利だ。一日に四百マイル、東海道でいへば東京から名古屋へ
往復位のことば屢々やるらしい。だから近年では近距離は自動車、遠距離は飛行機を使ふや
うなつて鐵道は困つてゐる。

どこの家でも自動車はもつてゐる。新婚の人はもとより、大學生でも稍裕かなものは一臺

づもつてゐる。けれども女中を使ふことは中々出来ない。大學教授の俸給は日本の何層倍かになるけれども、女中を雇つてゐる人は少く、女中を雇ふと宿舍と食費で毎月百ドル位かかる。さうして時間外には働かず、友達が來ると主人の客間をつかはせろといふ。つまり一體に人手が足りないから使はれる方が高くとまることになるのだ。

中産の夫人達は自分で日用品市場へ出かける（自分で自動車を運轉して）のはもとよりのこと、料理も掃除も洗濯もやる。通ひの女中といふのが手傳ひに來る。子供のある家などは中々骨が折れる。産兒制限を考へるのも無理はない。その代り家庭用の機械は實によく備つてゐて炊事も風呂を立てるのも簡單なものだ。トーストもパンを切つて機械の中へ投込んでおけばやけた時にボンと飛出して來る。新聞を讀んでゐても黒こげになる心配はない。

或大學の先生の家で生垣を刈る道具を見たが、それは電氣バリカンと同じ仕掛のものであつた。彼曰く「植木屋を雇ふと一日五弗取られます。僕がこの道具を使つてたまに一時間位づゝ働いた方が餘程安い。道具の代金は二十五弗だから植木屋の五日分です」と。アメリカの亭主たるまた難しかなだ。

太平洋一つ隔てただけて、こんな別世界のあることは考へて見ると不思議な話だ。極東文

明と極西文明の距離は相當遠い。

次にはアメリカの農業が大經營になつてゐるのに驚いた。カルフォルニアではコルボレイション・ファームと稱して會社組織の農村が澤山出來てゐる。三千エイカア即ち一千二百町歩の桃畑などがある。従來工業は大經營になるが農業は本來家族的のものだ。一家族の勞働を以て經營し得る大きさでなければならぬ。といふのが經濟學者の通説であつて、英國の大農は例外的なものだとされてゐたがアメリカの大農は更にまた格別だ。

日本人では國府田敬三郎氏がカルフォルニア大平原のロス・バロスといふ土地に大農場を開き七千エイカアの畑を經營してゐる。作物は米と棉花である。畑を鋤くのは勿論機械でやるが、牛馬は一切用ひず、すべて自動車になつてゐる。練兵場のやうな廣いところで一人の男が鋤自動車を動かすのを見ると、たゞ土煙りの立つのが見える。刈入れも同様で自動車の刈入れ機械が取つてある。米は水田に作つてあるから、水を乾してから刈入機械を入れるのだらう。

面白いのは種子蒔きに飛行機を使ふことで、此話は豫て聞いてはゐるが、それが今では一

般的になつてゐるのだ。飛行機で種蒔きをするのが一つの商賣になつて了つて、季節になると農場でそれを頼むといふことだ。國府田氏の話に、水田の場合は多少困難かと思つたが、一旦水を入れて土を濕らしてから種子を蒔けば立派に發芽するさうだ。それから見ると日本の苗代田植の方法は時代離れしてゐる。かほどかけちがつた米作が太平洋の兩岸に行はれて、兎に角兩方が立つて行くのは不思議なものだ。

アメリカの大農業はすべて資本的企業になつてゐる。街道の側に地代格安、運送便利、水料低廉などとかいた廣告板が立つてゐる。蓋し地主が農業企業者を招くところの廣告である。而して農業企業者は今年は何某の土地を借りて何の何物を作らうといつたやうに、一年の計畫を立てるのだ。アメリカでもカルフォルニアの大平原は格別であるかも知れないが、農業の資本主義的になつてゐるのは意外のことであつた。

そこで労働者はどうして雇ふかといふに、必ずしも土地に定住したものたるを要しない。メキシコ人、フィリッピン人、イタリヤ人等の自由労働者をどこからでも雇つて来る。農場には住宅はないから彼等はテント住ひで季節を過す。季節が終ればまた他地方へ行つてしま

ふ。即ち流動自在の労働力があるのだ。

幾百年來の村があつて、村人は先祖の代から傳はつた土地を所有し、共同の村社を祀るなどの味は藥にしたくもない。全く給付と反對給付の世界になつてゐる。

しかしカルフォルニアでも小規模の家族的農業の餘地はある。ターロックといふ日本人の村で葡萄を作つてゐるが、長くその地に居付いた人達が各戸に上等の葡萄を作り、共同荷造場を設け、組合のレットルを張つて遠方の販賣店へ卸してゐるのを見せてもらつた。これならばまづ北海道あたりでも見られる風景だ。

カルフォルニアにおける大農小農の並立を人種別、作物別、地方別等に調査して見たら面白いであらう。私はのぞきに行つただけだから詳しいことはわからないが、或はそのやうな研究が出来てゐるかも知れない。

何といつてもカルフォルニアは世界の極西で、日本は世界の極東だから風俗人情が全く違ふ。その非常に違つた國と國とが太平洋を隔てて向ひあつてゐるのだ。而して今は汽船だけでなく、飛行機で交通するのだ。人類の歴史の問題として考へさせられるではないか。

アメリカの西部へ渡つた日本人が誰でも問題にするのはカルフォルニア、オレゴン、ワシントン、の三州にある十萬の同胞特に所謂二世のことである。これは一寸のぞいて来たものが彼はいつても仕方のないほどの大問題だが、その一端に國語の問題がある。

或時代にはアメリカで住む以上アメリカナイズするのが當然で、言語も英語さへ覚えればよいといつたやうな説が行はれたけれども日本人はやはり日本人だから日本語が出来なければ不自由この上ない事であつて先づ以つて就職にも差支へるといふ事實が現はれて来た。

そこで近頃は子供に日本語を教へるやうになつた。

桑港に金門學園といふのがあつて、數百人の日本人の子供に日本語を教へてゐる。校長の鈴木氏夫妻が熱心にやつて居られるので、同氏のお話を非常に面白く聞いた。子供は小學校からハイスクールを終るまで、毎日一時間位アメリカの公立學校の放課後にこゝへ通つて日本語を習ふ。

教科書は日本の教材では判らないから、あちらの教材を日本語でかいたものを使ふ。

しかし生徒は案外苦勞なしに日本文を讀み習ふので、十六七歳になると謡曲の鉢の木など

を草書の謠本のまゝで讀みこなすやうになる。謡曲のしんみりした気分はよくわからぬとしても、兎に角讀んで意味を取る。それは實際授業を參觀して見て實に感心したことである。

子供達は普通の日課を英語で教へられた上に、複雑極まる日本語を教へられるのだから過勞になりはしないかといふと、さうでない。日本にゐる子供より負擔が却て軽いといふ。

その次第はあちらの國では入學試験といふものがない。

ハイスクールは義務教育の一部になつてゐて、全部公立で授業料を取らず、教科書まで貸してくれる。その上學校及び學級の數は十分にしているから、八年の小學校を終つたものは必ず收容し得る。學校には多少優劣があつても、皆公立だから特に選擇する程のことはない。通學距離の近いところへ行くのである。ハイスクールを義務制にするには非常な地方費を出してゐるに相違ない。金持國とはいへよくやつたものだ。

大學も州立大學はアメリカ人に對し完全に開放せられ授業料は取らぬ事になつてゐる。日本人の二世も頗る多數入學してゐる。然るに、大學を卒業して社會に出るときに問題が生じ

る。大學では好成績でも、目色毛色が變つてゐる上に、風俗習慣も十分呑み込めない所があるから、あちらの會社などでは採用しない。日本の會社の支店でも本社と交渉ある仕事には使はれない。そこで前記の日本語修學の必要が痛感されるやうになつたのだ。二世にして日英兩語に通じ、演説も出來、文章もかけるやうになれば、よくその境遇を利用したといひ得よう。

しかしこの人達が母國の人情を完全に理解するまでには、人知れぬ苦勞をしなければなるまい。何といつても、世界の極東と極西の間には、文化の隔りがある。この隔りを橋渡しするのは容易なことでない。

二世は自分の一身の中にその矛盾をもつて生れて來たので、大なり小なり身を以てその橋渡しをしなければならぬ。それは困難な運命だが、その代り彼等の間に非凡な思想家があつて、この問題を考へぬいたらえらいものになるだらう。私は金門學園を參觀した日の夜、こんなことを考へたのである。

(東京朝日新聞・昭和十一年十二月二、三、四日)

滿洲・北支・中支の急行視察

私は今度滿洲を通つて、北京、天津、青島、上海、南京、漢口と旅行して來ました。僅か一月程の旅ですが、その程度に支那を歩いて來ただけで、彼是言つても餘り效能はないし早計に論斷する事は危険と思ひます。それに私のは耳學問で、實際に視たのは少いのです。

私としては、人間の養成即ち教育の問題を頭の中に置いて一般の狀勢を視て來たのですが、今後人間は大陸で幾らでも要ります。今まで支那向としては東亞同文書院が人を出してゐて、非常に良い仕事をしてゐます。それから、滿鐵——これは學校ではありませんが、從來當面の必要以上に人を養成してゐた。それが現在大いに役に立つてゐると思ひます。しかし一般に人間の養成といふ方面で、準備が不充分と思ひました。教育の方から言つても、又研究の方から言つても、今後やるべき仕事が非常に澤山ある。

日本の勢力範圍は恰度霸王樹のやうに擴まりつゝある。先づ内地を幹とすると、朝鮮は今

度行きませんでした。可なりよく幹に着いてゐます。満洲もその霸王樹の一つの瘤であるし、北支那と中支那、其處に又二つの瘤が出来て来た譯です。新しい瘤はまだ柔かで充分形をなしてゐないのは勿論です。其處でその瘤がそれぞれの問題を持つてゐるのですが、その問題を取扱ふ場合に、全體問題として考へなければならぬ。一つ一つの瘤を切りはなして考ふべきものではない。そのみならず世界中には日本の外にも霸王樹が幾つもあるのですから、舞臺を廣くして世界の事を眼中に置く人間でなければいけないと思ふのです。

×

満洲で當面してゐる問題は三大國策と言つてゐる事がそれです。即ち國境建設と産業開發と移民ですが、その中でも國境建設といふ事に中心があるのではないかと思ひます。治安は非常に良くなつて来て、國境建設に人が足りないと言ふので、山東の苦力を百萬人位入れると言つてゐます。元は支那人の入國を危険として制限してゐたのですが、今では人が足りないければ大いに入るといふやうに變つて來ました。それだけ治安が良くなつてゐると思ふのです。

國境建設と言ふのはどう云ふ事かと言ふと、河の向側の露西亞では種々と準備して兵隊を

置いてあるのです。満洲國で之に對抗するだけのものを拵へやうと言ふので、今道路の建設、鐵道の敷設、兵營の建築等をやつてゐる譯です。

産業としては昭和製鋼所を見ましたが、増設々々で大したものです。あれだけの製鐵所を發展させるには、それに相應する石炭がなければならぬので、それは實際見に行きませんでしたが、これも非常な飛躍を遂げてゐると想像します。

治安はよくなつたと言つても、曾て石家莊邊りで日本軍が少し苦戦したと云ふと、役所の使用人等が喜んだと云ふやうな事實はあります。満洲は獨立してゐると云つても、矢張り故郷は支那にあるので、満洲問題は、支那と一緒に考へなければならぬと思ひます。

×

北支で一番餘計聞かされたのは通貨の問題です。それから棉花に就ての話を大分聞きまして、何れも巧く行つてはゐないと思ひます。

北京は戦争なしに日本軍が入城したし、外國人居留地等も無いので氣分がのんびりしてゐます。青島では日本の工場が全部焼き拂はれて了つたが今では半分程復興してゐます。それから漢口に至つては日本人街は全部焼き拂はれて了つたので、彼處にゐる日本人は歸つても

入るべき家がない。支那人の空家に這入つて、其處で百貨店を開いてゐる者もあれば、宿屋も經營してゐる者もあり、随分ごたついてゐます。上海は戦火に見舞はれた所などは未だ復興してゐませんが、中支振興會社の子會社が十五、六も出來てゐます。

支那は何と言つても農業國ですから、農民の生活を安定させるといふ事が非常に肝腎な問題で、結局、さうした方針が取られるやうになると思ひます。棉花と小麦が農民の生活安定と關聯して大きな問題となるべきだと思ひますが、これが必ずしも現在は巧く行つてゐないやうに思ひます。

通貨に就ても問題はあります。霸王樹の瘡と言つても、滿洲が一つの瘡になると云ふのと、北支那が一つの瘡になると云ふのとは違ふのではないかと思ひます。滿洲の方は地續きでありながら、經濟上、社會上から言へば、實は島のやうになつてゐるし、元々植民地であるのです。北支那は一つの單位ではなくて、寧ろ、中支那、南支那と非常に密接に續いた大きな社會ではないかと思ひます。従つて、北支だけを一つの區域として取扱はうとすれば無理が出來ます。しかし無理だからやつてならないともいへないので、その相當の力を用ひる必要があるのでせう。兎に角、支那四百餘州が一つの大きな社會だといふ事實だけは眼中におい

てかからねばなりませんまい。

x

支那の學校はまだ充分復興してゐません。大して見る程のものも出來てゐませんでした。今後の事を考へると、支那の一番優秀な青年を此方で教育するやうにして、これは多人數でなくて宜いので、眞面目に教育すると云ふことと、同時に日本の青年を支那で教育するやうにする必要を感じます。

それから此方の學校で支那に對する關心を昂めなければなりません。これには先生から變つて來なければならぬ。變つて來ると云ふのは、始終支那と云ふものを眼中に置いて物を考へるやうになつて來なければならぬと思ふのです。支那専門の講座を開く事も勿論必要でせうが、それだけではなく、例へば貨幣を論ずる時に支那の貨幣問題が這入つて來なければならぬし、勞働問題を研究するにしても、支那の勞働問題が這入つて來なければならぬ。支那専門の講座は私の學校では三十年前からあります。それを二講座、三講座と殖すのもよいが、それ以上に教授全體の視野を支那に擴げて行く事が肝腎だと思ひます。

斯う云ふ事を言へば、一朝一夕では困難だと思ふかも知れませんが、實際はそれ程長く掛

からない。教授は、何れも相當な見識を持つた人ですから、少しやれば出来る事です。青年を教育すると云ふと迂遠のやうに思へるかも知れませんが、十年経過すれば、相當の成績を擧げる事が出来る。何と申しても非常な大事件が起つたのですから、三年、五年と云ふやうな氣の短いことをいつてるやうでは駄目でせう。

抗日意識の強い大學生は現在、殆んど全部奥地其の他へ行つてしまつたのです。學生が何百人といふ隊をなして歩いて行つたと云ふ話もあります。何しろ蔣介石の國民主義と云ふものは、あの散漫な結合しか持つてゐない支那人を一つの國民に仕上げやうと言ふので、その爲には、何か敵がなければならぬ。それで日本を敵として、國民意識を盛にしたのだと思ふのです。其處に誤りがあつたと思ひます。

従つて教育も非常な排日教育をしてゐた譯で、この事は新しく私が言ふまでもない事です。今では北京で新教科書を作つて教育の再出發をやつてゐます。

研究の方から言つても、今まで日本には支那の古い事を研究する人はゐます。又その時々、政治上の變化を見てゐる人もゐます。

併し、支那の民族性とか支那の社會制度とか云ふものに、深く這入つて行つて、その上

現在の様な動きを観察すると云ふやうな人は足りないのではないかと思ひます。

私が今度、支那を廻つて私の方の學校を出た人に會ひました。それは少數ですが、支那の優秀な學生を面倒見てゐた結果が、随分能く現はれてゐると思ひ、示唆を得ました。

經濟商業の教育についても、あちらで日本人の學生を教へる専門學校や大學を建てゝ事も必要だらうと思ひます。東亞同文書院などは、卒業生が非常に要求されてゐる現状を見てもその事は首肯されるでせう。

支那人の學校で現在一番旨く行つてゐるのは北京の師範學校です。これは官費ですし、生徒もかなり收容されてゐます。昨年から始めてゐるのです。

嘗ての蔣介石政府のやりかたは、大分急進的で支那の國粹を破壊したやうな所があると思ひます。支那の昔の流儀で行けば、學生は教授に對して禮儀を重んずべきですが、彼處の先生に聞いてみると、學生が教授に對して友達のやうな口のきゝ方をしてゐたといふ事を言つてゐます。これはアメリカなら好いが、東洋ではいけないと思ひます。

x

何と言つても支那の廣い事に驚きました。上海から漢口まで四時間、大體揚子江の上を千

米位の所を飛んで来ると雄大といふ言葉は子供の頃から聞かされたし、自分でも随分使ひましたが、凡そあんなに雄大なものは、今迄に見たことがありません。

私の友人で崇明島を占領に行つた軍人があります。彼の島だけでは面積が日本の千葉縣程あり、人口が四十萬で、日本に留學したのも澤山ゐるさうです。さうして見ると、飛行機から見下ろしたあの揚子江流域の原野は大變なものだと思ひました。

矢張り農業國だから、農民の生活の安定と云ふことは餘程力を入れて然るべきではないかと思ふのです。勿論、地下資源の開發も必要でせうが、それ以上に必要なのではないかと思います。國は廣いが、農民は日本同様の小農で、しかも農法は幼稚で、收穫が少いから改良の餘地は頗る多い。然るに今では滿洲へ苦力を連れて行つても、食物が足りないのです。それを北支那で調辦すると言つても困難ですし、苦力の生活標準が低いと言つても、大豆だけで生活する事は出来ないのです。麥粉とか玉蜀黍の粉が必要なのです。

(文藝春秋現地報告・昭和十四年六月)